

# **ごみ減量・リサイクルについてのアンケート調査**

## **報 告 書**

令和3年（2021年）3月

東 海 市



# 目次

1	調査の概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査の概要	1
(3)	報告書の見方	1
2	アンケート・分析結果	3
I	あなた自身について	3
(1)	性別/年齢	3
(2)	居住地	6
(3)	職業	7
(4)	同居している世帯人数	9
(5)	住まいの種類	10
II	家庭のごみ出しの状況について	12
(1)	可燃ごみを集積場所に出す頻度	12
(2)	不燃ごみを集積場所に出す頻度	15
(3)	プラスチック製容器包装を集積場所に出す頻度	17
(4)	ペットボトルを集積場所に出す頻度	19
(5)	缶類を集積場所に出す頻度	21
(6)	可燃用指定袋の使用状況	23
(7)	1年間の可燃指定袋の購入枚数	26
(8)	不燃用指定袋の使用状況	29
(9)	資源用袋の使用状況	32
III	家庭のごみと資源の分別について	35
(1)	ごみと資源の出し方	35
(2)	ごみと資源の分別	39
(3)	ごみと資源の分別で感じている事	42
(4)	資源分別収集の常設場の利用状況	45
(5)	地域の資源分別収集拠点場の利用頻度	49
(6)	地域の資源集団回収の利用頻度	53
(7)	民間の資源回収ステーションの利用頻度	57
(8)	ごみに関する情報の入手方法	61
(9)	充実してほしいごみ情報の入手方法	64

IV	ごみの減量化・資源化について	67
(1)	ごみの減量とリサイクルを心がけているか	67
(2)	ごみの量を減らす余地	69
(3)	資源の量を増やす余地	71
(4)	食品ロスの認知	74
(5)	食品ロスで多いもの	77
(6)	食品を手つかずのまま廃棄した経験	80
(7)	食品を廃棄した理由	83
(8)	食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向	86
(9)	レジ袋を受け取る頻度の変化とレジ袋を受け取る頻度が減った理由	91
(10)	ごみ減量とリサイクルなどの取組状況と今後の意向	95
V	ごみ指定袋について	102
(1)	ごみ指定袋制度のあり方	102
(2)	制度を続けるとした理由	105
(3)	1枚目から有料化にするとした理由	107
VI	自由意見	109
	調査票	119



# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

本市では、平成 28 年度に第 3 次ごみ処理基本計画を見直し、新たに第 4 次ごみ処理基本計画（計画期間：平成 29 年度から令和 8 年度までの 10 年間）に基づき、ごみ減量や資源化の推進等に取り組んできました。この計画では、中間年にあたる令和 3 年度に見直しを行い、総合計画の中間見直しや国・県の循環型社会の形成に向けた取り組みの強化などとの整合を図るとされています。また、昨今では、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（SDGs）」への対応、食品ロスの問題やマイクロプラスチックの問題など、ごみの問題だけにとどまらない様々な課題も注目されており、これまで以上に市民の皆様と協力してごみの減量、リサイクルに向けた取り組みを推進していくことが求められています。

そこで、本調査は、第 4 次ごみ処理基本計画の見直しにあたっての基礎資料を得るために、ごみ排出や処理についての現状及び市民の意識を把握することを目的に実施したものです。

## (2) 調査の概要

本調査の概要は、以下に示すとおりです。

- 調査対象：東海市在住の 18 歳以上の方（令和 2 年 12 月 1 日現在の住民基本台帳）から無作為に抽出した 3,000 名
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査時期：令和 3 年 1 月 12 日～1 月 31 日
- 配布数：3,000 票
- 回収数：1,649 票
- 有効回収数：1,648 票
- 有効回収率：54.9%

## (3) 報告書の見方

- 図中の構成比（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも必ずしも合計は 100.0%にならない場合があります。
- クロス集計上の表側の「回答なし」は基本的に省略しています。
- 表、グラフ等の見出し及び文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。
- グラフ内の「n=〇〇」は、その回答母数を表わしています。
- 今回 1,648 人から回答を得ましたが、この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるのかは、アンケート調査結果に対する標本誤差を算出し、その誤差範囲により検討することができます。この標本誤差を算出すると、次の表のとおりで、最も誤差の大きい場合でも 2.39% となり、対象者全員に回答してもらった場合と比べて最高で±2.39%の誤差しか生じない結果となっています。

表 序-1 標本誤差

母集団	標本数	回答割合				
		10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
94,471	1,648	1.44	1.91	2.19	2.34	2.39

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

$M$  : 母集団  
 $n$  : 有効回収数  
 $p$  : 結果の比率  
 $k$  : 信頼度による定数  
 $\sigma$  : 標本誤差

※信頼度を95%とすると、 $k = 1.96$ となる。

## 2 アンケート・分析結果

### I あなた自身について

#### (1) 性別/年齢

問1 あなたの性別・年齢をお答えください。

- ◆「男性」と回答した人は56.4%、「女性」と回答した人は42.7%となっています。
- ◆「70歳以上」が22.5%と、高齢者層の割合が最も高くなっています。

#### 【年齢】

- 年齢別でみると、「男性」の割合は60歳代で62.3%と高くなっています（図1-1-1）。
- 居住地別にみると、全体では「70歳以上」が22.5%と最も高く、次いで「40歳～50歳未満」（以下、「40歳代」）が20.2%、「60歳～70歳未満」（以下、「60歳代」）が19.7%、「50歳～60歳未満」（以下、「50歳代」）が18.8%となっており、荒尾町と中ノ池については、70歳以上の高齢者が共に31.6%と高くなっています（図1-1-3）。

図1-1-1 年齢別「性別」

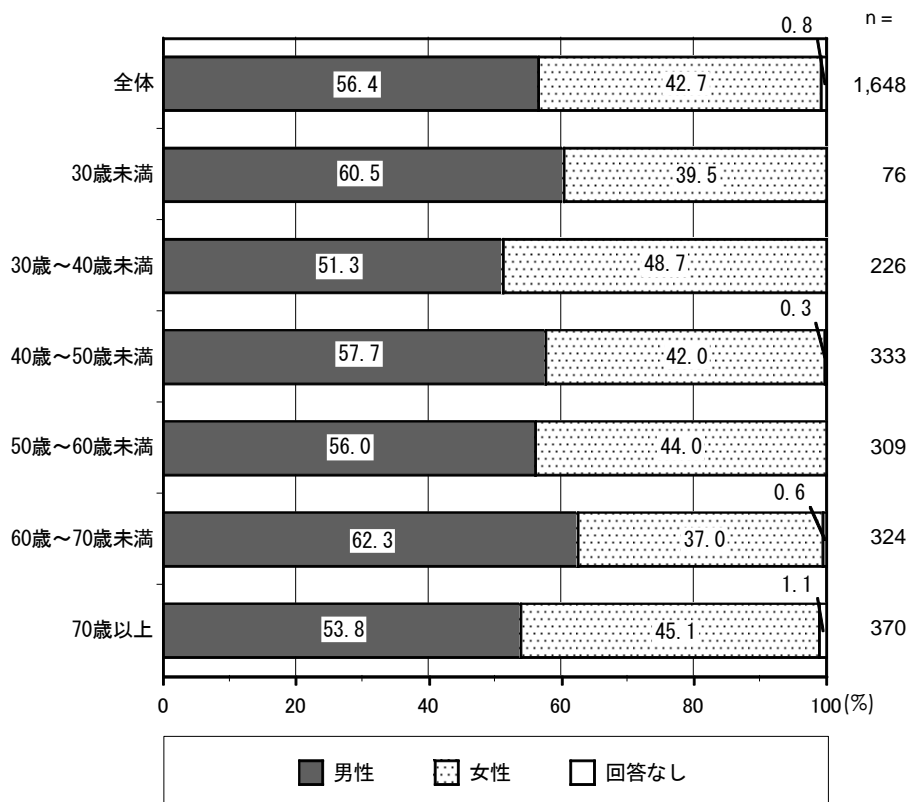


図 1-1-2 世帯人員別「性別」

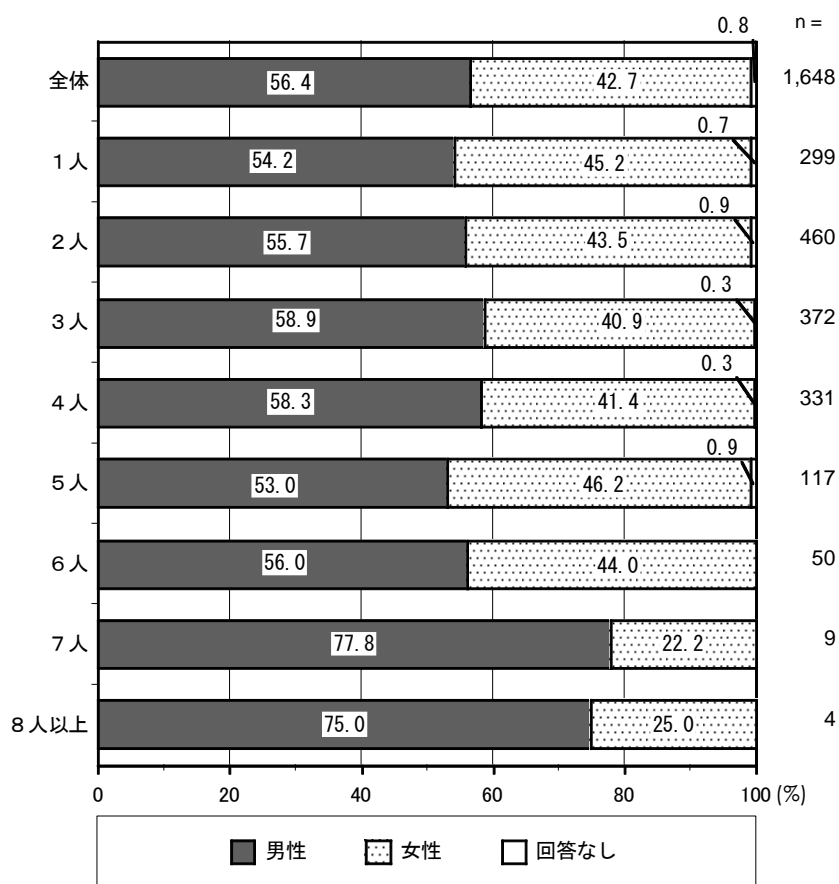
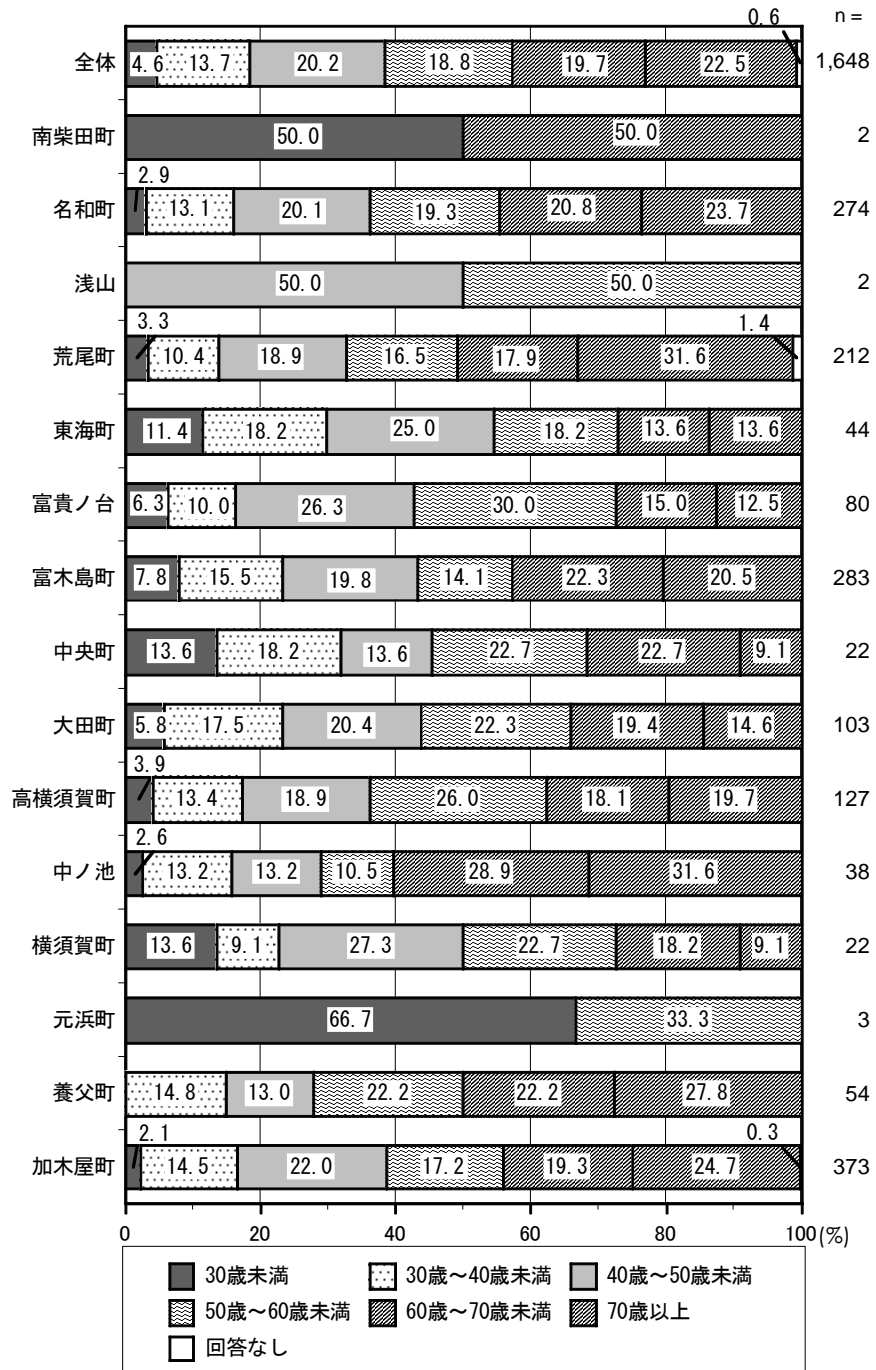


図 1-1-3 居住地別「年齢」



## (2) 居住地

問2 あなたのお住まいの地域をお答えください。

◆住まいの地域は、「加木屋町」の割合が22.6%と最も高く、次いで、「富木島町」、「名和町」、「荒尾町」の順になっています。

○住まいの地域については、「加木屋町」が22.6%と最も高い割合となっており、次いで「富木島町」(17.2%)、「名和町」(16.6%)、「荒尾町」(12.9%)と、概ね実際の人口数を表す結果になっています(図1-2-1)。

図1-2-1 「居住地」

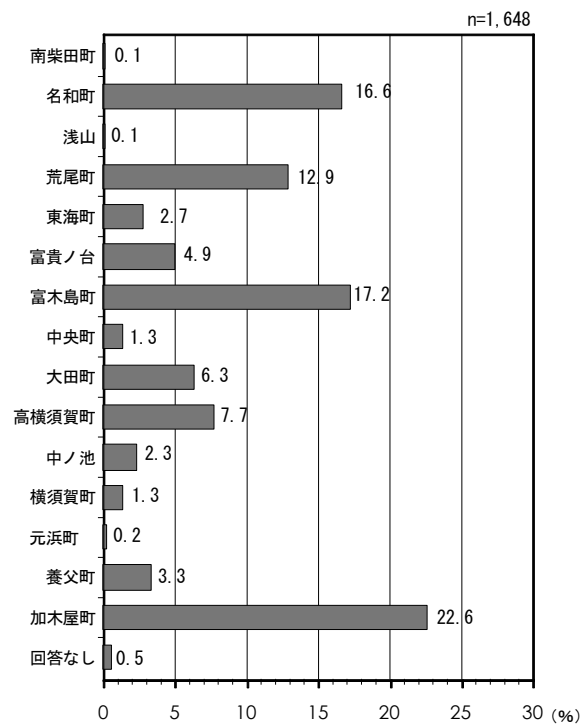
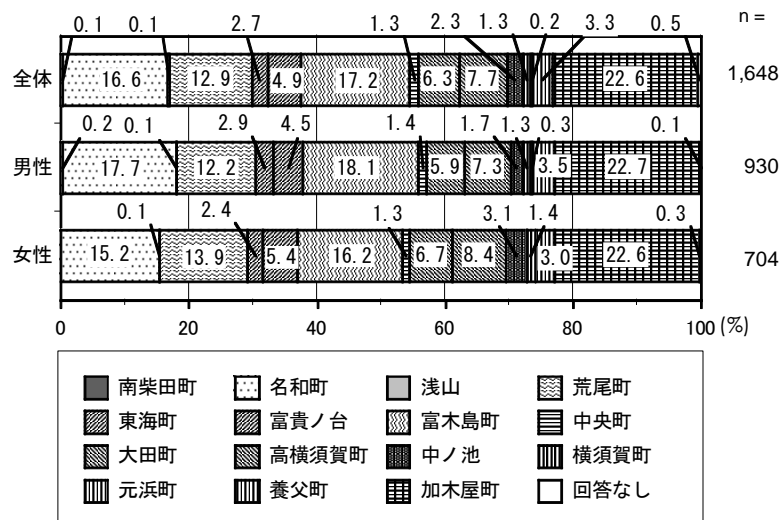


図1-2-2 性別「居住地」



### (3) 職業

問3 あなたの職業をお答えください。

◆職業は「会社員」が40.2%で最も割合が高くなっています。次いで「無職」(18.0%)、「パート・アルバイト」(14.9%)となっています。

- 職業は、「会社員」が40.2%で最も割合が高くなっています。次いで「無職」(18.0%)、「パート・アルバイト」(14.9%)となっています。
- 年齢別でみると、30歳未満から40歳代にかけての年齢層では「会社員」がいずれも6割を超えていますが、50歳代以降になると54.4%になり、60歳代や70歳以上になると25.0%、4.1%となり、年齢が高まるにつれて割合が低くなる傾向がみられます。そして、60歳代や70歳以上になると「無職」の割合が高くなっています(図1-3-2)。
- 世帯人員別でみると、1人世帯や2人世帯では、他の世帯人員に比べて「無職」がそれぞれ、23.4%、28.7%と高くなっています(図1-3-3)。

図1-3-1 性別「職業」

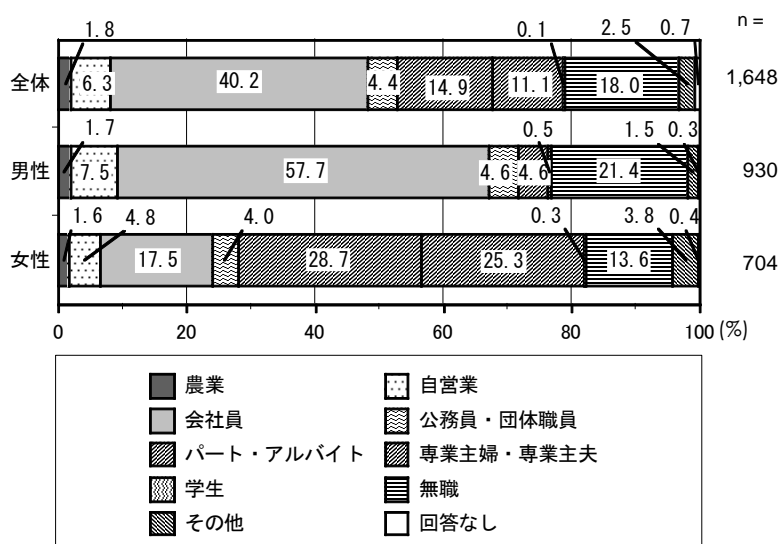


図 1-3-2 年齢別「職業」

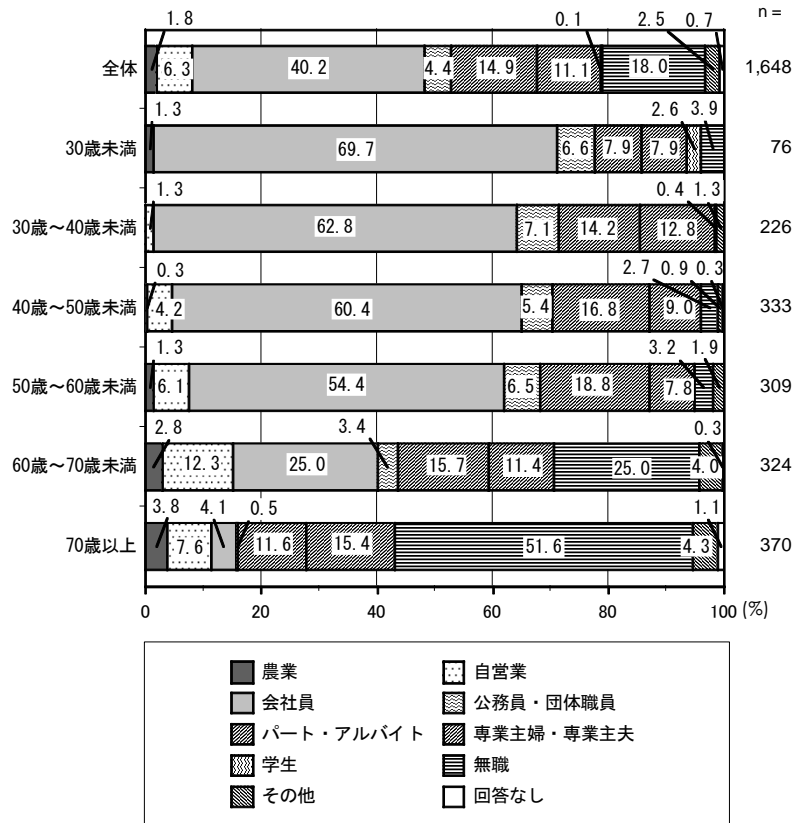
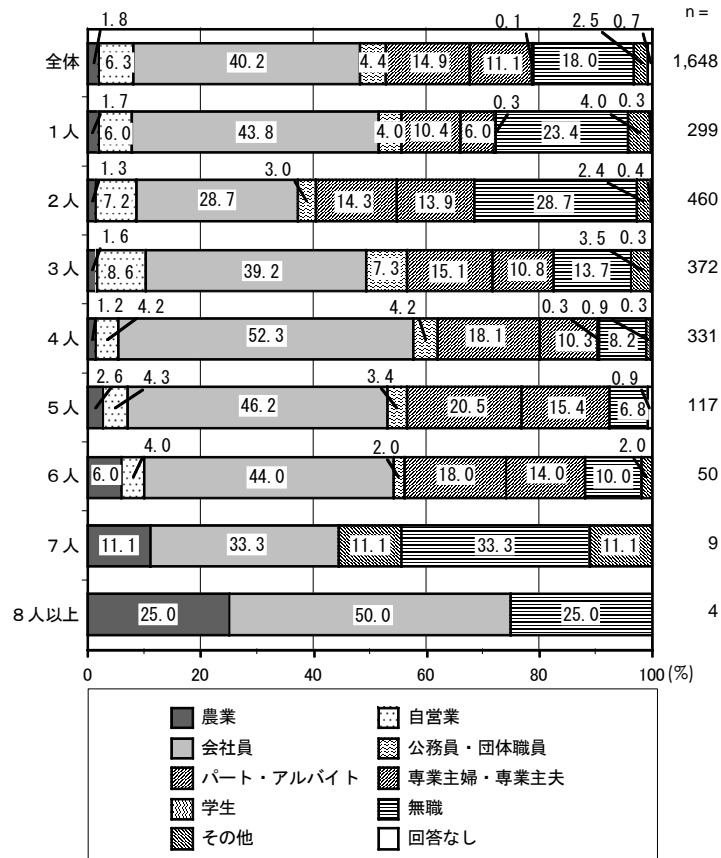


図 1-3-3 世帯人員別「職業」





#### (4) 同居している世帯人数

問4 あなたを含めて同居されている世帯人員の数をお答えください。

◆同居している人数は、「2人」が27.9%で最も割合が高く、「1人」(18.1%)と合わせると46.0%と少人数世帯が半数近くを占めています。

○同居している人数については、「2人」が27.9%で最も割合が高く、次いで、「3人」(22.6%)、「4人」(20.1%)となっています。「2人」と「1人」(18.1%)と合わせると46.0%と少人数世帯が半数近くを占めています。

○年齢別でみると、「2人」の割合は、50歳代では26.9%、60歳代では38.9%、70歳以上では44.6%と、50歳代以降になると年齢が上がるにしたがって順次割合が高くなる傾向がみられます。「1人」についても同様の傾向がみられ、高齢者世帯になるほど少人数化していく傾向がみられます。

○30歳未満についても「1人」(36.8%)や「2人」(30.3%)といった少人数世帯の割合は合わせて67.1%とかなり高くなっています(図1-4-2)。

図1-4-1 性別「世帯人員」

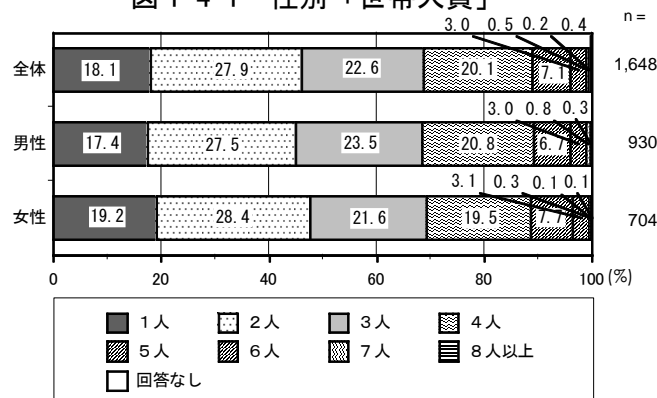
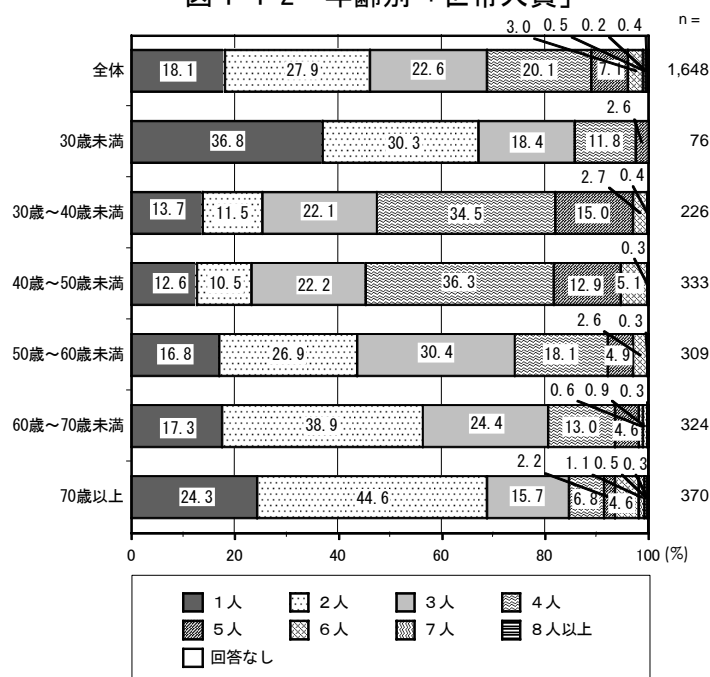


図1-4-2 年齢別「世帯人員」



## (5) 住まいの種類

問5 あなたのお住まいの住宅の種類をお答えください。

◆回答者の住まいの種類は、「戸建住宅（持ち家）」が 63.5%で最も割合が多く、次いで「集合住宅（貸家）」（18.9%）。「集合住宅（持ち家）」（10.3%）となっています。

- 住まいの種類は、「戸建住宅（持ち家）」が 63.5%で最も割合が高くなっています。次いで、「集合住宅（賃貸）」（18.9%）、「集合住宅（持ち家）」（10.3%）となっています。
- 年齢別でみると、「戸建住宅（持ち家）」は 30 歳未満では 15.8%と低く、「集合住宅（賃貸）」（46.1%）や「社宅・寮」（32.9%）が高くなっています。「戸建住宅（持ち家）」は、30 歳代では 56.6%と過半数になり、年齢層が高いほど割合が高い傾向がみられます（図 1-5-2）。
- 世帯人員別でみると、世帯人員が多くなるほど「戸建住宅（持ち家）」の割合が高くなる傾向がみられます（図 1-5-3）。

図 1-5-1 性別「住まいの種類」

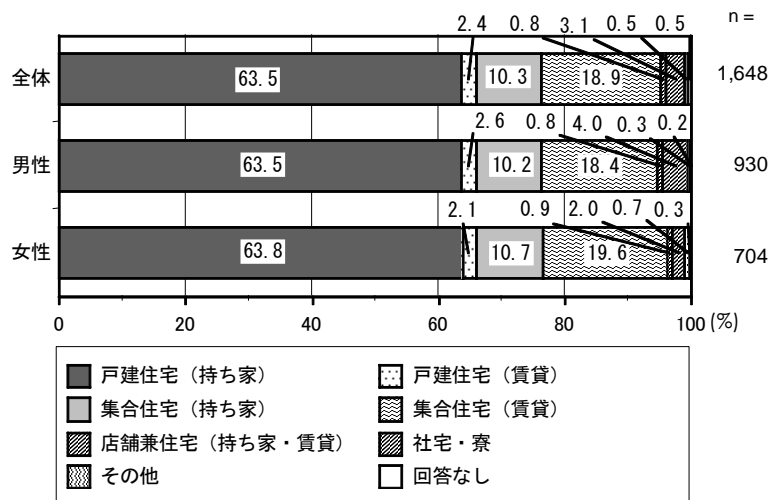


図 1-5-2 年齢別「住まいの種類」

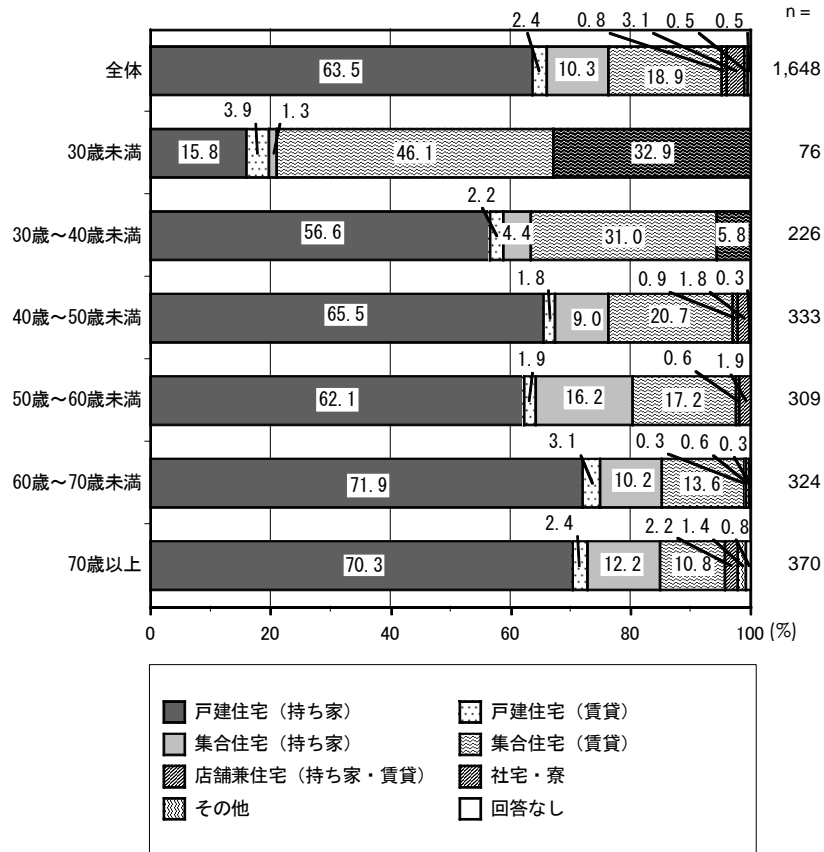
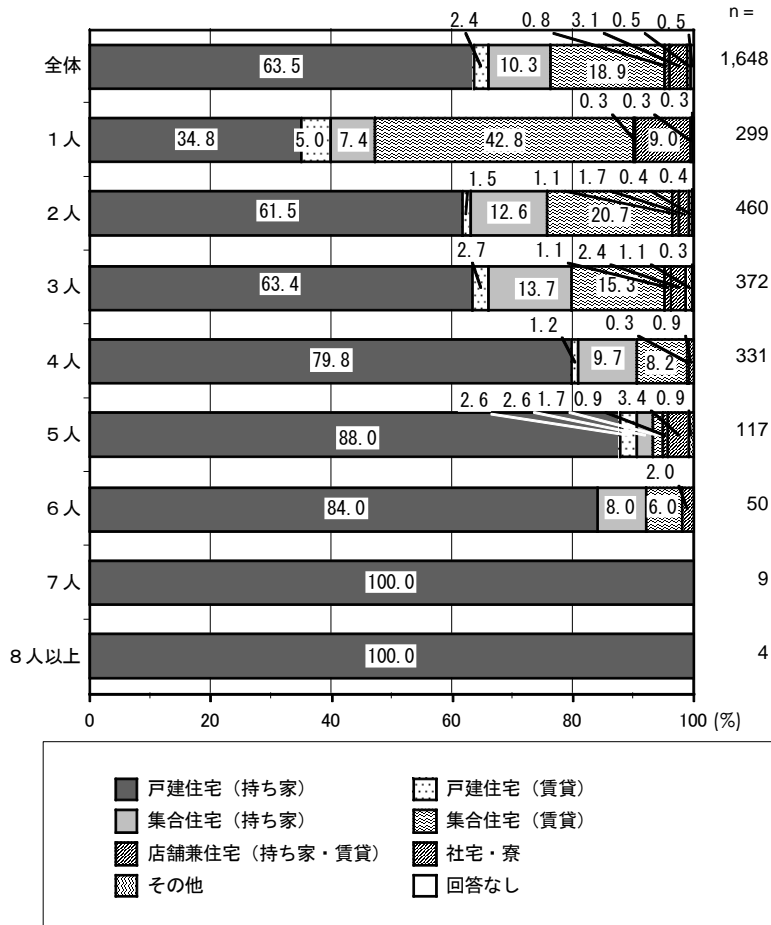


図 1-5-3 世帯人員別「住まいの種類」



## II 家庭のごみ出しの状況について

### (1) 可燃ごみを集積場所に出す頻度

問6 あなたの家庭では、可燃ごみは、どれくらいの頻度で集積場所に出していますか。

◆可燃ごみを集積場所に出す頻度は、「1週間に2回（ほぼ毎回）出す」が66.9%で最も高く、世帯人員が多い世帯ほど頻度高く可燃ごみを出している傾向がみられます。

- 可燃ごみを集積場所に出す頻度は、「1週間に2回（ほぼ毎回）出す」が66.9%で最も割合が高くなっています。次いで「1週間に1回くらい出す」（26.2%）、「1ヶ月に1～3回くらい出す」（5.6%）となっています。
- 年齢別でみると、「1週間に2回（ほぼ毎回）出す」という頻度高く可燃ごみを出している人の割合は30歳未満で最も低く、57.9%にとどまっています。
- 「1週間に2回（ほぼ毎回）出す」の割合は、30歳代で78.3%と最も高く、以降、年齢が上がるにしたがって順次割合が低くなる傾向がみられます。70歳以上では、「1週間に2回（ほぼ毎回）出す」という回答は58.6%と、30歳未満の年齢層並みの水準になっています（図2-1-2）。
- 世帯人員別でみると、世帯人員が多くなるほど「1週間に2回（ほぼ毎回）出す」の割合が高くなる傾向がみられ、5人世帯や6人世帯では共に94.0%になっています（図2-1-3）。
- ごみ減量とリサイクルの心がけ別による有意な差はみられません（図2-1-4）

図2-1-1 性別「可燃ごみを集積場所に出す頻度」

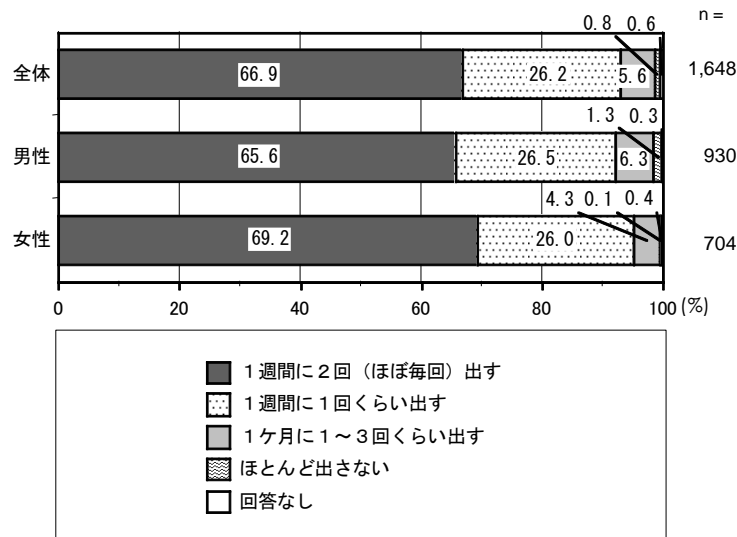


図 2-1-2 年齢別「可燃ごみを集積場所に出す頻度」

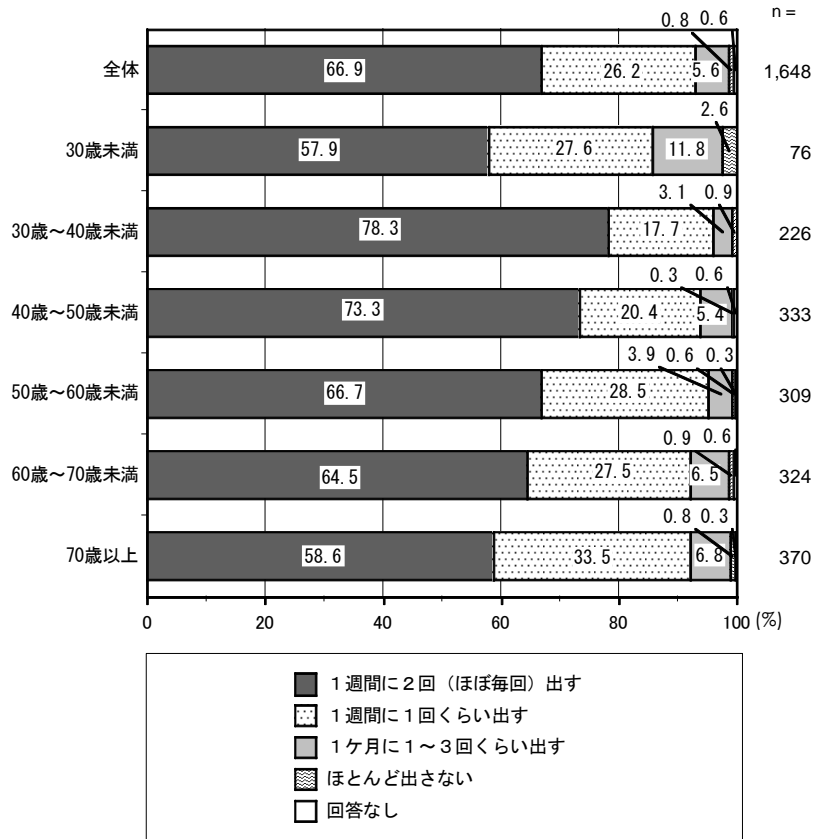


図 2-1-3 世帯人員別「可燃ごみを集積場所に出す頻度」

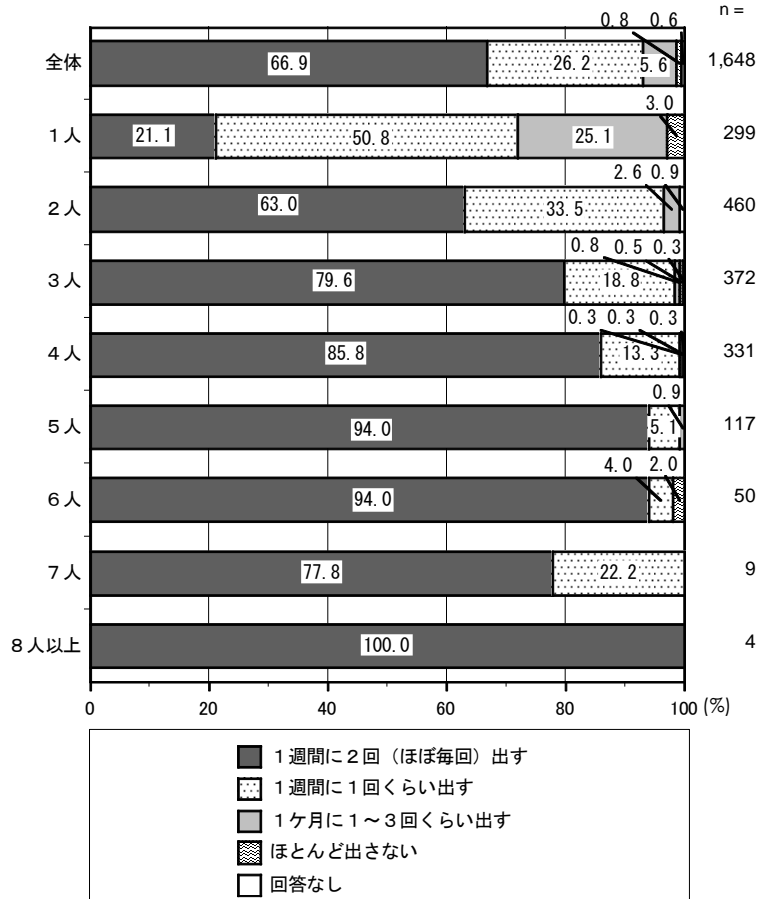
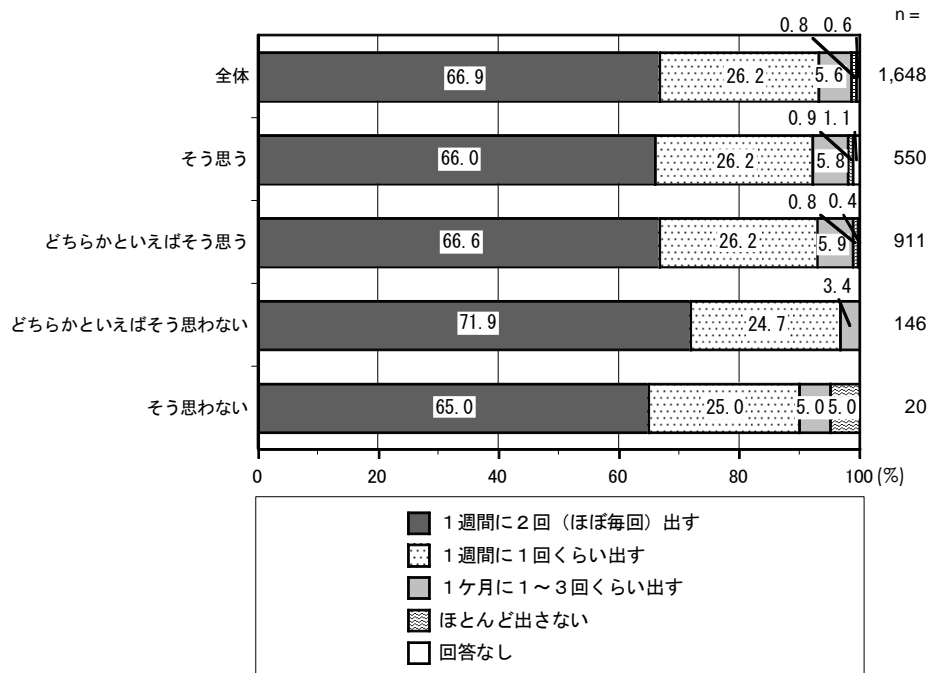


図 2-1-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「可燃ごみを集積場に出す頻度」



## (2) 不燃ごみを集積場所に出す頻度

問7 あなたの家庭では、不燃ごみは、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。

- ◆不燃ごみを集積場所に出す頻度は、「2～3か月に1回くらい出す」が37.3%と最も高くなっています。
- ◆「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」の割合は、年齢層が上がるほど、また、世帯人員が多い世帯ほど高くなる傾向がみられます。

- 不燃ごみを集積場所に出す頻度は、「2～3ヶ月に1回くらい出す」が37.3%で最も割合が高くなっています。次いで「年に1～3回くらい出す」(28.8%)、「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」(25.0%)、となっています。
- 年齢別でみると、30歳未満や30歳代では「ほとんど出さない」がそれぞれ、27.6%、18.1%と高くなっています。一方「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」という頻度高く出している割合は17.1%、17.3%と他の年齢層に比べて最も低くなっています。
- 「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」という頻度高く出している割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向がみられ、70歳以上では30.8%と最も高くなっています（図2-2-2）。
- 世帯人員別でみると、世帯人員が多くなるほど「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」の割合が概ね高くなる傾向がみられます（図2-2-3）。

図2-2-1 性別「不燃ごみを集積場所に出す頻度」

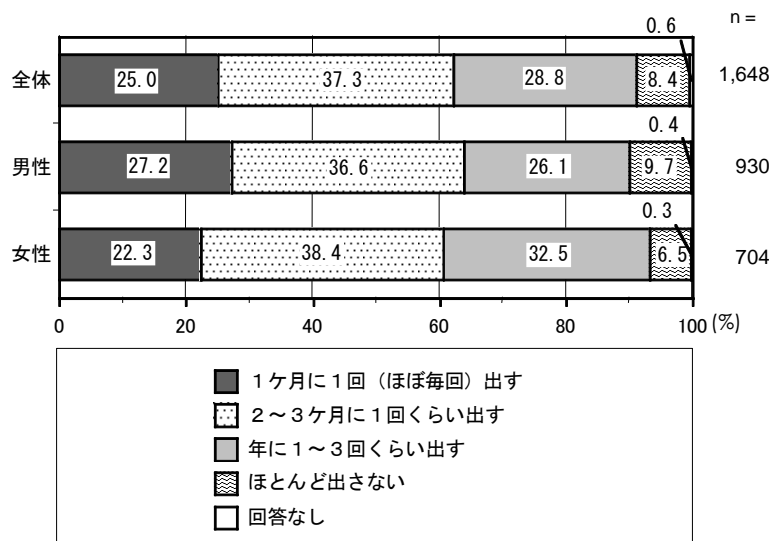


図 2-2-2 年齢別「不燃ごみを集積場所に出す頻度」

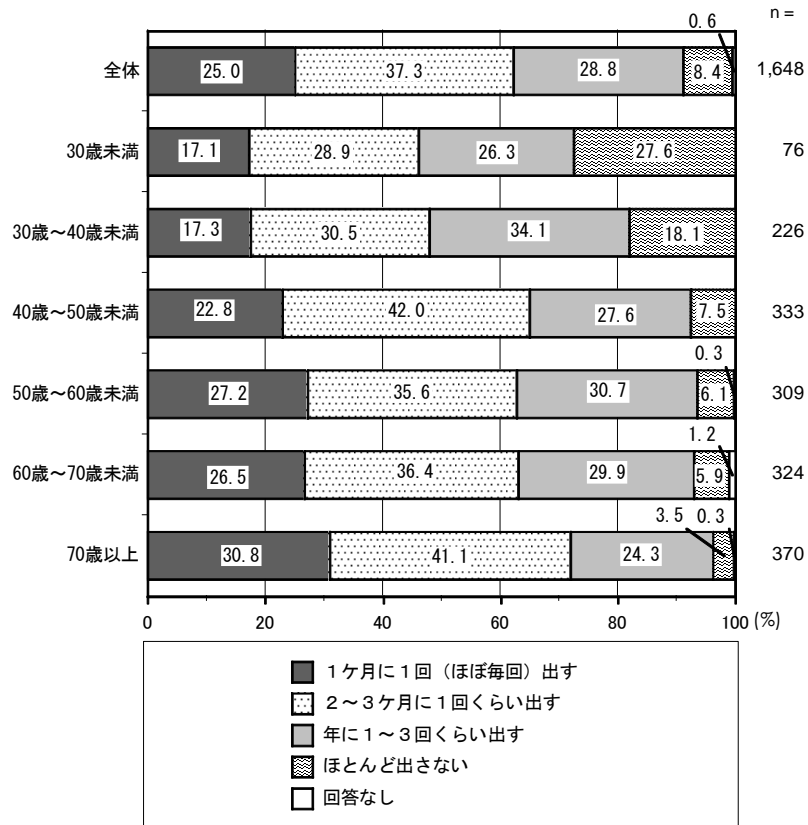
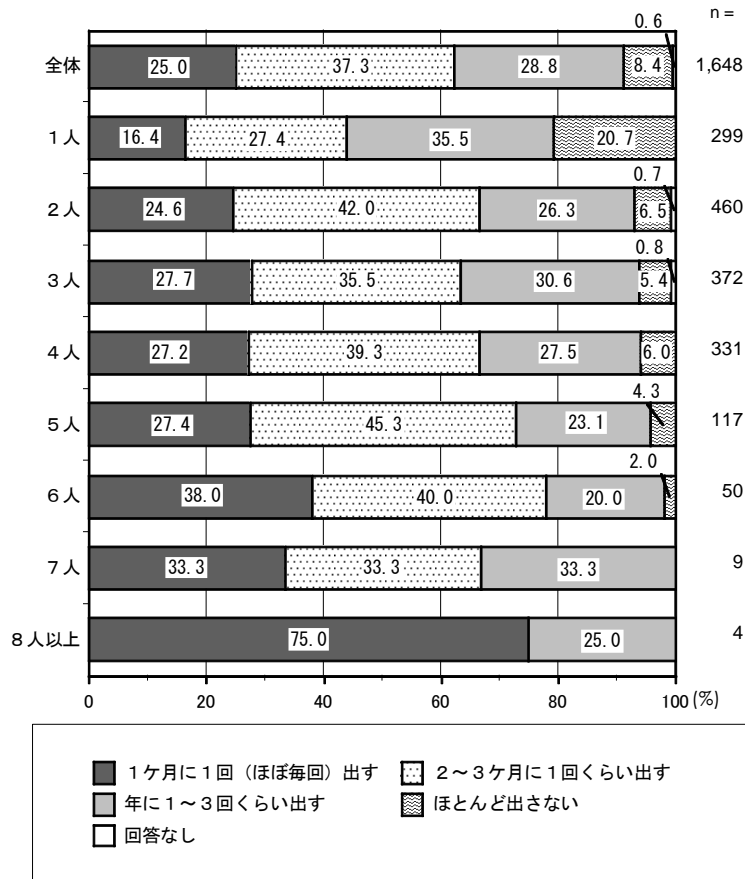


図 2-2-3 世帯人員別「不燃ごみを集積場所に出す頻度」





### (3) プラスチック製容器包装を集積場所に出す頻度

問8 あなたの家庭では、プラスチック製容器包装は、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。

- ◆プラスチック製容器包装を集積場所に出す頻度は、「毎週」が53.5%で最も割合が高くなっています。
- ◆「毎週」という頻度高く出している人の割合は、50歳代において62.1%と最も高く、また、世帯人員が多くなるほどその割合が高くなる傾向がみられます。

- プラスチック製容器包装を集積場所に出す頻度は、「毎週」が53.5%で最も割合が高くなっています。
- 年齢別でみると、「毎週」と回答した人の割合は、50歳代において62.1%と最も高くなっており、年齢が下がるほど、また、上がるほどその割合が低下していく傾向がみられ、30歳未満では31.6%と最も低くなっています（図2-3-2）。
- 世帯人員別でみると、世帯人員が多くなるほど「毎週」の割合が高くなる傾向がみられ、世帯人員が5人以上の世帯ではいずれも7割以上となっています（図2-3-3）。

図2-3-1 性別「プラスチック製容器包装を集積場所に出す頻度」

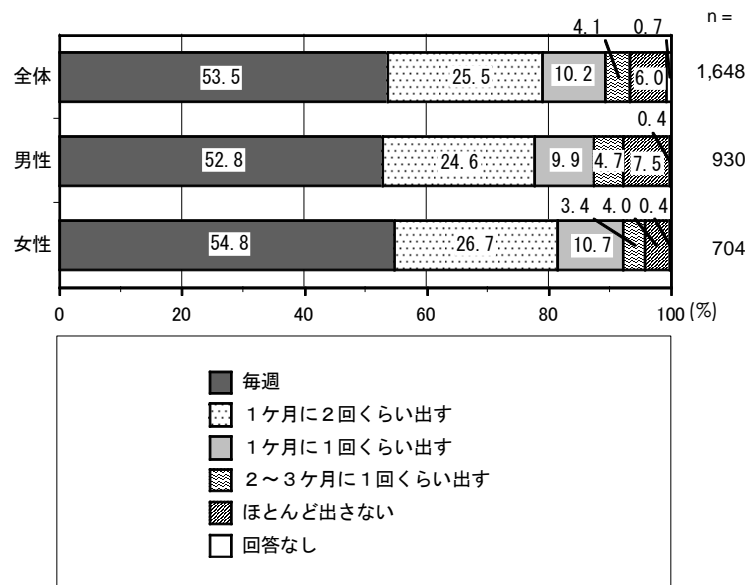


図 2-3-2 年齢別「プラスチック製容器包装を集積場に出す頻度」

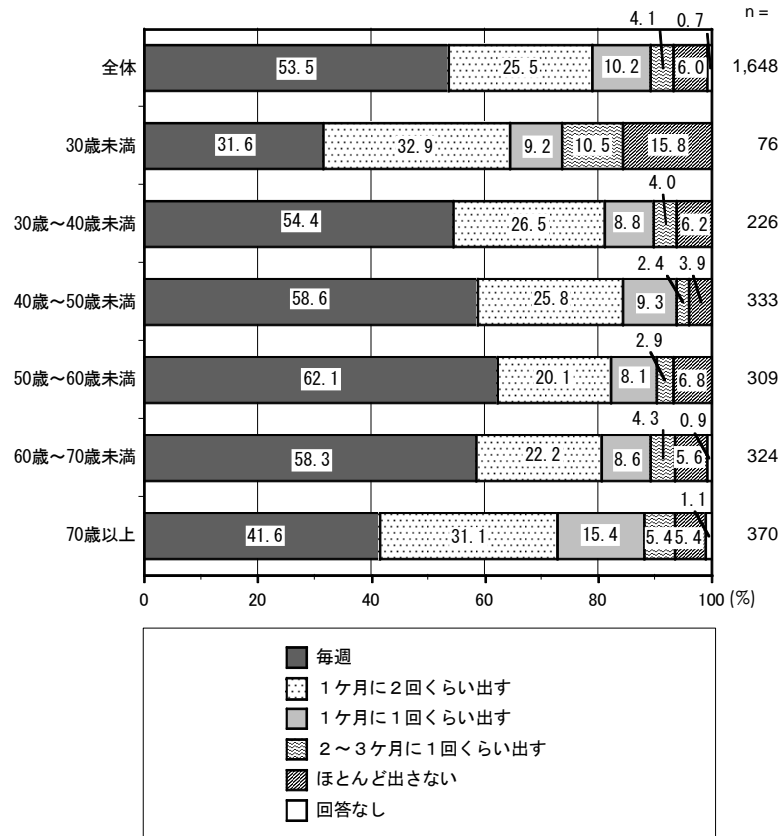
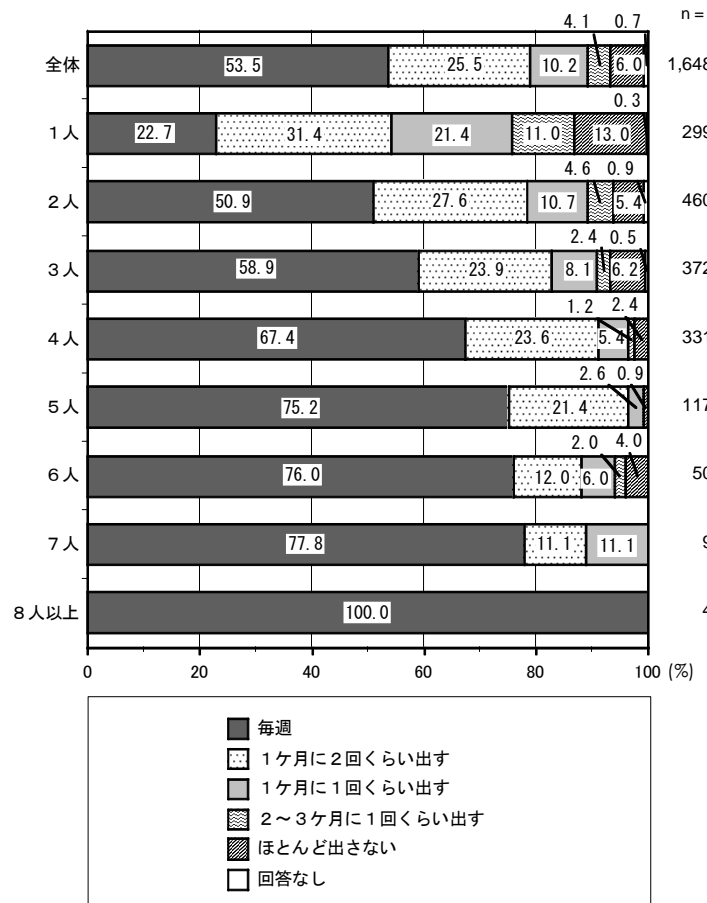


図 2-3-3 世帯人員別「プラスチック製容器包装を集積場に出す頻度」



#### (4) ペットボトルを集積場所に出す頻度

問9 あなたの家庭では、ペットボトルは、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。

- ◆「スーパーマーケットのリサイクルステーションなどを利用している」と回答した人の割合が46.1%と最も高くなっています。
- ◆集積場所に出す人の割合は合わせて45.9%で、その内訳は、「1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す」が28.8%と最も高くなっています。
- ◆集積場所に出す人の割合は合わせて45.9%で、スーパーマーケットのリサイクルステーションなどを利用している割合は46.1%と同程度の割合になっています。

- ペットボトルを集積場所に出さずに「スーパーマーケットのリサイクルステーションなどを利用している」と回答した人の割合が46.1%と最も高くなっています。
- 集積場所に出す人の割合は合わせて45.9%で、その内訳は、「1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す」(28.8%)、「2～3ヶ月に1回くらい出す」(13.5%)、「年に1～3回くらい出す」(3.6%)となっています。
- 年齢別でみると、「スーパーマーケットのリサイクルステーションなどを利用している」と回答した人の割合は、30歳代において57.5%と高い一方で、70歳以上では37.8%と低くなっています。
- 「1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す」と回答した人の割合は、30歳未満と40歳代でそれぞれ、38.2%、34.2%と全体に比べて高くなっています(図2-4-2)。
- 世帯人員別でみると、世帯人員が多くなるほど「1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す」の割合が高くなる傾向がみられます(図2-4-3)。

図2-4-1 性別「ペットボトルを集積場所に出す頻度」

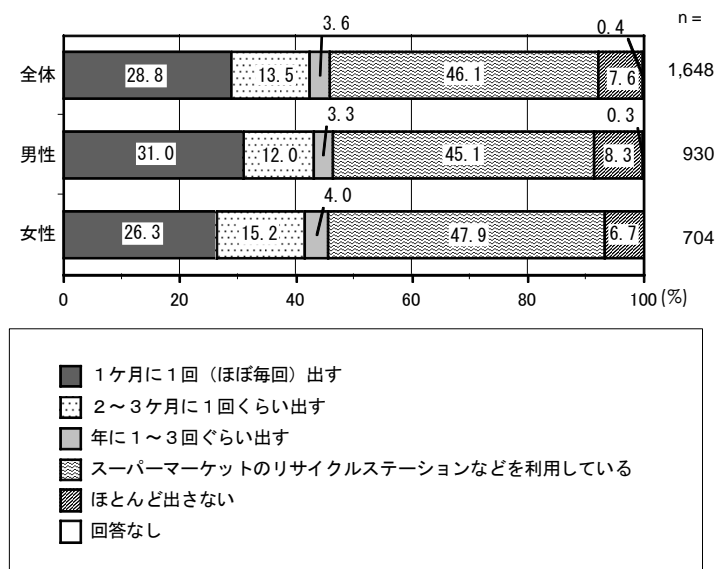


図 2-4-2 年齢別「ペットボトルを集積場所に出す頻度」

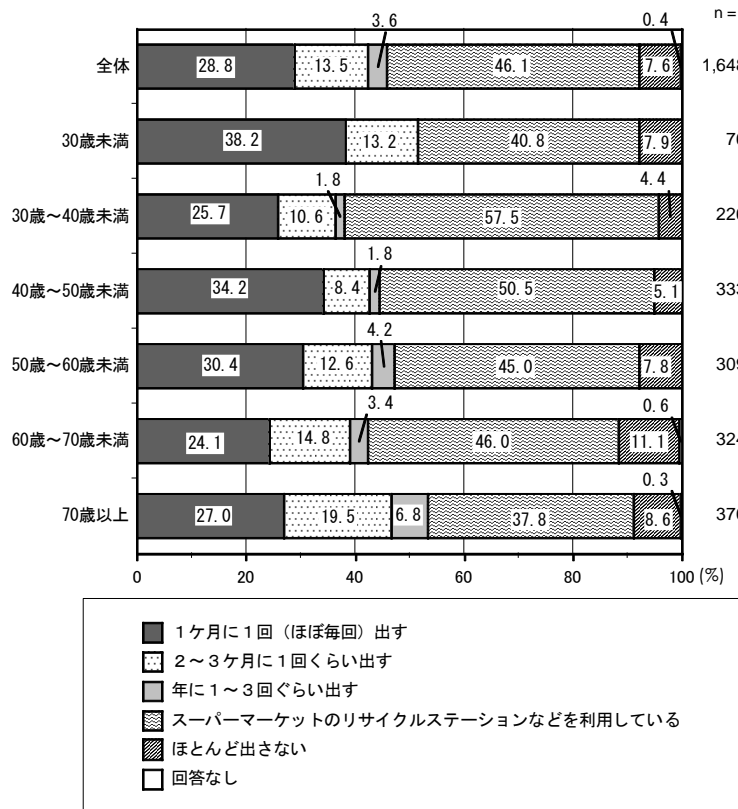
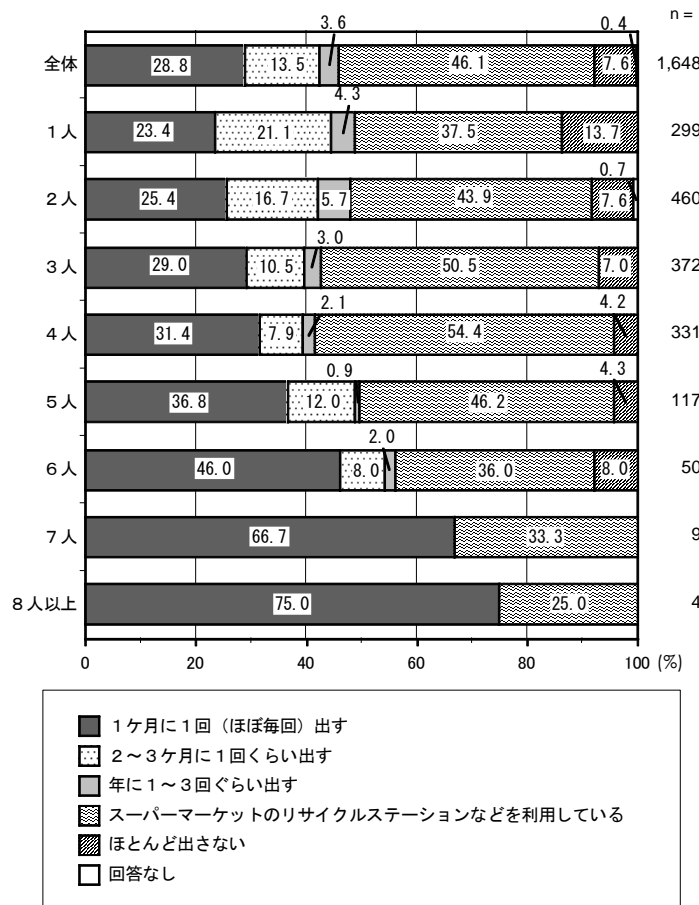


図 2-4-3 世帯人員別「ペットボトルを集積場所に出す頻度」



## (5) 缶類を集積場所に出す頻度

問 10 あなたの家庭では、缶類は、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。

- ◆缶類を集積場所に出す頻度は、「ほとんど出さない」が34.3%で最も多く、次いで「2～3ヶ月に1回くらい出す」が25.6%となっています。
- ◆「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」と回答した人の割合は23.5%で、世帯人員が多くなるほどその割合が高くなる傾向がみられます。

○缶類を集積場所に出す頻度は「ほとんど出さない」が34.3%で最も割合が高く、次いで「2～3ヶ月に1回くらい出す」が25.6%、「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」が23.5%となっています。

○年齢別でみると、「ほとんど出さない」という回答した人の割合は、30歳代において44.2%と高い一方で、70歳以上では24.3%と低くなっています。70歳以上では、「2～3ヶ月に1回くらい出す」（31.9%）や「年に1～3回くらい出す」（22.2%）の割合が他の年齢層に比べて高くなっています（図2-5-2）。

○世帯人員別でみると、6人世帯、7人世帯で「1ヶ月に1回（ほぼ毎回）出す」の割合が36.0%、33.3%と他の世帯人員に比べて高くなっています（図2-5-3）。

図 2-5-1 性別「缶類を集積場所に出す頻度」

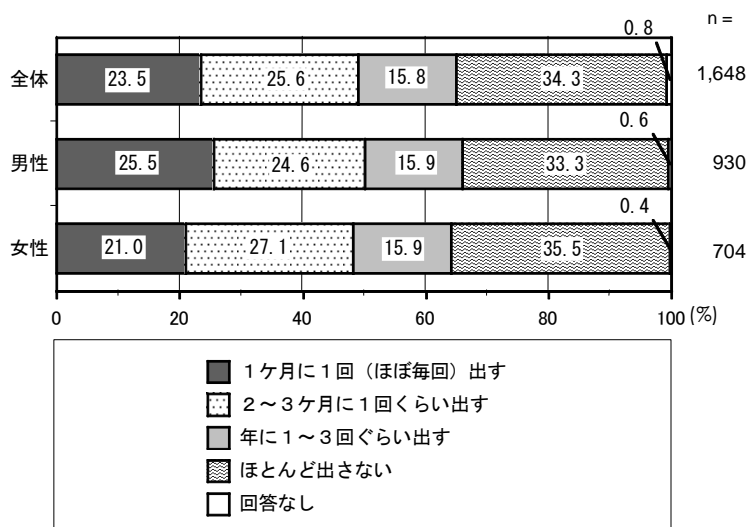


図 2-5-2 年齢別「缶類を集積場所に出す頻度」

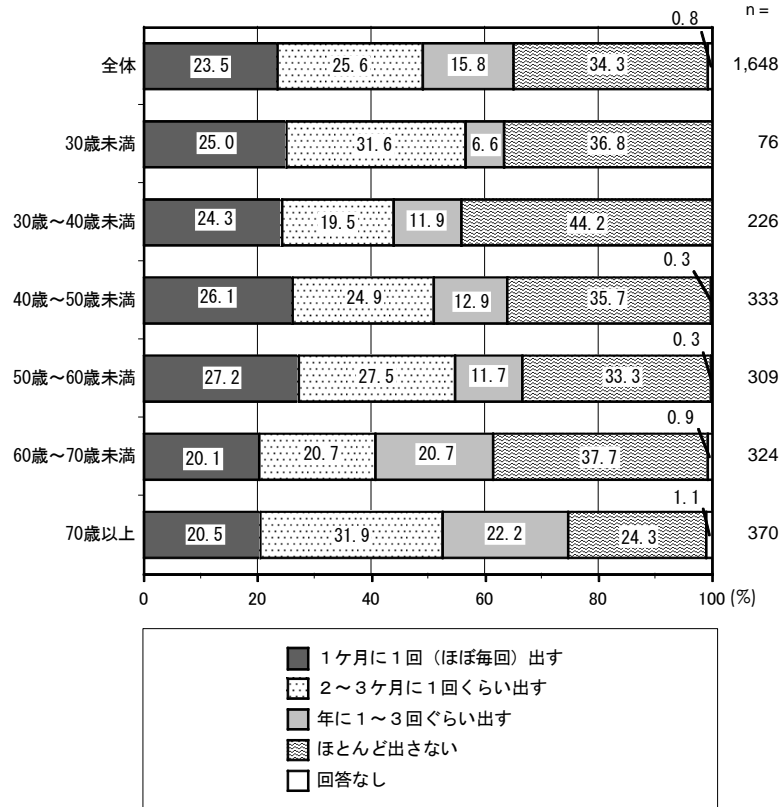
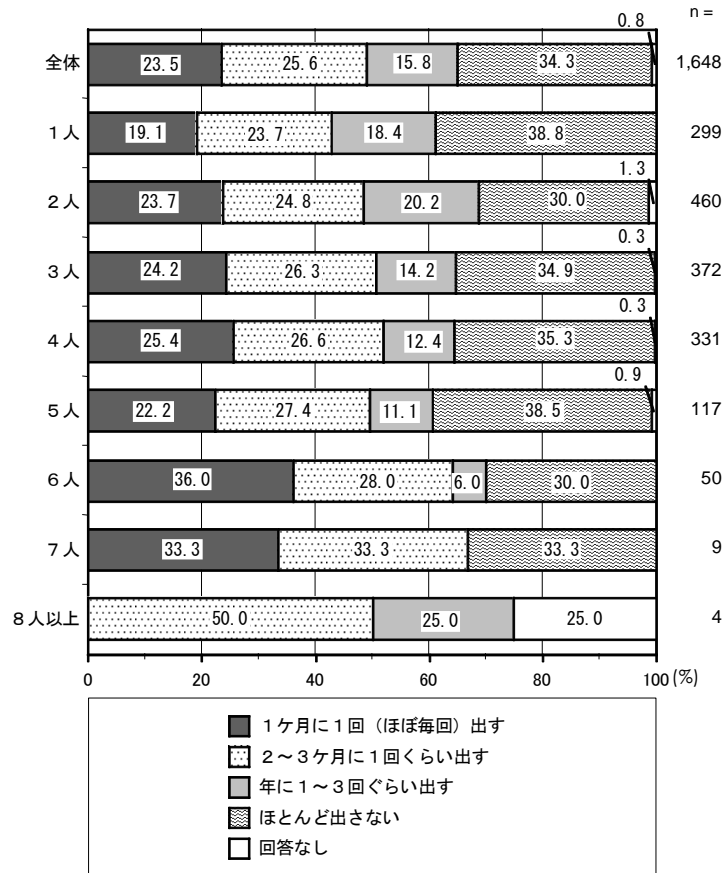


図 2-5-3 世帯人員別「缶類を集積場所に出す頻度」



## (6) 可燃用指定袋の使用状況

問 11 あなたの家庭の、この1年間の可燃用指定袋（白色）の使用枚数はどうでしたか。

◆可燃用指定袋（白色）の使用状況は、「配布された枚数が多くて余った」が16.1%、「配布された枚数でちょうどよかった」が58.0%であり、74.1%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。

- 可燃用指定袋（白色）の使用状況は、「配布された枚数が多くて余った」が16.1%、「配布された枚数でちょうどよかった」が58.0%であり、74.1%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。
- 年齢別でみると、30歳未満では、「配布された枚数が多くて余った」が28.9%と高く、「配布された枚数では足らずに、購入した」(17.1%)を11.8ポイント上回っています。また、「配布された枚数でちょうどよかった」(50.0%)と合わせると、“配布枚数で足りた”人は78.9%になります。
- 70歳以上においても同様に「配布された枚数が多くて余った」(18.4%)が「配布された枚数では足らずに、購入した」(14.3%)を上回っていると同時に、「配布された枚数でちょうどよかった」(66.2%)と合わせると、“配布枚数で足りた”人は84.6%になります(図2-6-2)。
- 世帯人員別でみると、“配布枚数で足りた”人の割合は、2人世帯(83.3%)や単身世帯(81.9%)で高くなっています。
- 世帯人員が4人の世帯では、“配布枚数で足りた”人は61.7%と過半数を占めています(図2-6-3)。
- ごみ減量とリサイクルの心がけ別でみると、ごみの減量とリサイクルを心がけていると「思っている」人ほど、そうでない人に比べて「配布された枚数では足らずに、購入した」の割合は低めになっています(図2-6-4)。

図 2-6-1 性別「可燃用指定袋の使用状況」

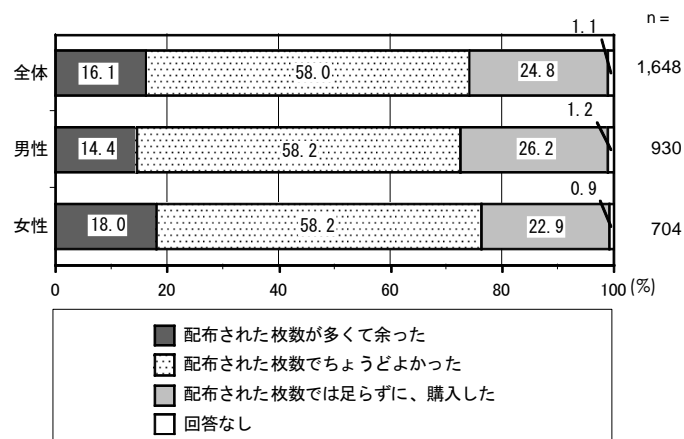


図 2-6-2 年齢別「可燃用指定袋の使用状況」

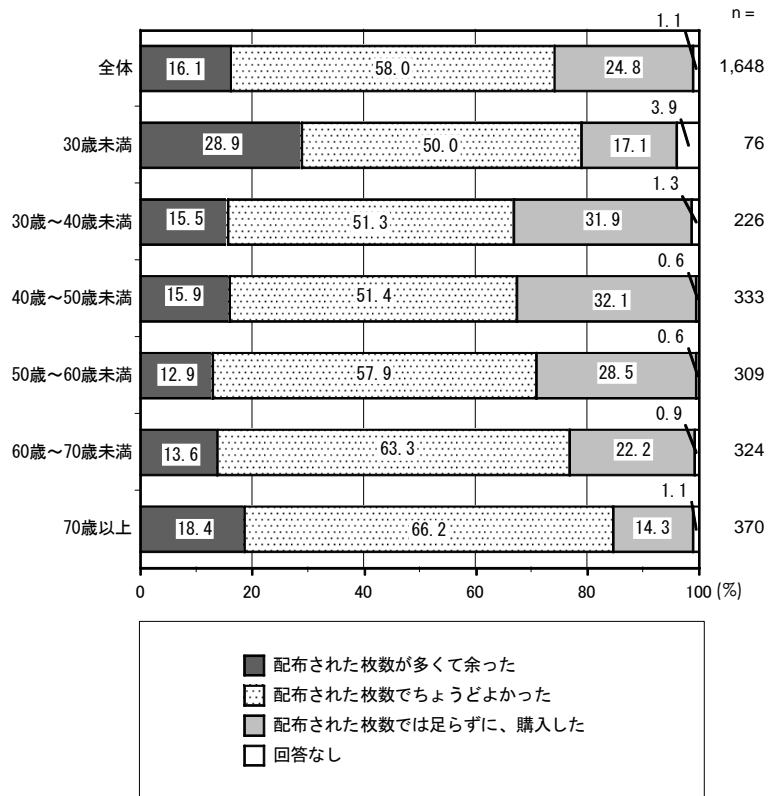




図 2-6-3 世帯人員別「可燃用指定袋の使用状況」

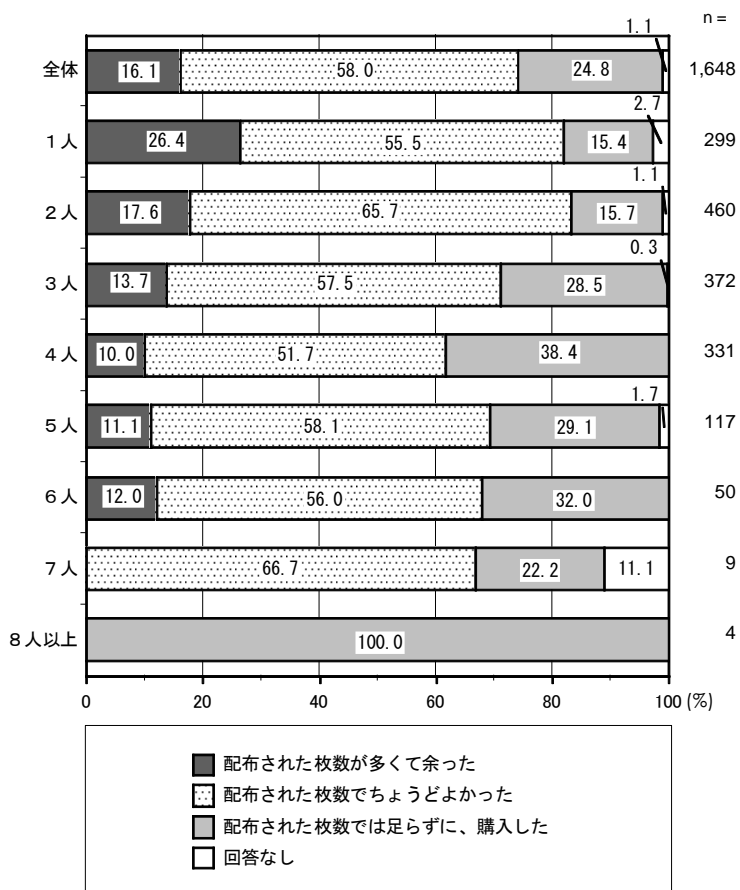
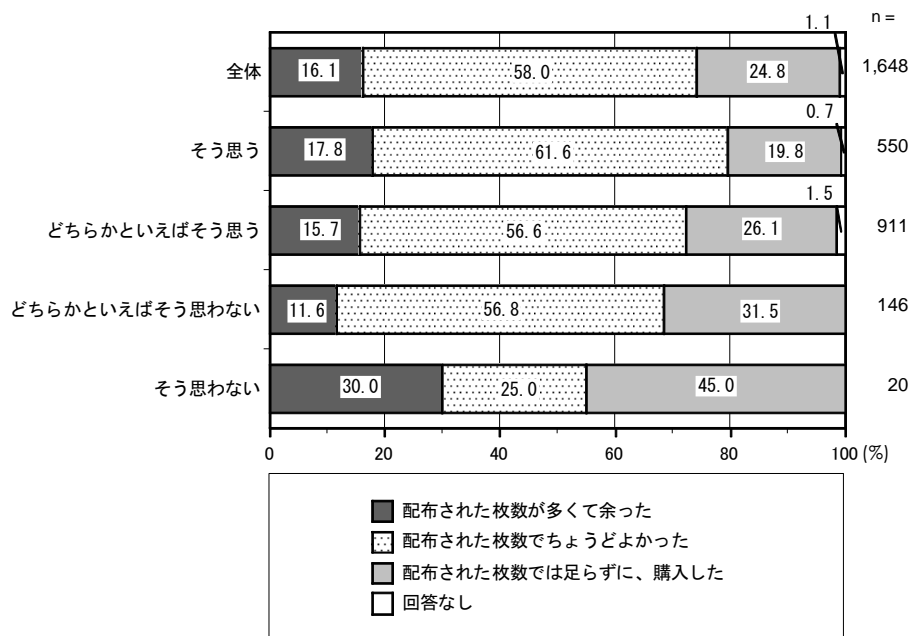


図 2-6-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「可燃用指定袋の使用状況」



## (7) 1年間の可燃用指定袋の購入枚数

問12 【問11.で「3.配布された枚数では不足に、購入した」と回答した方にお聞きします。】この1年間に購入した枚数は、おおよそ何枚ですか。

◆問11.で「3.配布された枚数では不足に、購入した」と回答した24.8%（409人）に対して、1年間に購入した可燃用指定袋のおよその枚数について尋ねたところ、「20枚」が37.4%で最も高く、次いで「10枚」（34.7%）の割合が高くなっています。

- 問11.で「3.配布された枚数では不足に、購入した」と回答した409人に対して、1年間に購入した可燃用指定袋のおよその枚数について尋ねたところ、「20枚」が37.4%で最も高く、次いで「10枚」（34.7%）、「30枚」（17.8%）となっており、「50枚以上」が3.9%と最も低くなっています。
- ごみ減量とリサイクルを心がけている人ほど可燃用指定袋の購入枚数が少なくなっています（図2-7-4）。

図2-7-1 性別「1年間の可燃用指定袋の購入枚数」

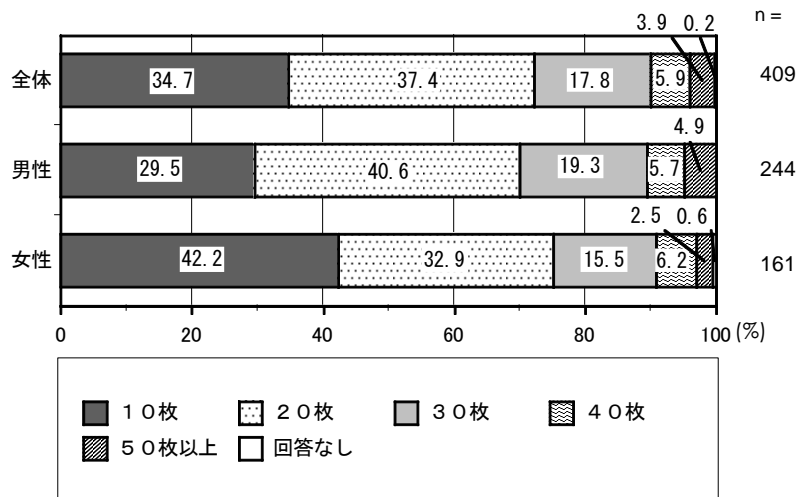


図 2-7-2 年齢別「1年間の可燃用指定袋の購入枚数」

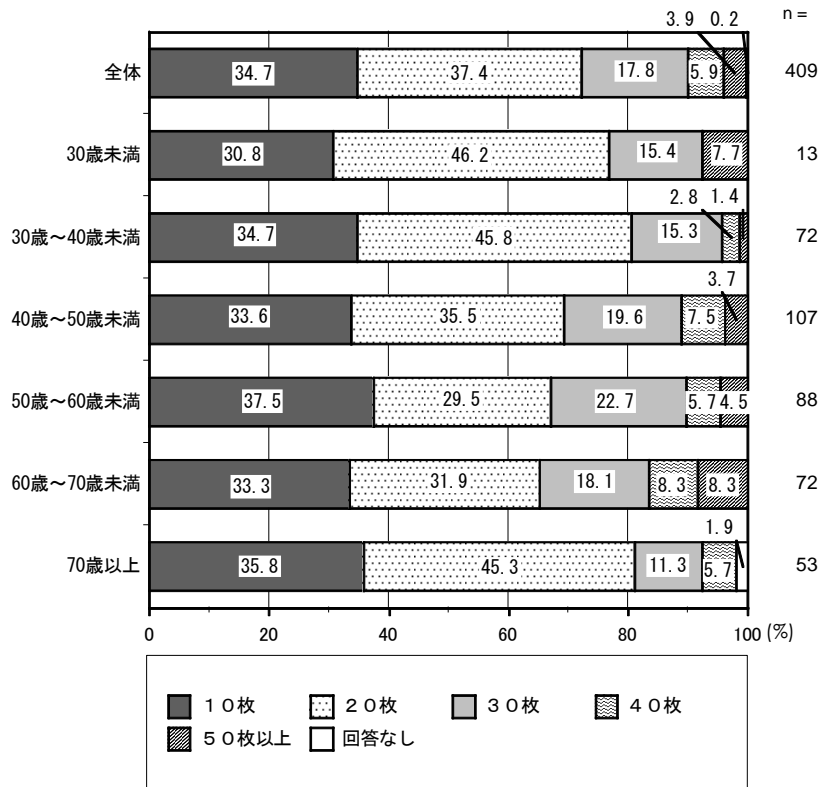


図 2-7-3 世帯人員別「1年間の可燃用指定袋の購入枚数」

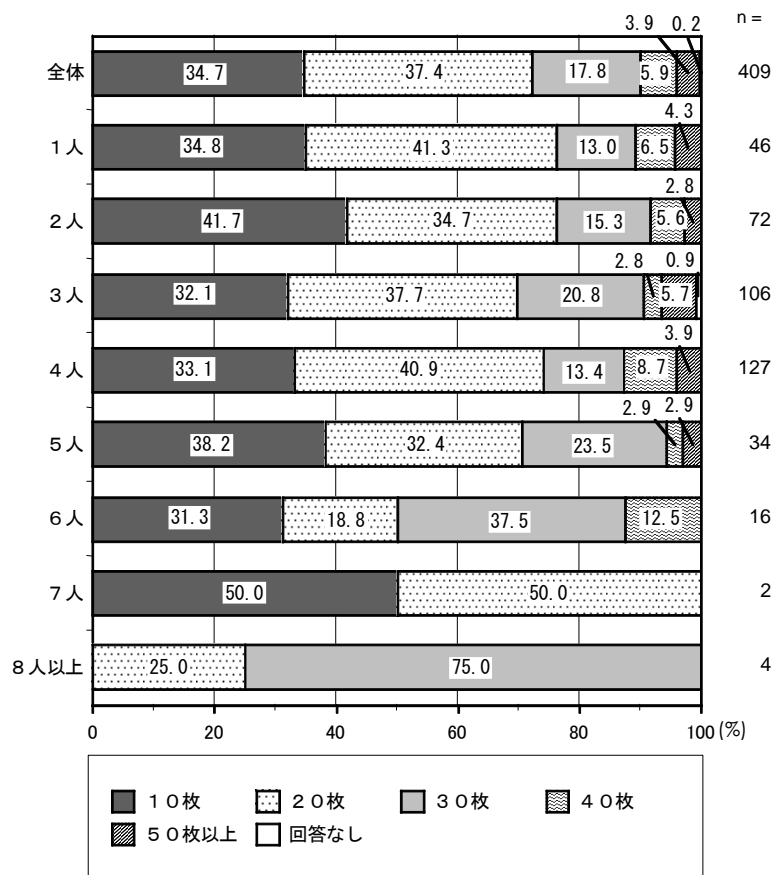
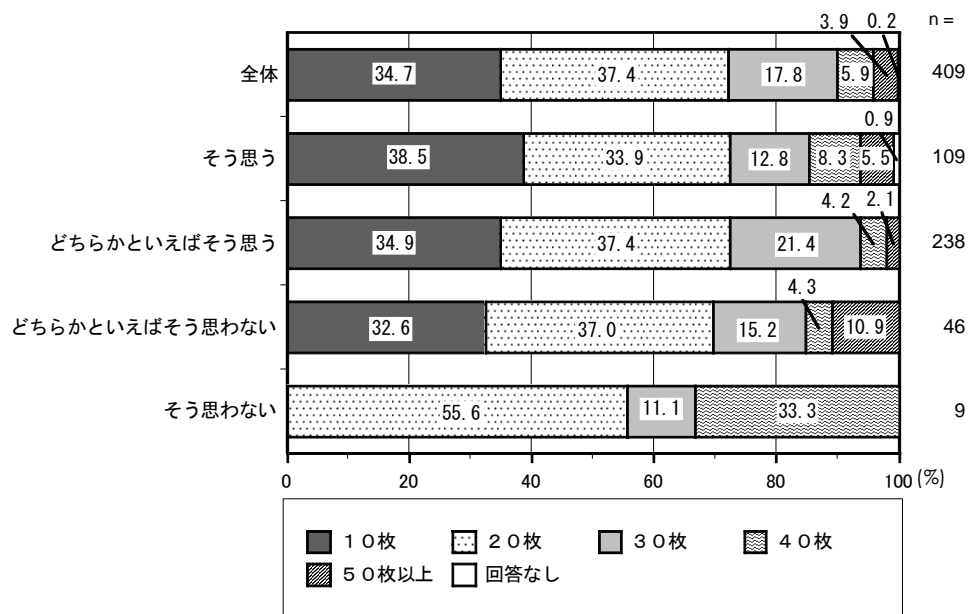


図 2-7-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「1年間の可燃用指定袋の購入枚数」



## (8) 不燃用指定袋の使用状況

問 13 あなたの家庭の、この1年間の不燃用指定袋（青色）の使用枚数はどうでしたか。

◆不燃用指定袋（青色）の使用状況は、「配布された枚数が多くて余った」が68.6%、「配布された枚数でちょうどよかった」が28.6%であり、97.2%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。

○不燃用指定袋（青色）の使用状況は、「配布された枚数が多くて余った」が68.6%、「配布された枚数でちょうどよかった」が28.6%であり、97.2%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。その一方で「配布された枚数では不足に、購入した」は1.6%となっています。

○年齢別でみると、「配布された枚数が多くて余った」の回答は30歳代で79.2%と最も高く、次いで30歳未満で73.7%となっています。

○30歳代以降では、年齢層が上がるにしたがって「配布された枚数が多くて余った」の回答割合が順次低くなっていく傾向がみられますが、一番低い70歳以上においても61.1%を占めています（図2-8-2）。

図 2-8-1 性別「不燃用指定袋の使用状況」

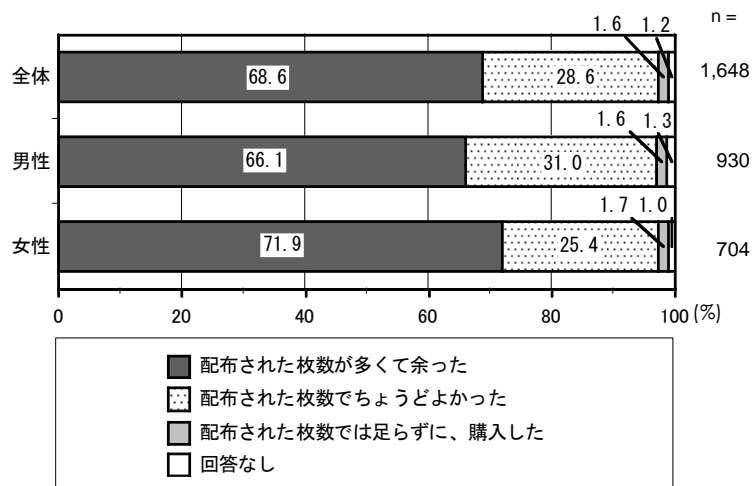


図 2-8-2 年齢別「不燃用指定袋の使用状況」

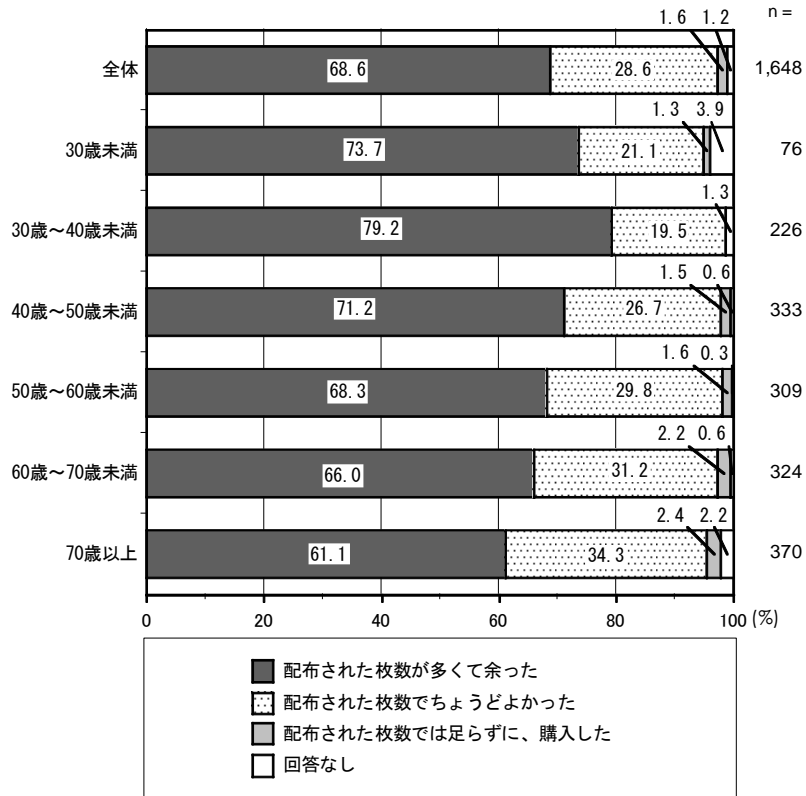


図 2-8-3 世帯人員別「不燃用指定袋の使用状況」

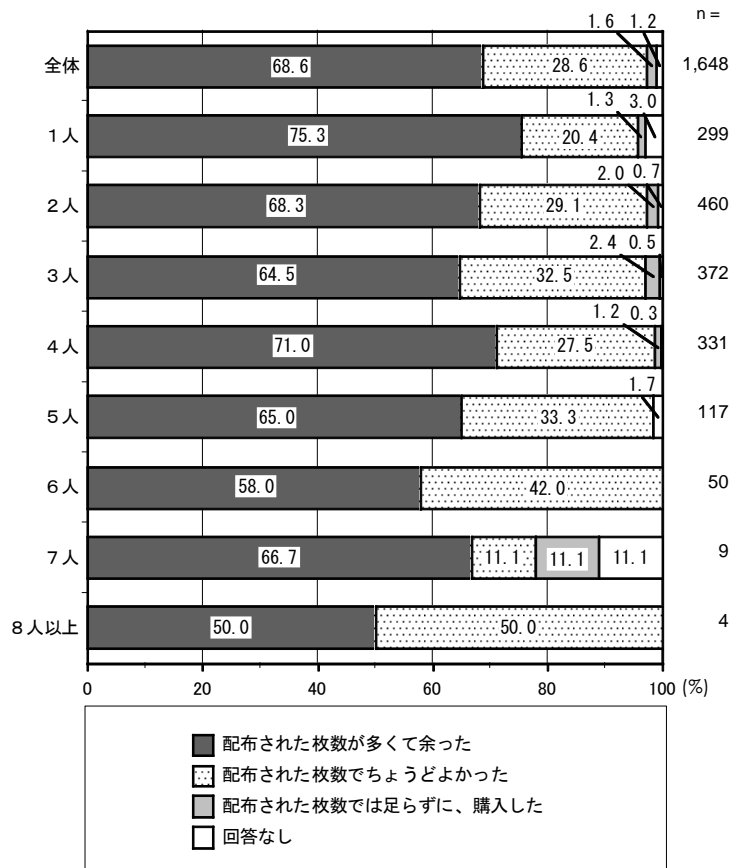
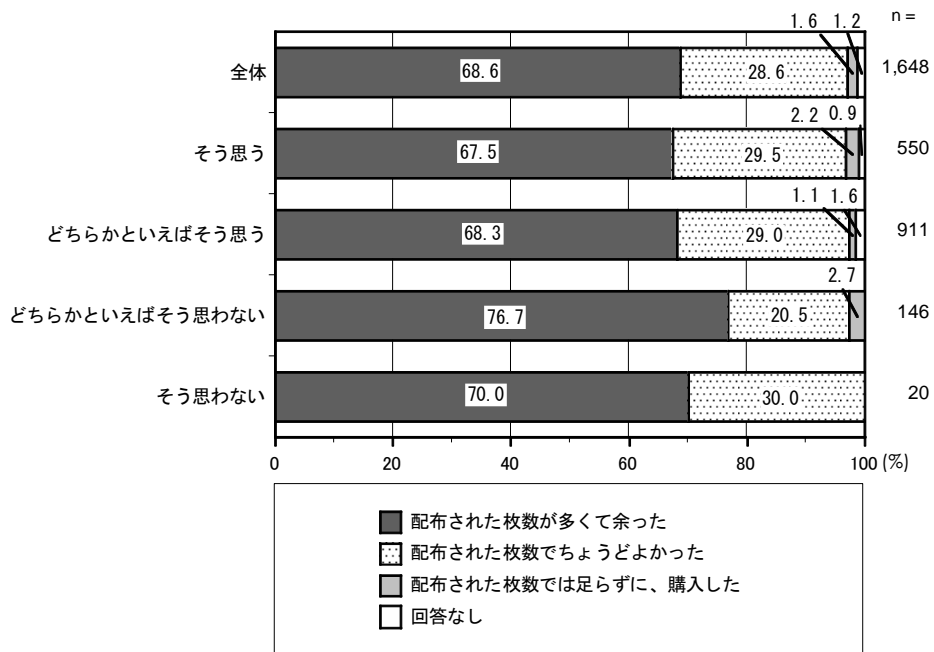


図 2-8-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「不燃用指定袋の使用状況」



## (9) 資源用指定袋の使用状況

問 14 あなたの家庭の、この1年間の資源用袋（黄色）の使用枚数はどうでしたか。

◆資源用指定袋（黄色）の使用状況は、「配布された枚数が多くて余った」が36.3%、「配布された枚数でちょうどよかった」が45.6%であり、81.9%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。

○資源用指定袋（黄色）の使用状況は、「配布された枚数が多くて余った」が36.3%、「配布された枚数でちょうどよかった」が45.6%であり、81.9%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。

○年齢別でみると、「配布された枚数が多くて余った」という回答は40歳代で31.2%と最も低くなっていますが、「配布された枚数では不足に、追加でもらった」（25.5%）よりも「配布された枚数が多くて余った」という回答した割合の方が高くなっており、いずれの年齢層においても“配布枚数で足りた”との回答が7割以上を占めています（図2-9-2）。

○世帯人員別でみると、「配布された枚数が多くて余った」という割合は、単身世帯で55.9%と最も高く、世帯人員が多くなるほどその割合が順次低くなる傾向がみられますが、「配布された枚数が多くて余った」という割合が22.0%と最も低い6人世帯でも74.0%の人が“配布枚数で足りた”と回答しています。（図2-9-3）。

図 2-9-1 性別「資源用指定袋の使用状況」

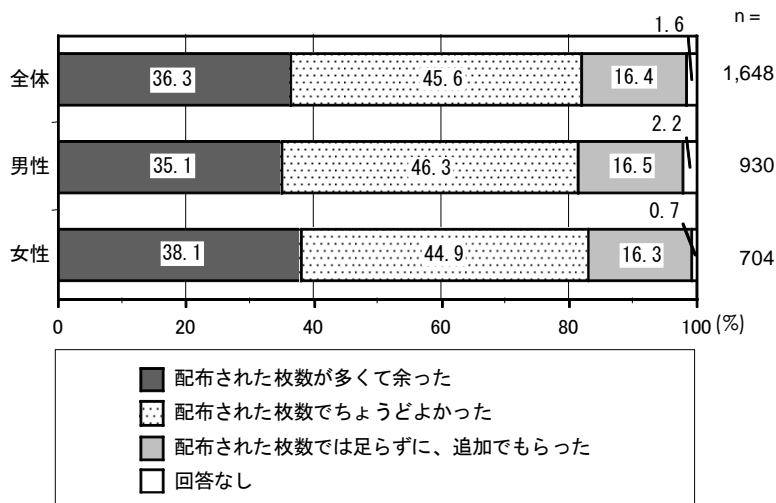




図 2-9-2 年齢別「資源用指定袋の使用状況」

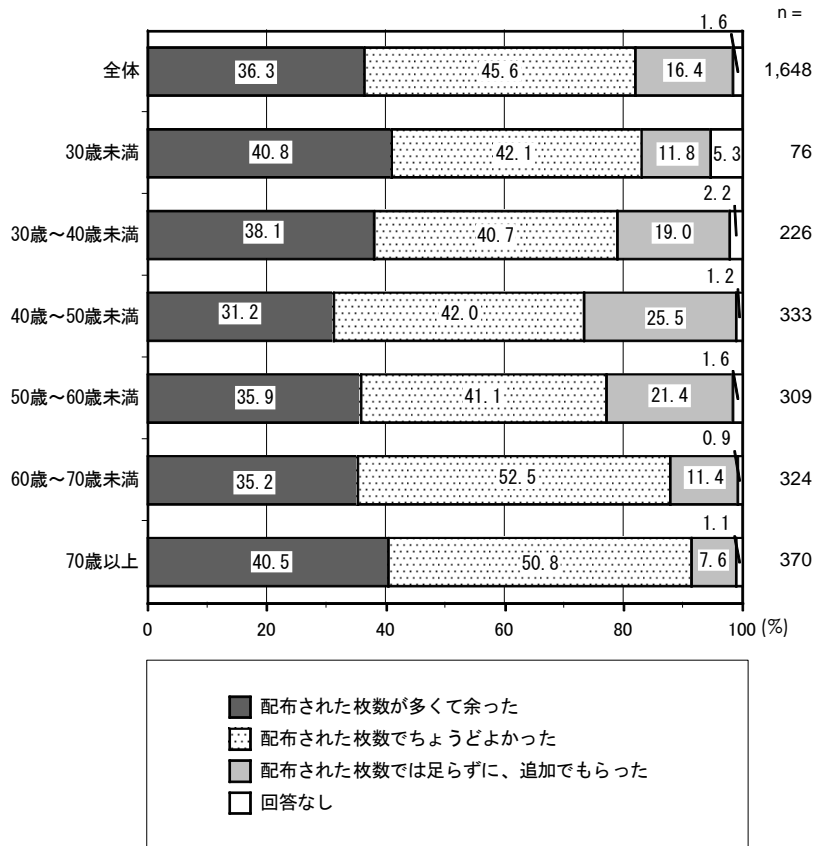


図 2-9-3 世帯人員別「資源用指定袋の使用状況」

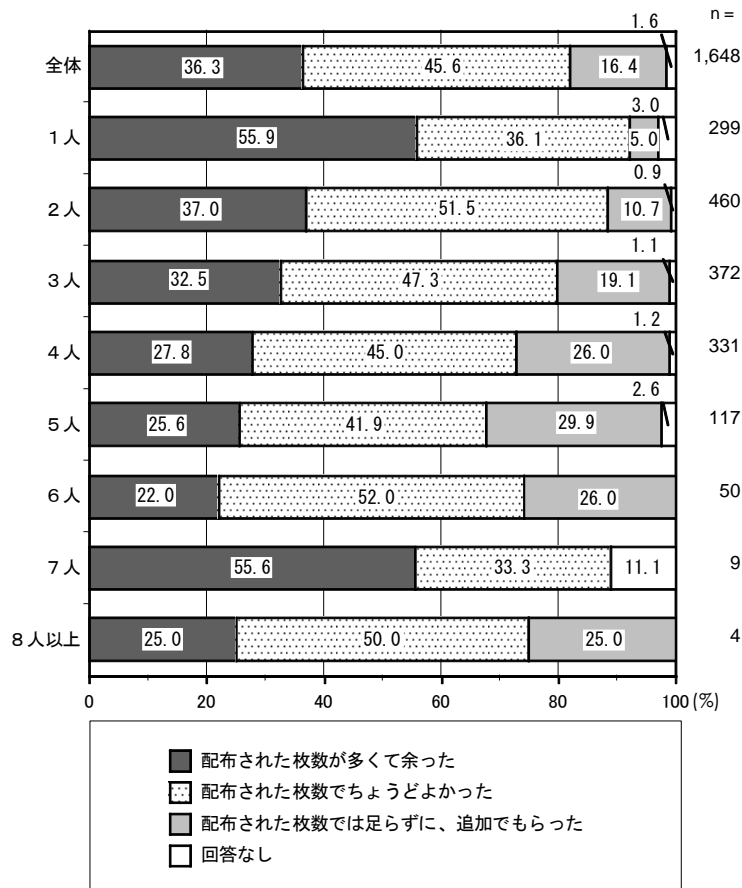
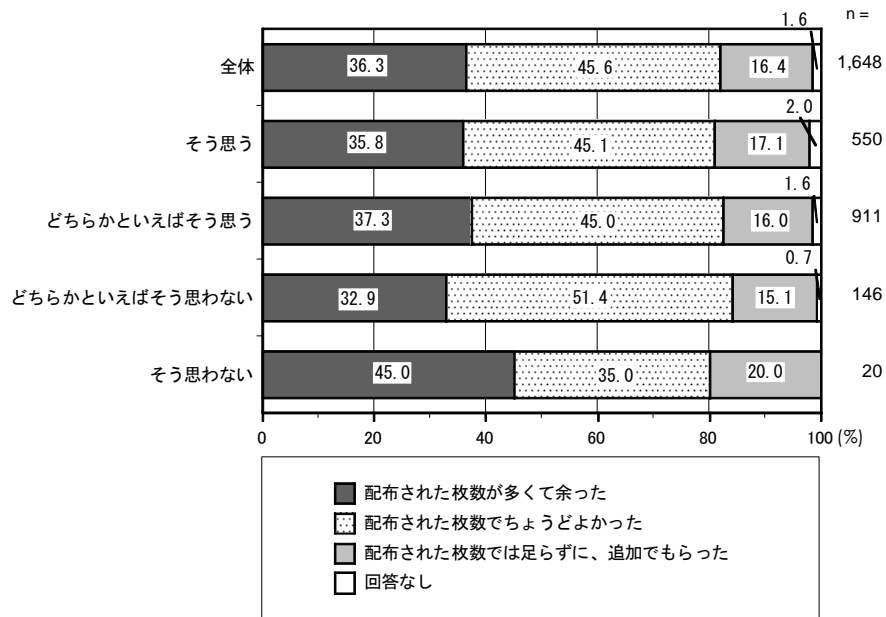


図 2-9-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「資源用指定袋の使用状況」



### Ⅲ 家庭のごみと資源の分別について

#### (1) ごみと資源の出し方

問 15 あなたの家庭では、ごみと資源をどのように出していますか。品目ごとにあてはまるものに○をつけてください。(複数の出し方であれば、あてはまるものすべてに○を)

- ◆生ごみはたい肥化されず、90.8%が、ごみとして排出されています。
- ◆「生ごみ」、「天ぷら廃油」、「硬質プラスチック」、「小型家電」、「水銀使用廃製品」及び「羽毛布団」の6品目を除いた残りの15品目すべてについては、「資源として出している」という人の割合の方が「ごみとして出している」よりも高くなっています。

- 「ごみとして出している」人の割合が最も高いのは「生ごみ」で、たい肥化せずに「ごみとして出している」人が90.8%となっています。
- 2番目は「天ぷら廃油」(55.9%)、3番目は「硬質プラスチック」(52.3%)、4番目は「紙箱・包装紙」(41.1%)、5番目は「牛乳(紙)パック」(35.8%)と続いています。
- 上位3品目の「生ごみ」と「天ぷら廃油」、「硬質プラスチック」に「小型家電」と「水銀使用廃製品」、「羽毛布団」の3品目を加えた6品目を除いたすべての品目については、「資源として出している」という人の割合の方が「ごみとして出している」よりも高くなっています。なお、「羽毛布団」については、「出さない・出ない」という回答が53.8%と高くなっています(図3-1-1)。
- 「ごみとして出している」と回答した人の割合を年齢別でみると、30歳未満では、「小型家電」(18.4%)や「水銀使用廃棄物」(11.8%)、「硬質プラスチック」(44.7%)については、全体値と比べて「ごみとして出している」と回答した割合が低くなっていますが、「紙箱・包装紙」(69.7%)や「牛乳(紙)パック」(47.4%)、「新聞紙・折り込みチラシ」(40.8%)など、多くの品目にわたって、「ごみとして出している」と回答した割合が高くなっています(図3-1-3)。
- 「ごみとして出している」と回答した人の割合を世帯人員別でみると、「天ぷら廃油」や「硬質プラスチック」については、4人や5人などの世帯で「ごみとして出している」の割合が高い一方で、単身世帯では低くなっています。単身世帯では、「紙類・包装紙」(51.5%)や「牛乳(紙)パック」(47.2%)の割合が全体値に比べて高くなっています(図3-1-4)。
- 「ごみとして出している」と回答した人の割合をごみ減量とリサイクルの心がけ別でみると、ごみの減量とリサイクルを心がけていると「思っている」という人では、そうでない人に比べて全般的に「ごみとして出している」という回答の割合は低めになっています(図3-1-5)。

図 3-1-1 「ごみと資源の出し方」

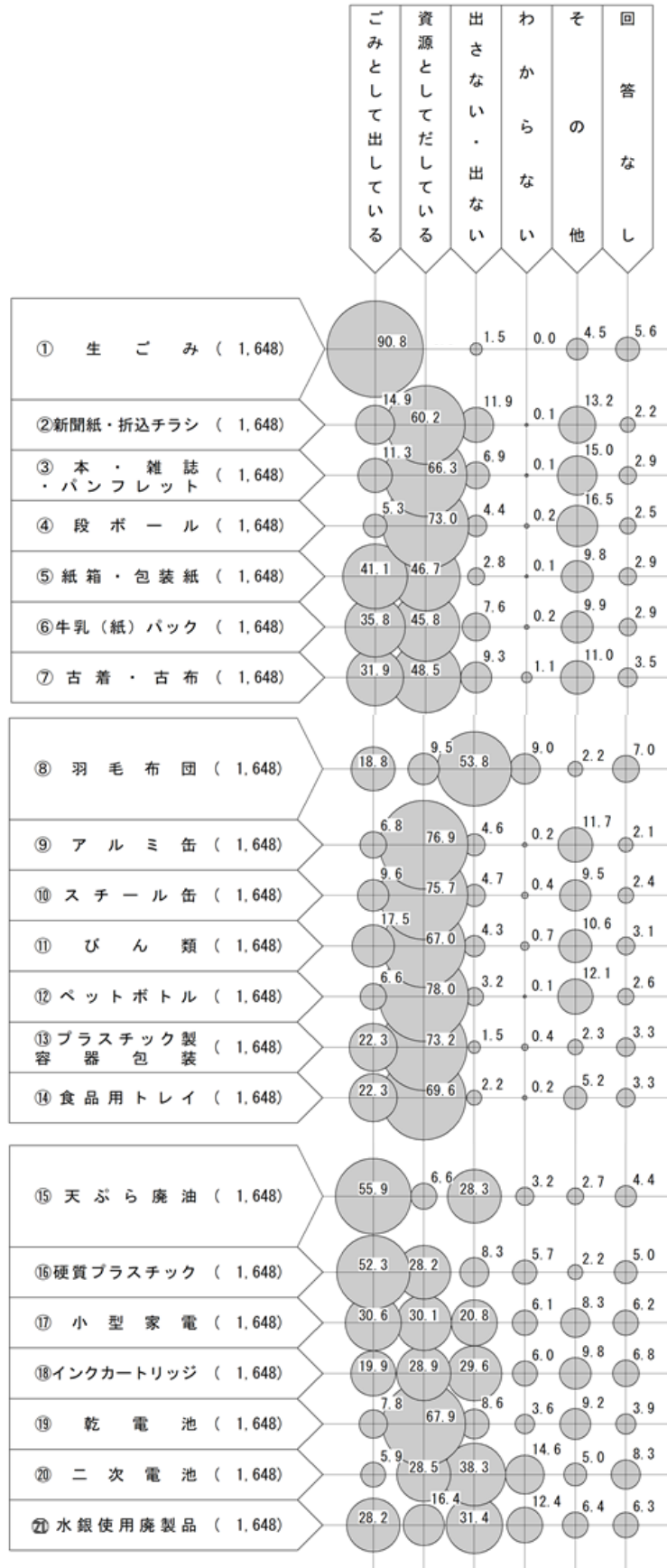


図 3-1-2 性別「ごみと資源の出し方（ごみとして出している）」

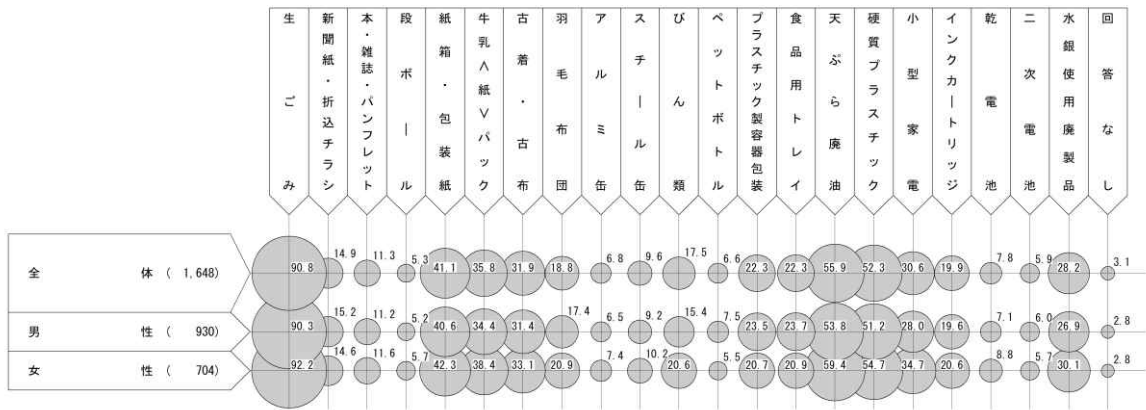


図 3-1-3 年齢別「ごみと資源の出し方（ごみとして出している）」

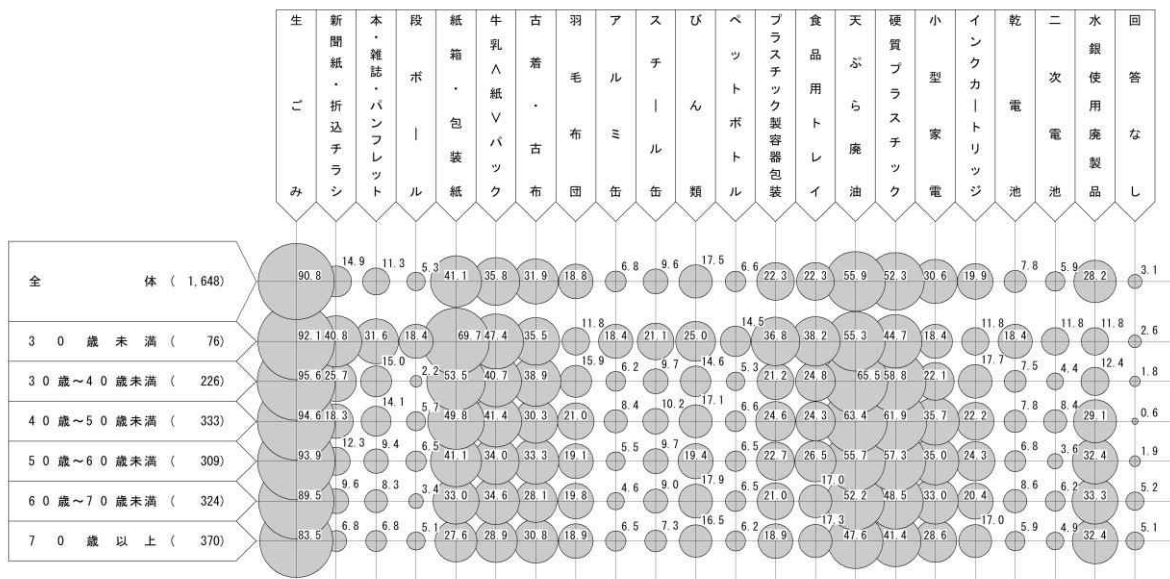


図 3-1-4 世帯人員別「ごみと資源の出し方（ごみとして出している）」

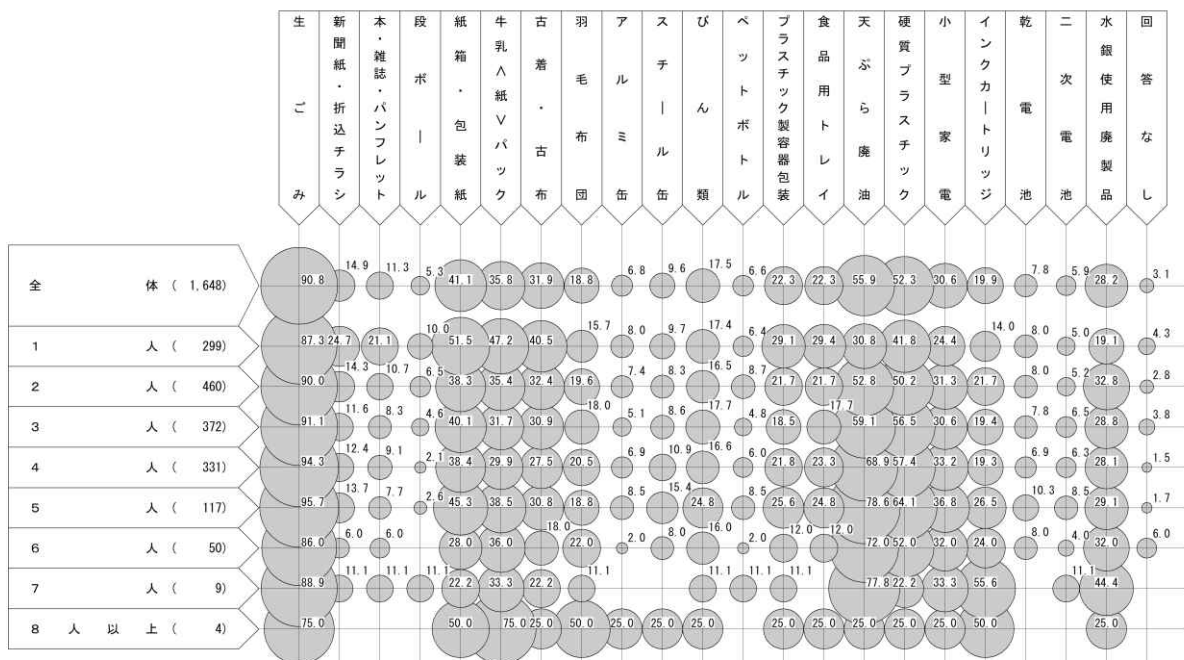


図 3-1-5 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「ごみと資源の出し方（ごみとして出している）」

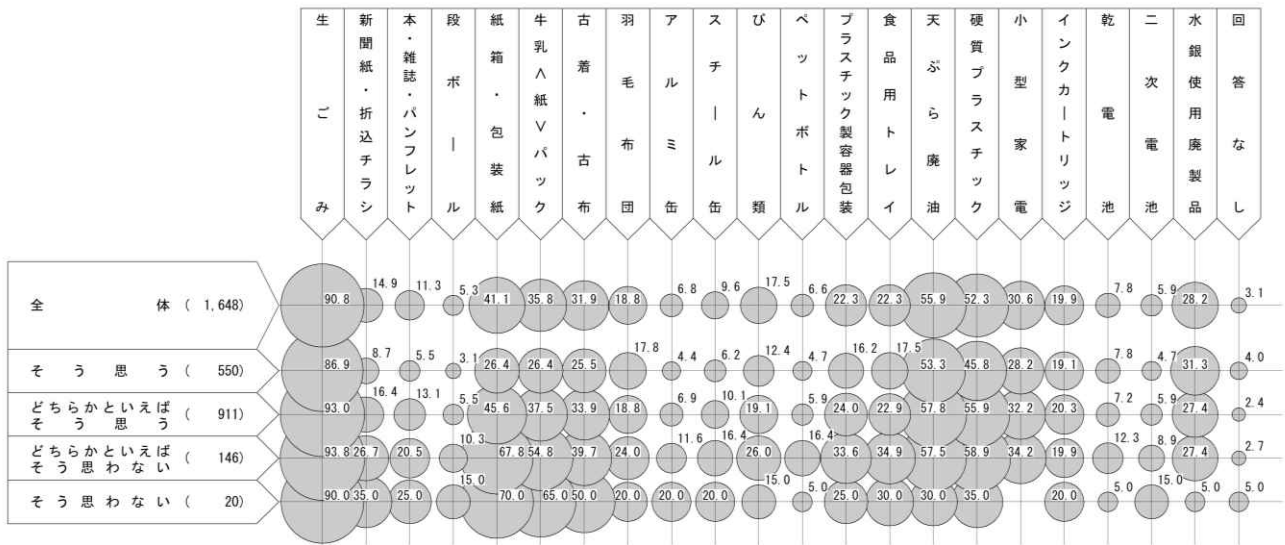
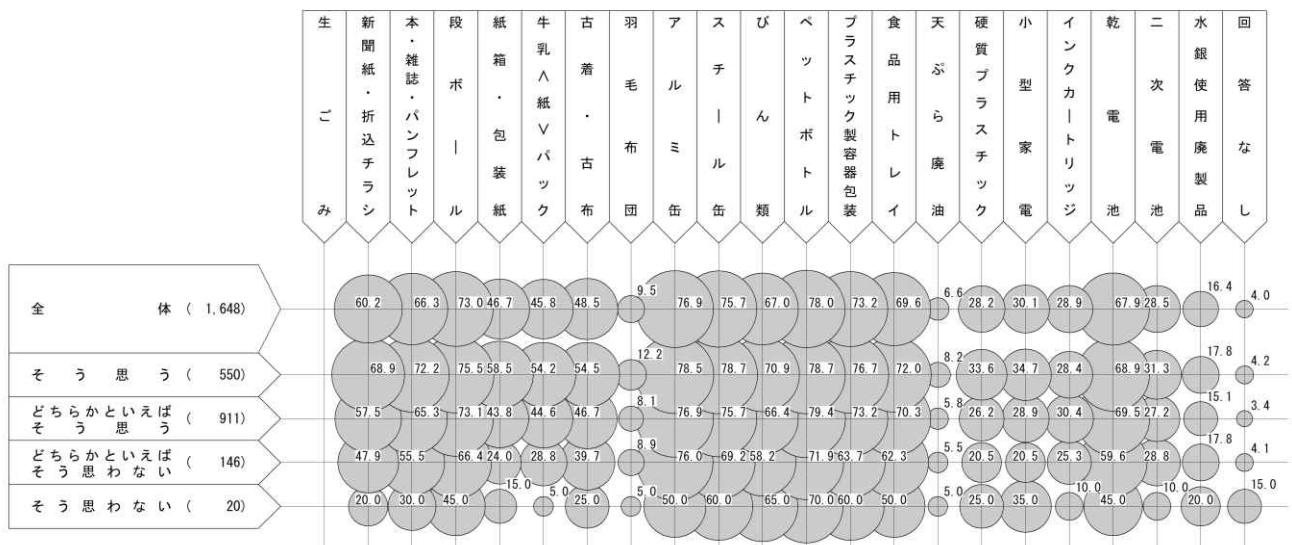


図 3-1-6 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「ごみと資源の出し方（資源として出している）」



## (2) ごみと資源の分別

問 16 あなたの家庭では、ごみと資源をどのように分別していますか。

◆ごみと資源の分別は、「すべての品目ごとに分別している」と「だいたい品目ごとに分別している」を合わせると 97.8% の家庭で行われています。

- ごみと資源の分別は、「すべての品目ごとに分別している」が 32.8%、「だいたい品目ごとに分別している」が 65.0% で、合わせると 97.8% の家庭で行われています。
- 年齢別でみると、「すべての品目ごとに分別をしている」の割合は、年齢が上がるにしたがって順次高くなっていく傾向がみられ、70 歳以上では 44.3% になっています。
- いずれの年齢層においても「すべての品目ごとに分別している」と「だいたい品目ごとに分別している」を合わせた割合は 9 割を超えています (図 3-2-2)。
- 世帯人員別でみると、「すべての品目ごとに分別している」の割合は、世帯人員数が 5 人の世帯では 19.7% と割合が低くなっていますが、この世帯も含め、いずれの世帯においても「すべての品目ごとに分別している」と「だいたい品目ごとに分別している」を合わせた割合は 9 割を超えています (図 3-2-3)。

図 3-2-1 性別「ごみと資源の分別」

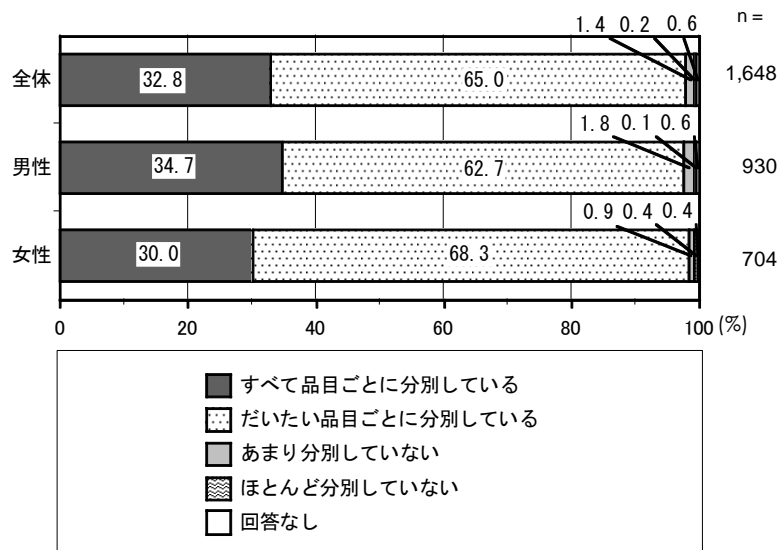


図 3-2-2 年齢別「ごみと資源の分別」

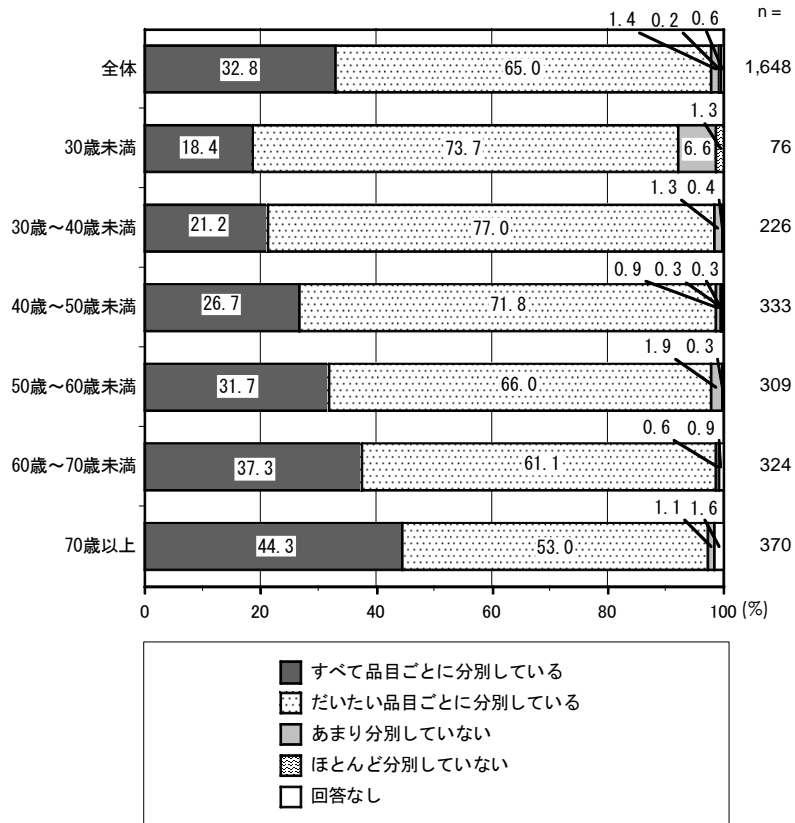


図 3-2-3 世帯人員別「ごみと資源の分別」

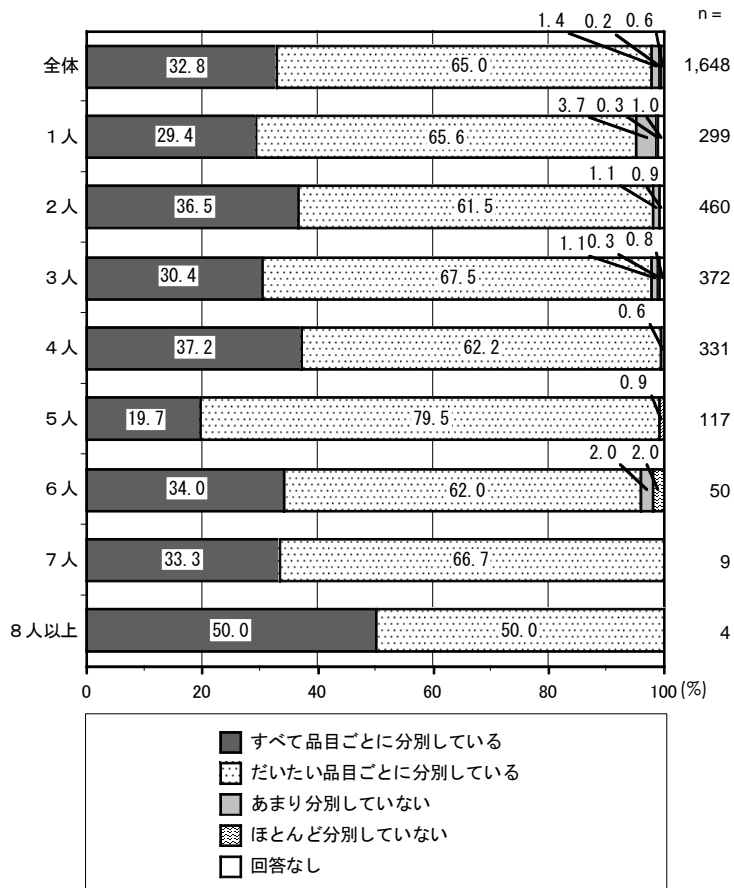
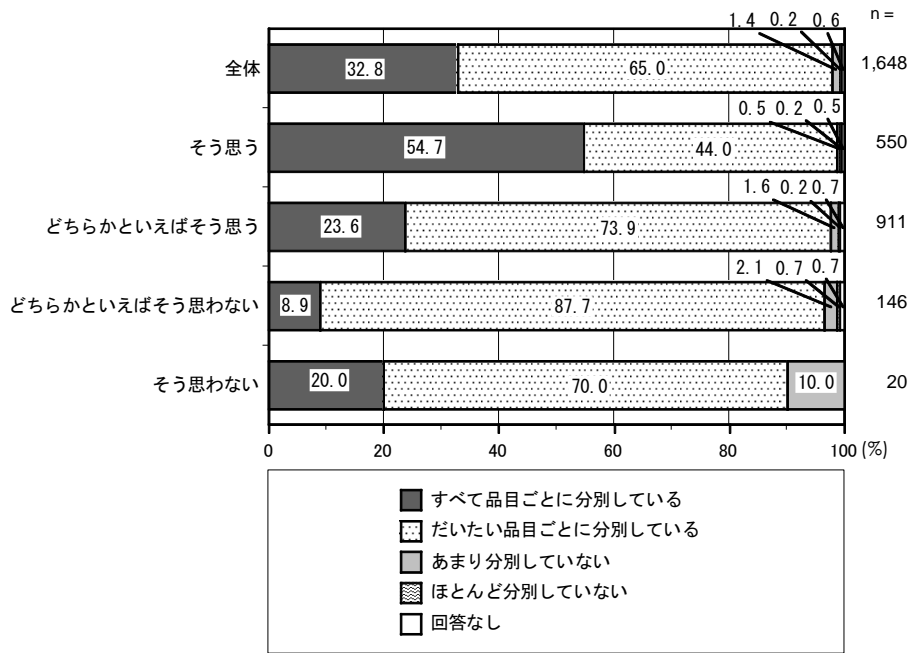




図 3-2-4 ごみの減量とリサイクルの心がけ別「ごみと資源の分別」



### (3) ごみと資源の分別で感じている事

問 17 あなたが、日頃、ごみと資源の分別で感じていることは何ですか。(あてはまるもの3つまで選んで○を)

◆ごみの分別で感じていることは、「洗うなどの手間がかかり面倒」が48.4%と最も高く、次いで「分別しても収集日までに家の中に置いておく場所が無い」33.3%、「常設場・拠点場までの場所が遠い」17.5%となっています。

- 
- ごみの分別で感じていることについては、「洗うなどの手間がかかり面倒」が48.4%と最も高く、次いで「分別しても収集日までに家の中に置いておく場所が無い」が33.3%、「常設場・拠点場までの場所が遠い」17.5%、「分別の方法がわからない」が14.3%となっています。
  - 年齢別でみると、「特にない」との回答は、年齢層が上がるにしたがって割合が高くなる傾向がみられ、若い世代において、ごみと分別について何らかを感じている人が多くなっています。特に30歳未満では「分別の方法がよくわからない」が27.6%と全体値に比べて高い割合になっています。また、30歳代では「分別しても収集日までに家の中に置いておく場所が無い」が47.3%と高い割合となっています(図3-3-2)。
  - 世帯人員別でみると、「分別しても収集日までに家の中に置いておく場所が無い」については、世帯人員が多いほど割合が高くなる傾向がみられます(図3-3-3)。
  - ごみ減量とリサイクルの心がけ別でみると、ごみの減量とリサイクルを心がけていると「思っている」人でも、そうでない人ほどではないものの、「洗うなどの手間がかかり面倒」や「分別しても収集日までに家の中に置いておく場所が無い」と感じている割合は決して少なくありません。また、「分別の方法がわからない」についても11.3%みられます(図3-3-4)。
-

図 3-3-1 性別「ごみと資源の分別で感じている事」

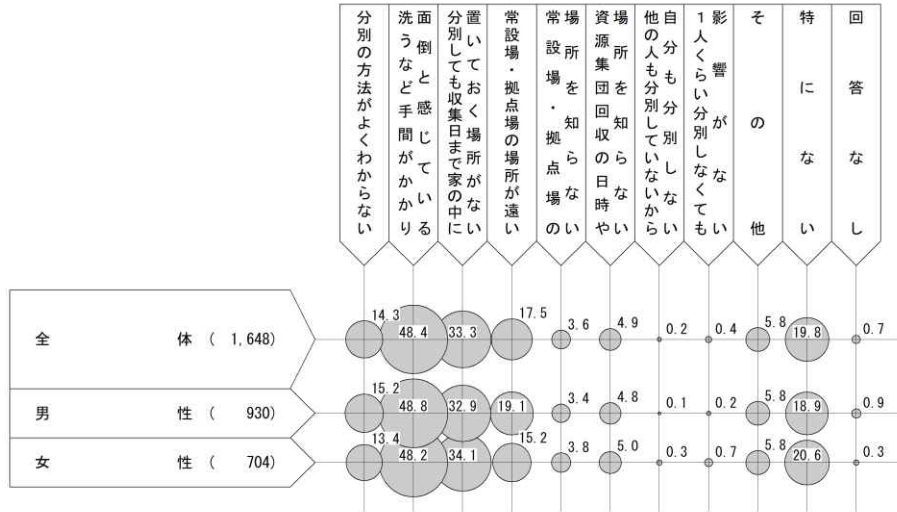


図 3-3-2 年齢別「ごみと資源の分別で感じている事」

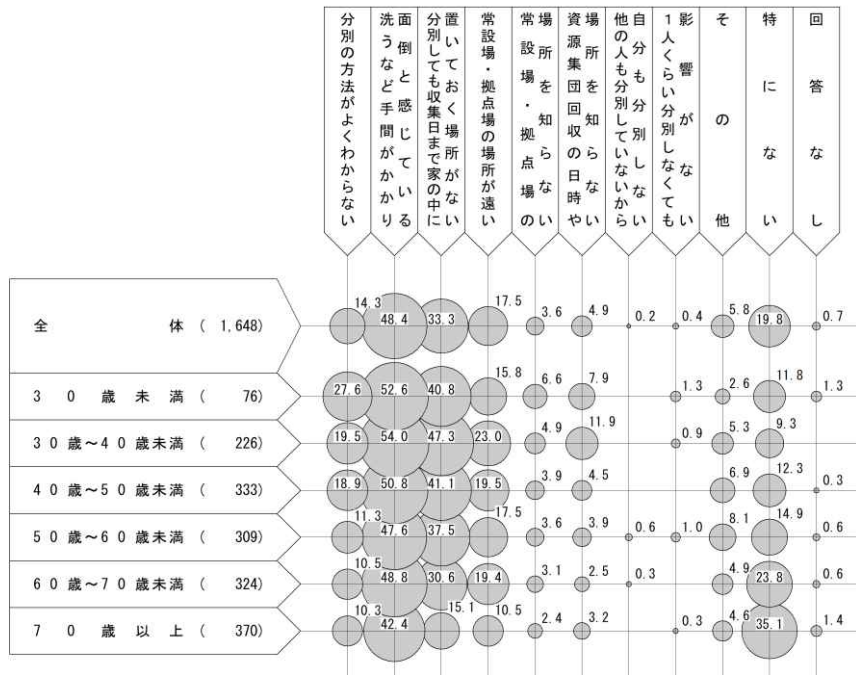


図 3-3-3 世帯人員別「ごみと資源の分別で感じている事」

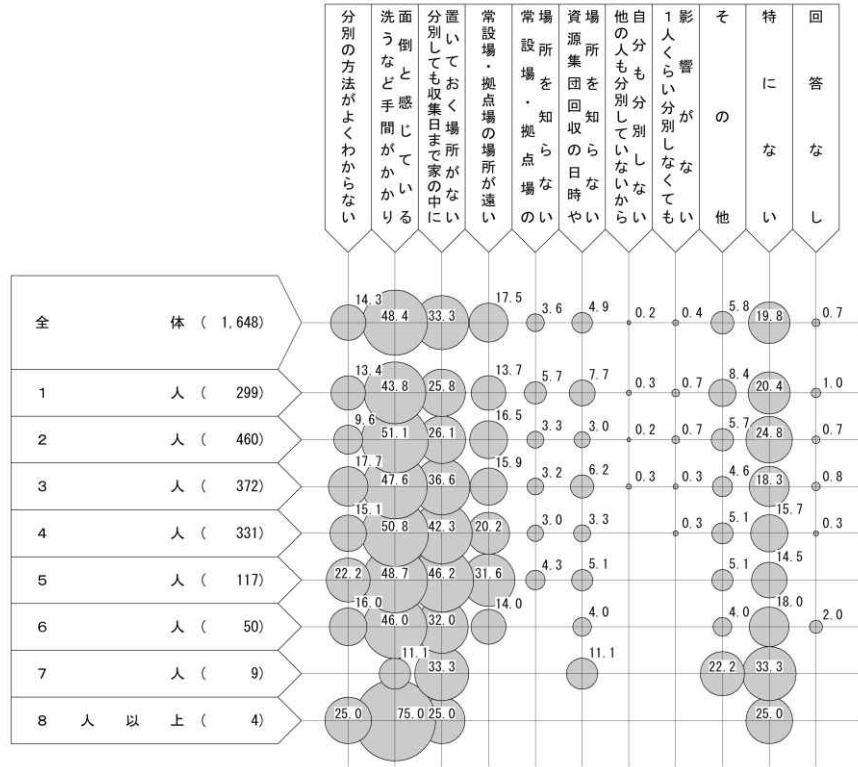
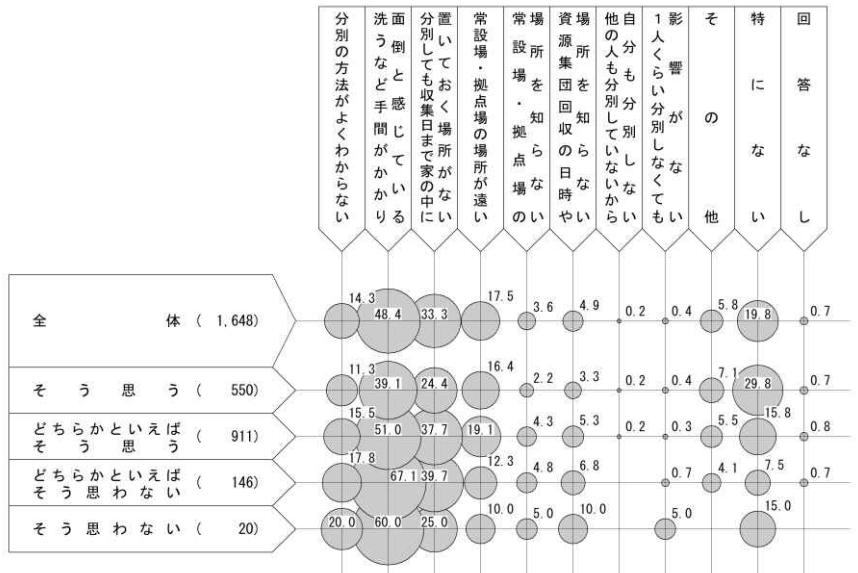


図 3-3-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「ごみと資源の分別で感じている事」



#### (4) 資源分別収集の常設場の利用状況

問 18 あなたの家庭では、資源分別収集の常設場（清掃センター内）をどの程度利用されていますか。

◆資源別収集の常設場(清掃センター内)の利用状況は、「週 1 回以上利用する」の 4.4%、「月 1 回以上利用する」の 14.7%、「年 1 回以上利用する」の 36.7%を合わせて“年に 1 回以上利用する”割合が 55.8%であるのに対して、「利用しない」の割合は、43.2%となっています。

- 資源別収集の常設場（清掃センター内）の利用状況は、「週 1 回以上利用する」の 4.4%、「月 1 回以上利用する」の 14.7%、「年 1 回以上利用する」の 36.7%を合わせて“年に 1 回以上利用する”割合が 55.8%であるのに対して、「利用しない」の割合は、43.2%となっています。
- 年齢別でみると、「利用しない」との回答が 30 歳未満において 60.5%と最も高くなっています。一方、40 歳代では 38.4%と他の年齢層に比べて低くなっており、比較的に利用されている状況がみられます（図 3-4-2）。
- 世帯人員別でみると、「利用しない」との回答は世帯人員が多くなるほど概ね低くなる傾向（利用状況が高まる傾向）がみられます（図 3-4-3）。
- 居住地別でみると、市内の北部の居住者に利用されている傾向がみられます（図 3-4-5）。

図 3-4-1 性別「資源分別収集の常設場利用頻度」

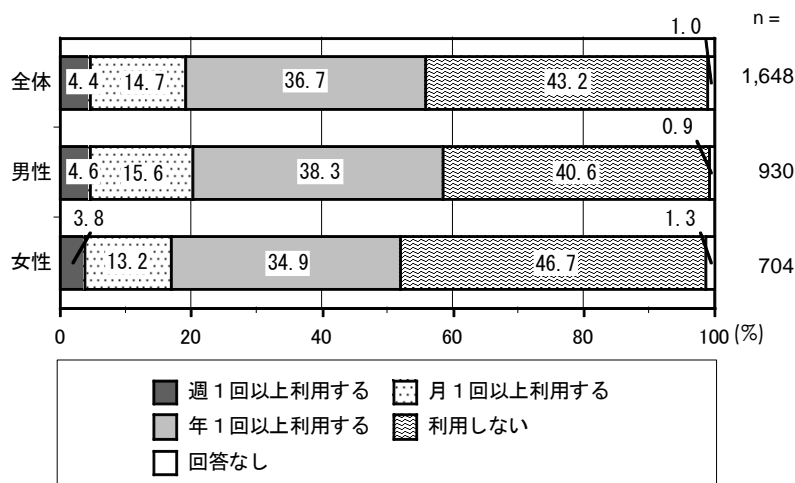


図 3-4-2 年齢別「資源分別収集の常設場利用頻度」

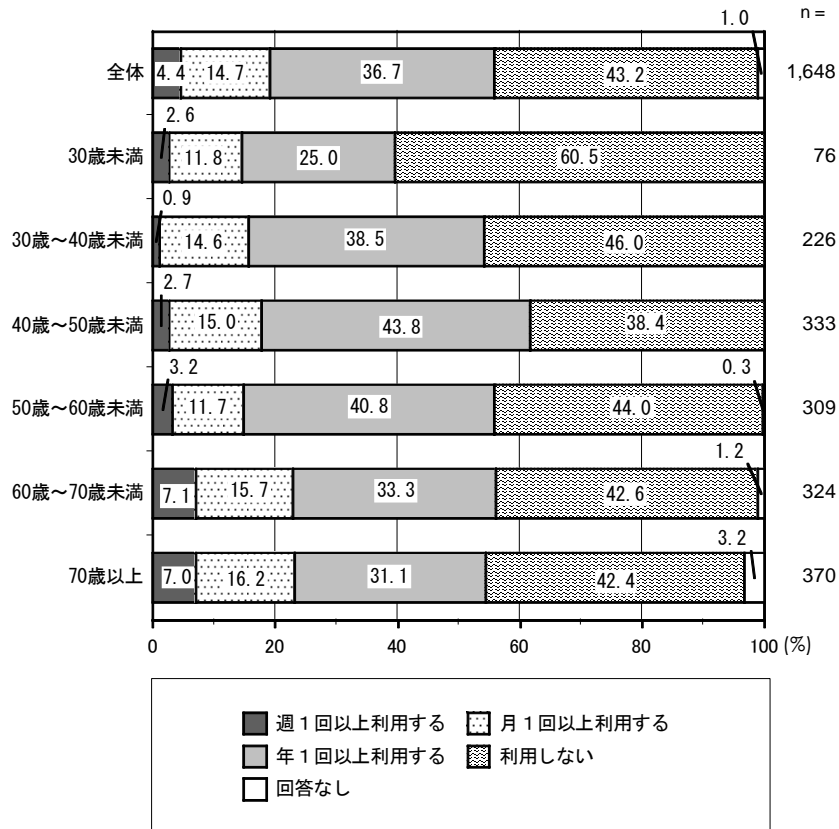


図 3-4-3 世帯人員別「資源分別収集の常設場利用頻度」

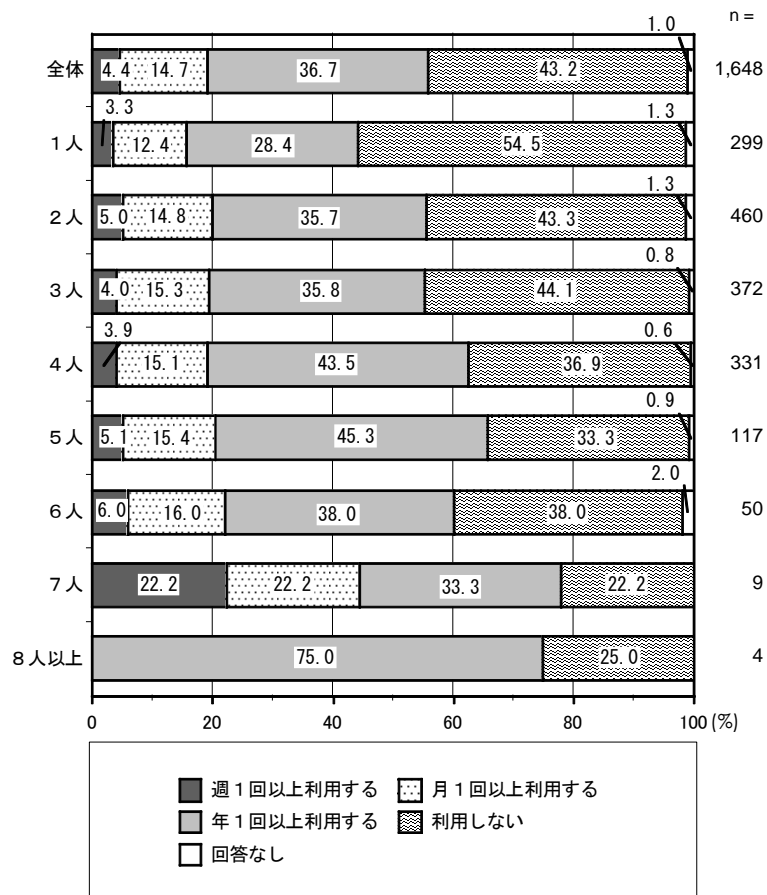


図 3-4-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「資源分別収集の常設場利用頻度」

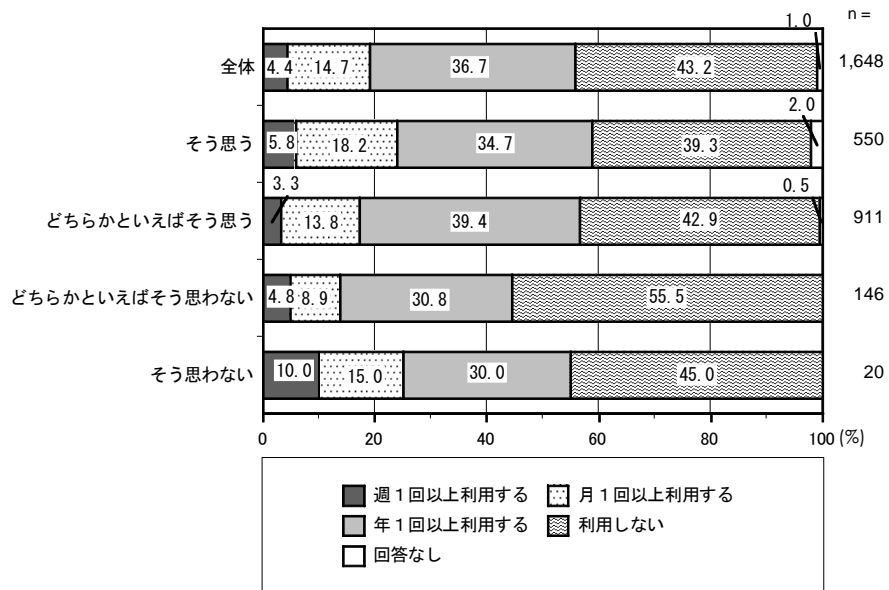
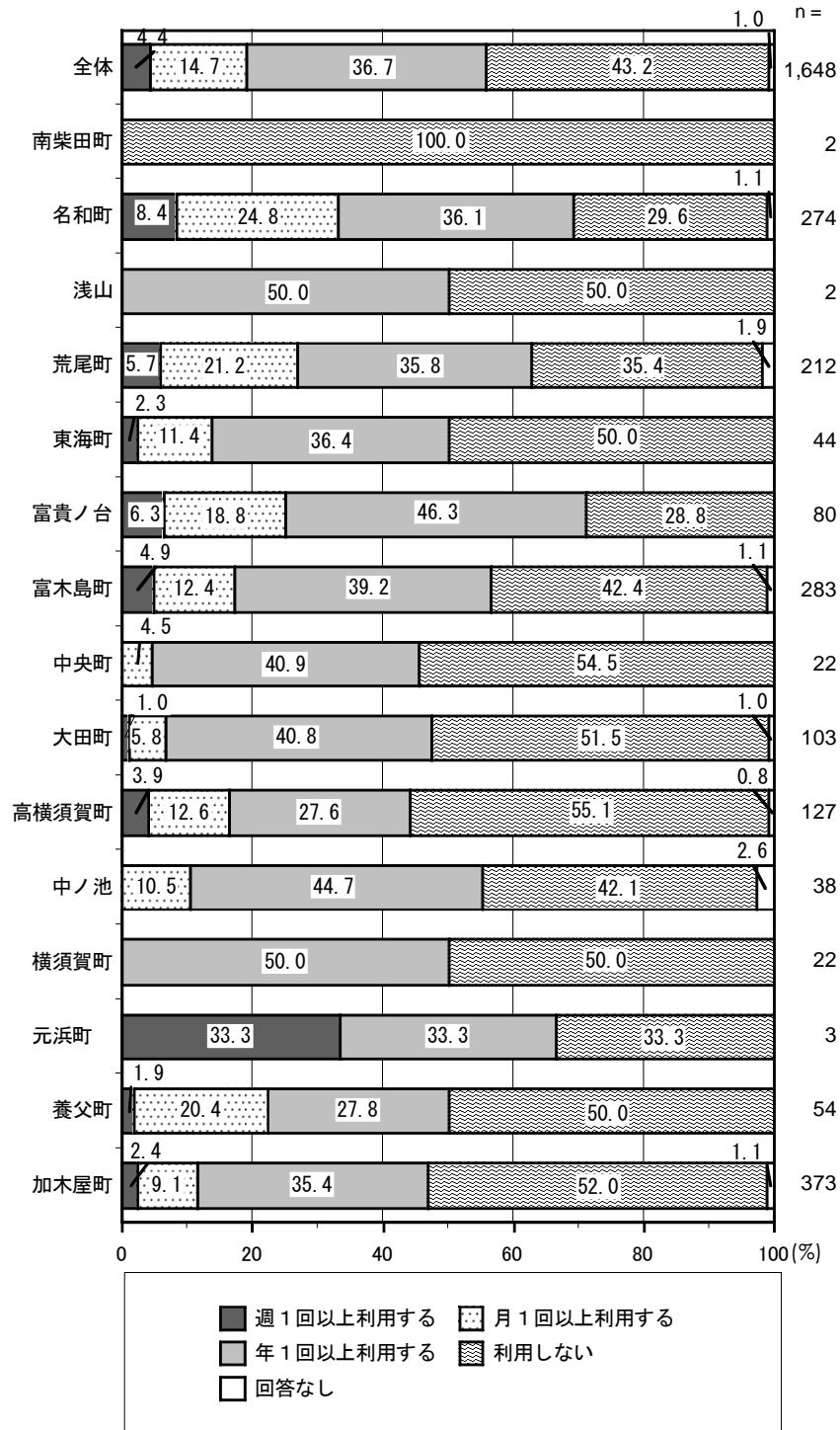


図 3-4-5 居住地別「資源分別収集の常設場利用頻度」





### (5) 地域の資源別収集拠点場の利用頻度

問 19 あなたの家庭では、資源別収集の拠点場をどの程度利用されますか。

◆資源別収集の拠点場の利用状況は、「月1回程度利用する」の8.7%、「半年に1回以上利用する」の7.8%、「年1回以上利用する」の7.8%を合わせて“年に1回以上利用する”割合が24.3%に対して、「利用しない」の割合は、73.5%となっています。

- 資源別収集の拠点場の利用状況は、「月1回程度利用する」の8.7%、「半年に1回以上利用する」の7.8%、「年1回以上利用する」の7.8%を合わせて“年に1回以上利用する”割合が24.3%、「利用しない割合」は、73.5%となっています。
- 年齢別でみると、年齢層が上がるにしたがって「利用しない」の割合が順次低くなる傾向がみられますが、最も低い70歳以上においても「利用しない」が64.6%となっています（図3-5-2）。
- 世帯人員別でみると、単身世帯で「利用しない」の割合が若干高くなっていますが、全般的に大きな差はみられません（図3-5-3）。
- 居住地別の拠点場の利用状況を見ると、横須賀町（36.4%）、高横須賀町（30.6%）、富貴ノ台（30.1%）の順に利用する割合が高くなっています（図3-5-5）。

図 3-5-1 性別「拠点場の利用頻度」

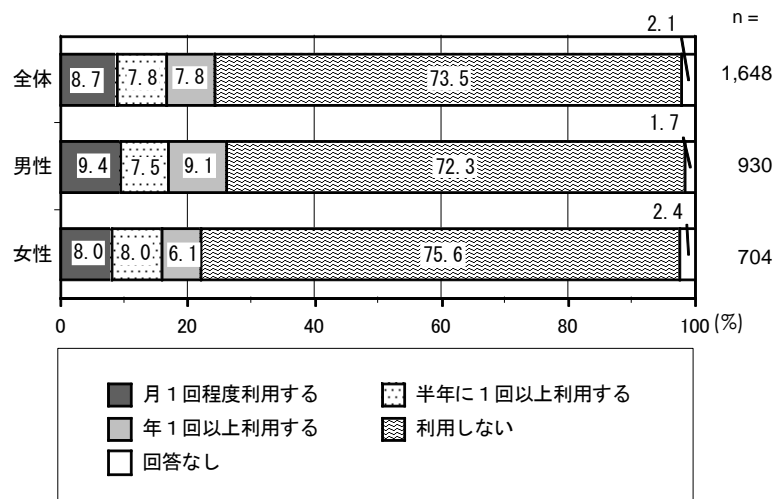


図 3-5-2 年齢別「拠点場の利用頻度」

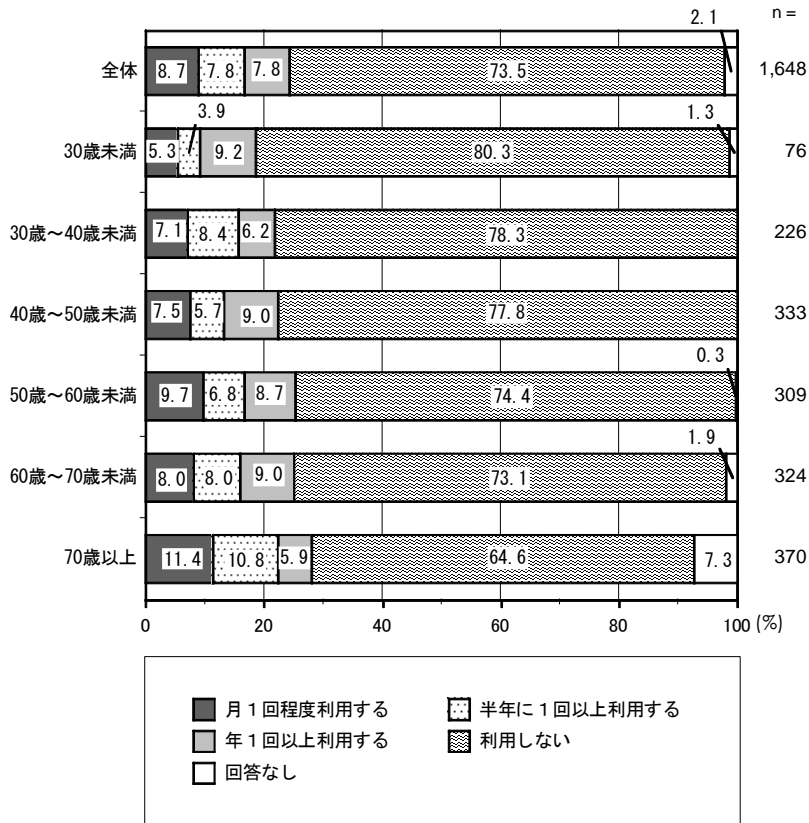


図 3-5-3 世帯人員別「拠点場の利用頻度」

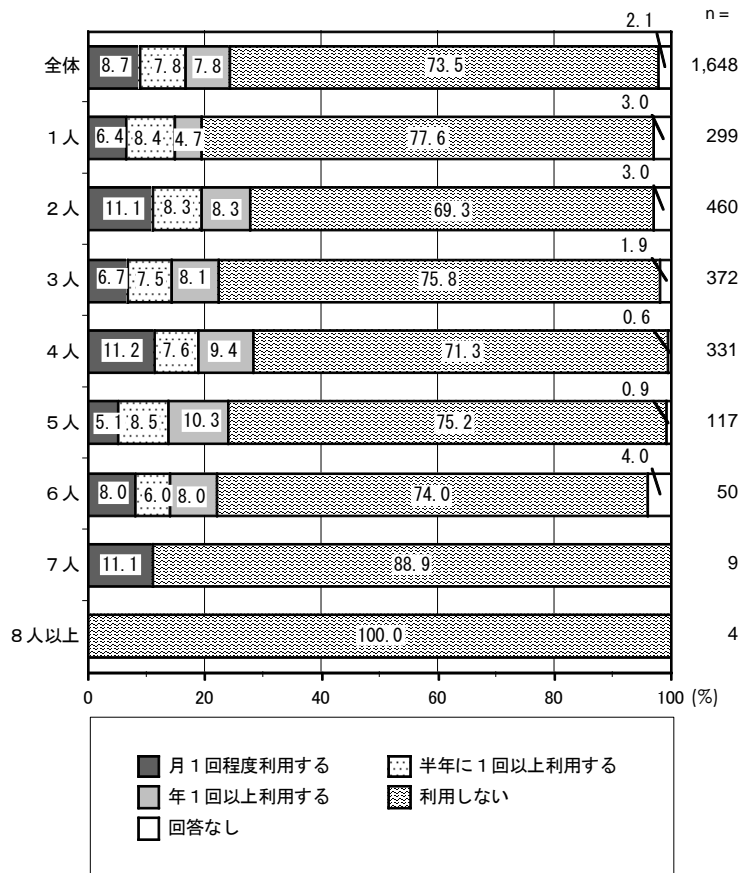


図 3-5-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「拠点場の利用頻度」

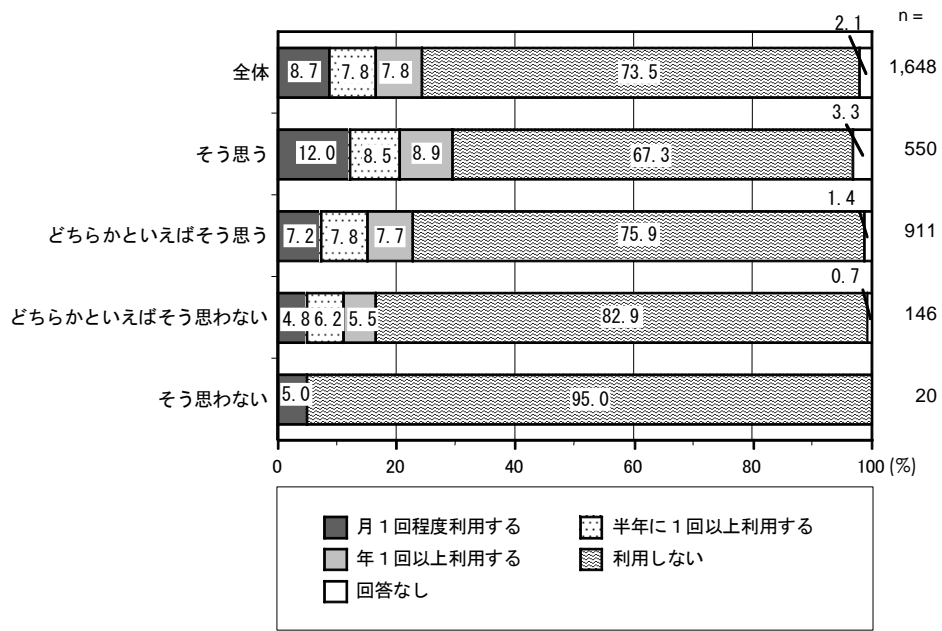
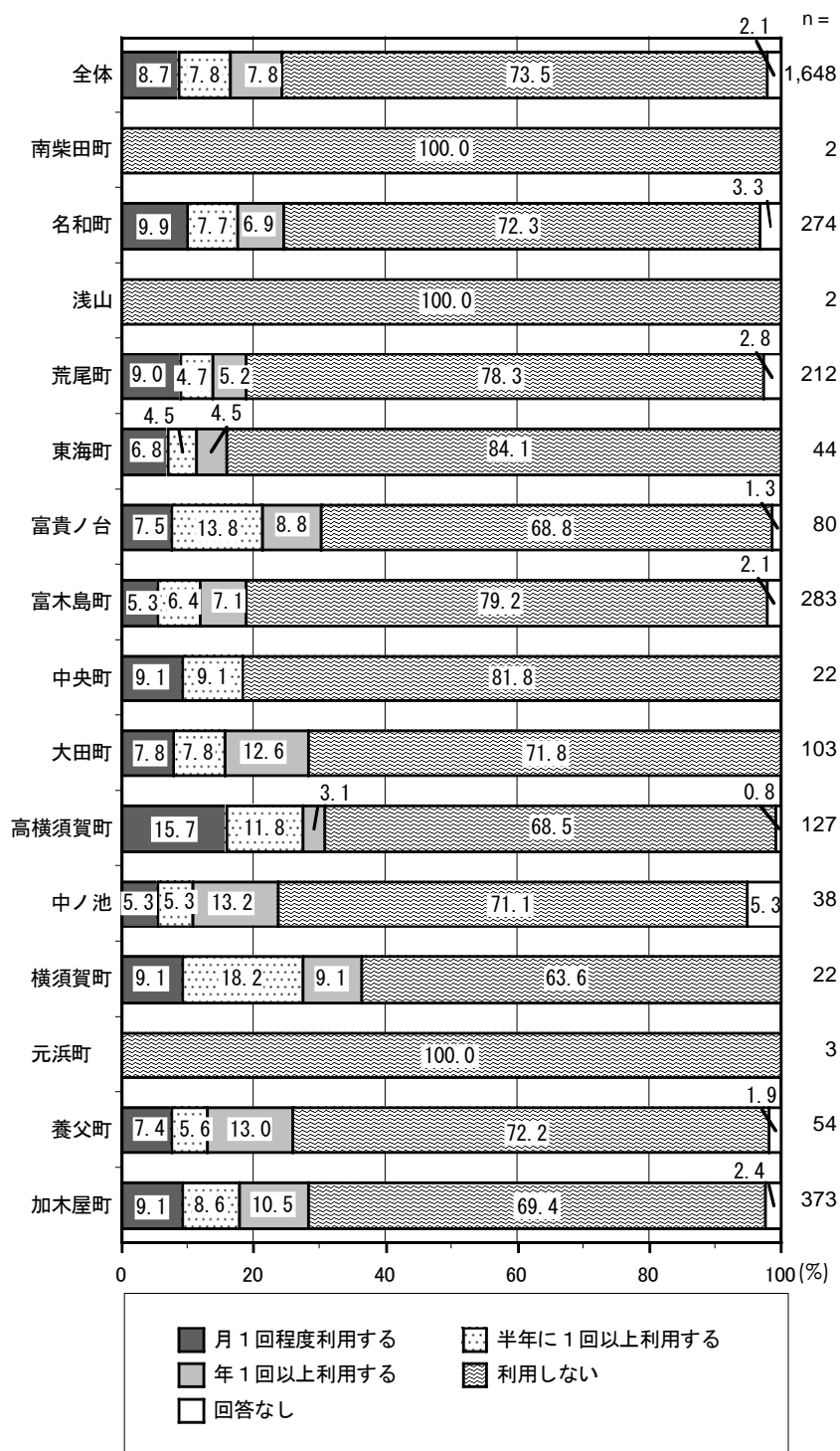


図 3-5-5 居住地別「拠点場の利用頻度」



## (6) 地域の資源集団回収の利用頻度

問 20 あなたの家庭では、地域で行われている資源集団回収をどの程度利用されますか。

◆地域で行われている資源集団回収の利用状況は、「ほぼ毎回利用する」の 30.8%、「半年に 1 回以上利用する」の 10.8%、「年 1 回以上利用する」の 6.9%を合わせて“年に 1 回以上利用する”割合が 48.5%に対して、「利用しない」の割合は、50.2%となっています。

- 地域で行われている資源集団回収の利用状況は、「ほぼ毎回利用する」の 30.8%、「半年に 1 回以上利用する」の 10.8%、「年 1 回以上利用する」の 6.9%を合わせて“年に 1 回以上利用する”割合が 48.5%に対して、「利用しない」の割合は 50.2%となっています。
- 年齢別でみると、年齢層が上がるにしたがって「ほぼ毎回利用する」の割合が高くなる傾向があり、70 歳以上では 47.6%と半数近くになっており、また、これに「半年に 1 回以上利用する」(11.9%)と「年 1 回以上利用する」(5.7%)を加えると地域で行われている資源集団回収“年に 1 回以上利用する”人の割合は 65.2%で、「利用しない」(31.4%)を 33.8ポイントも上回っています。一方、30 歳未満では、「利用しない」が 84.2%と高くなっています(図 3-6-2)。
- 世帯人員別でみると、世帯人員数が多いほど地域で行われている資源集団回収を利用している割合が高くなる傾向がみられます(図 3-6-3)。
- ごみ減量とリサイクルの心がけ別でみると、ごみの減量とリサイクルを心がけていると「思っている」人ほど地域で行われている資源集団回収を利用している割合が高くなっています(図 3-6-4)。
- 居住地別でみると、南柴田町、荒尾町、加木屋町、富木島町で割合が高くなっています(図 3-6-5)。

図 3-6-1 性別「地域の資源集団回収の利用頻度」

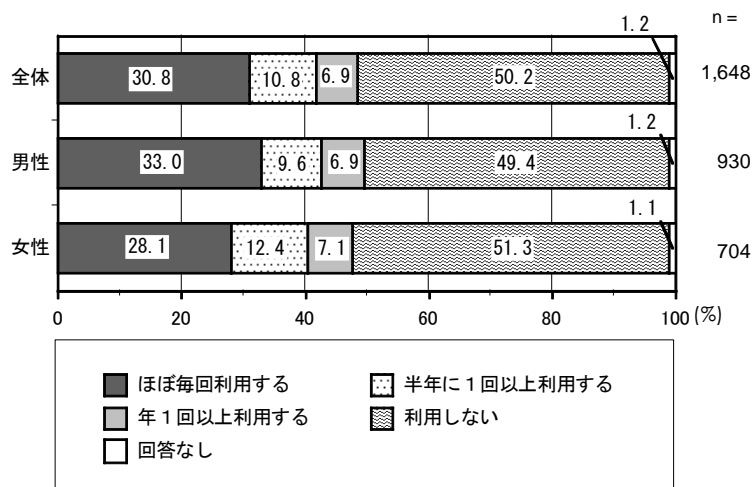


図 3-6-2 年齢別「地域の資源集団回収の利用頻度」

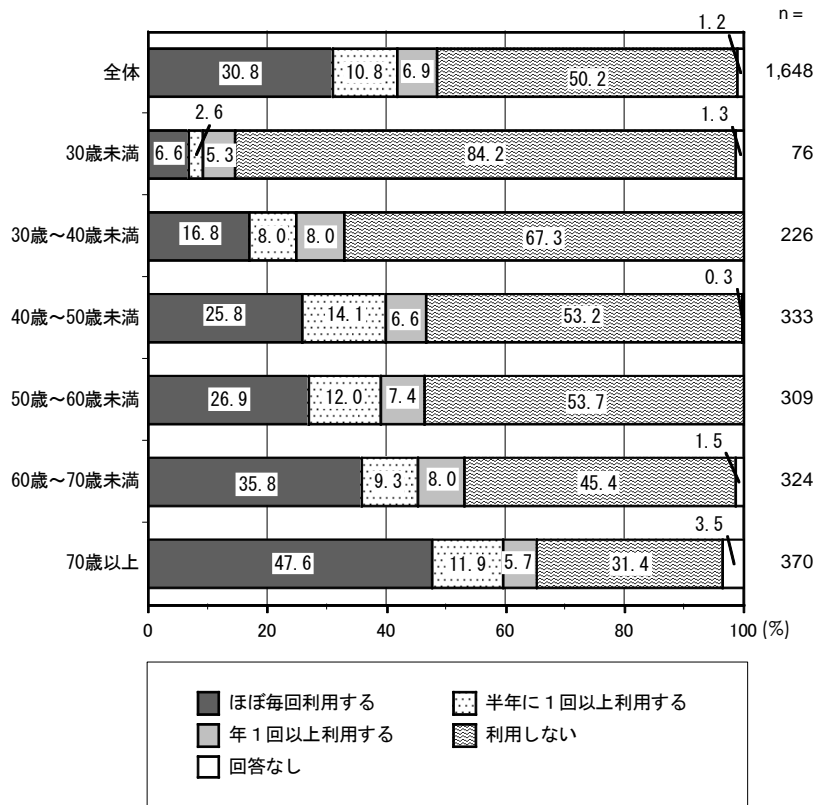


図 3-6-3 世帯人員別「地域の資源集団回収の利用頻度」

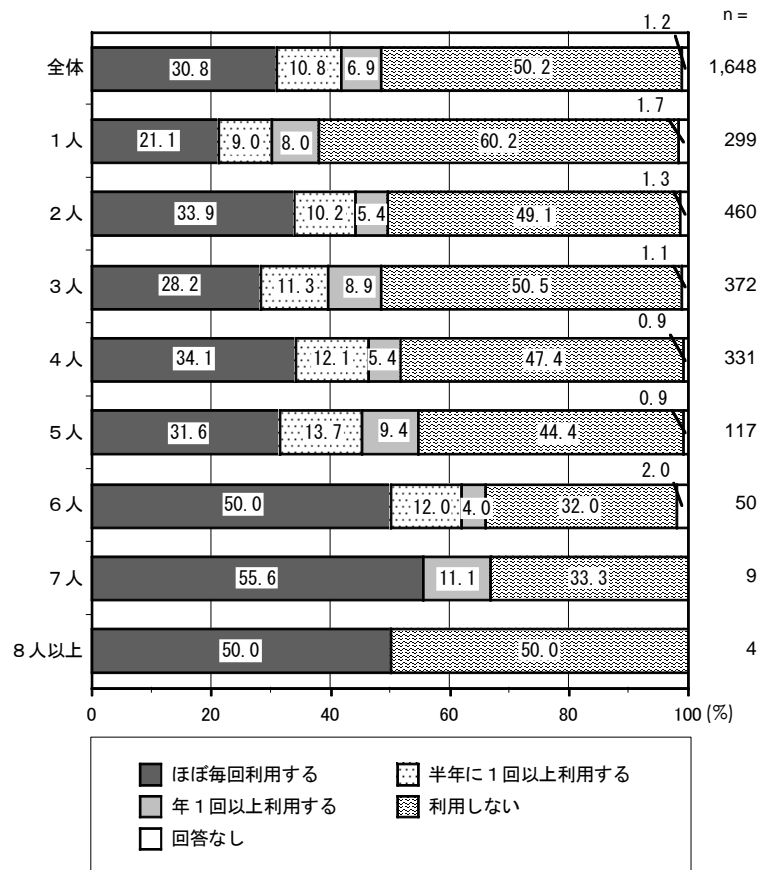


図 3-6-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「地域の資源集団回収の利用頻度」

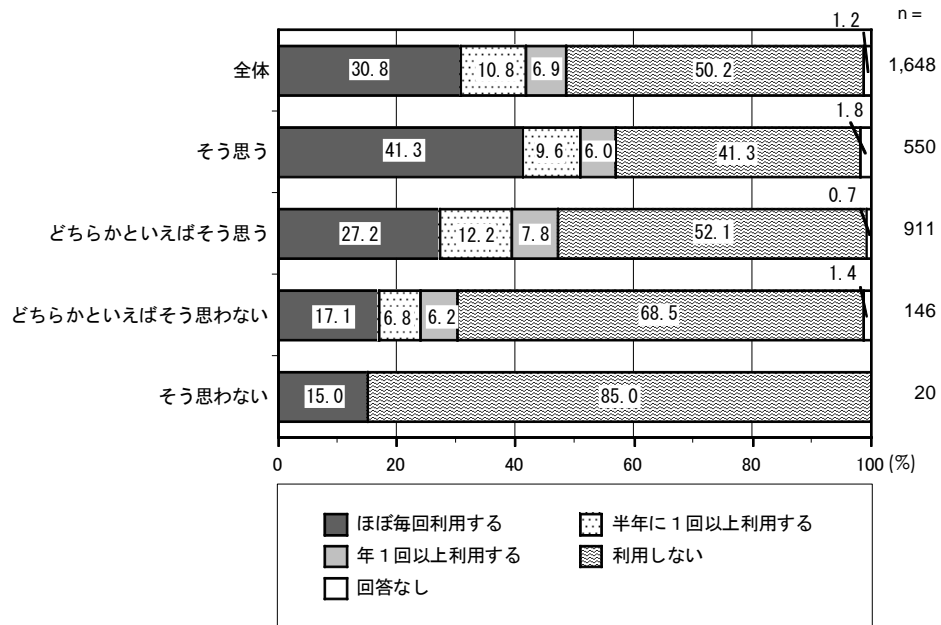
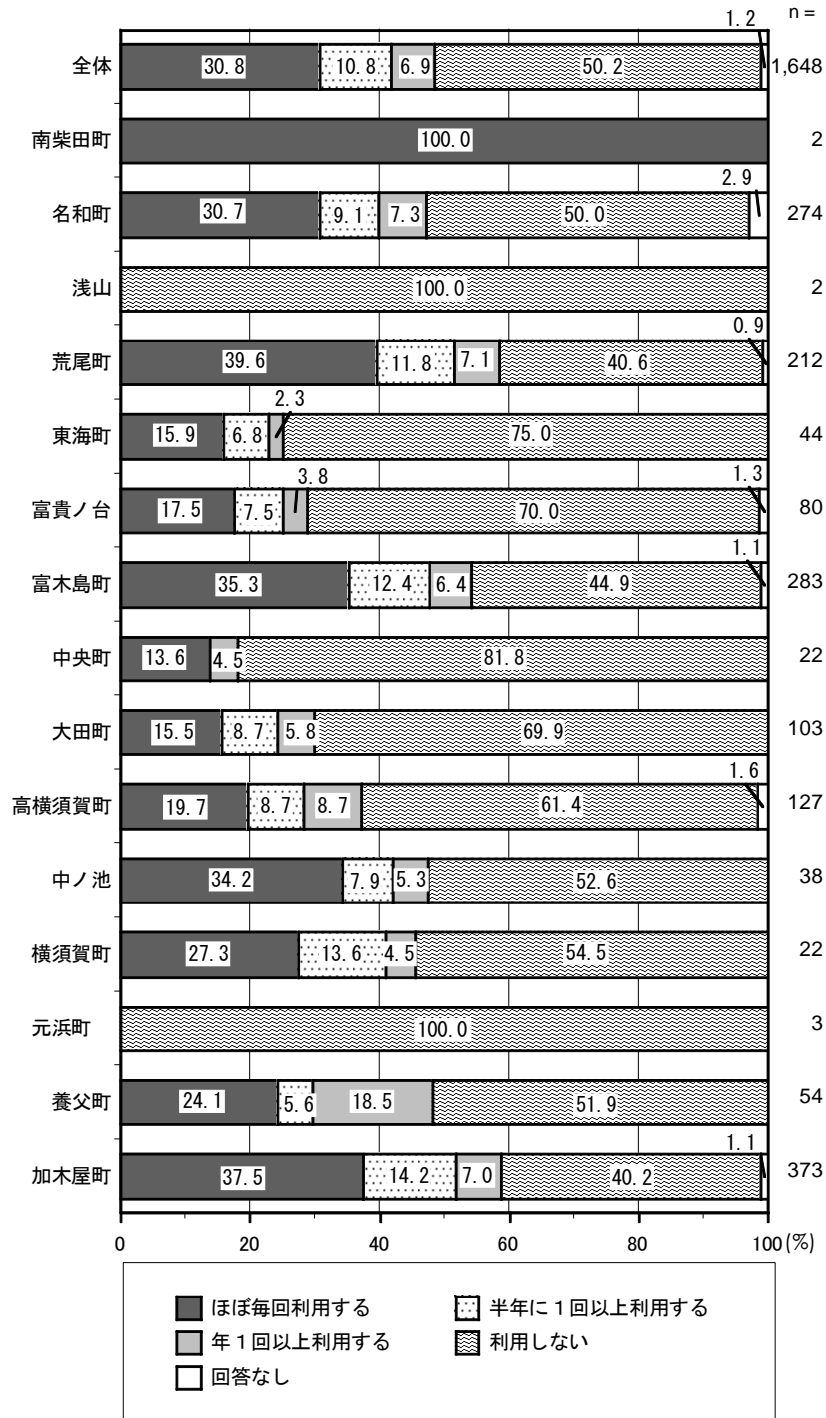


図 3-6-5 居住地別「地域の資源集団回収の利用頻度」





## (7) 民間の資源回収ステーションの利用頻度

問 21 あなたの家庭では、民間の資源回収ステーションをどの程度利用されますか。

◆民間の資源回収ステーションの利用状況は「月1回以上利用する」の36.9%、「半年に1回以上利用する」の17.6%、「年1回以上利用する」の7.9%を合わせて“年に1回以上利用する”割合が62.4%、「利用しない」の割合は、35.7%となっています。

- 民間の資源回収ステーションの利用状況は「月1回以上利用する」の36.9%、「半年に1回以上利用する」の17.6%、「年1回以上利用する」の7.9%を合わせて“年に1回以上利用する”割合が62.4%、「利用しない割合」は35.7%となっています。
- 年齢別でみると、「月1回以上利用する」の割合は30歳代で50.4%と最も高く、それ以降年齢層が上がるにしたがって割合が低くなる傾向がみられます（図3-7-2）。
- 世帯人員別でみると、世帯人員数が多いほど民間の資源回収ステーションを利用している割合が高くなる傾向がみられます（図3-7-3）。
- 居住地別でみると、高横須賀町、横須賀町の割合が高くなっています（図3-7-5）。

図3-7-1 性別「民間の資源回収ステーションの利用頻度」

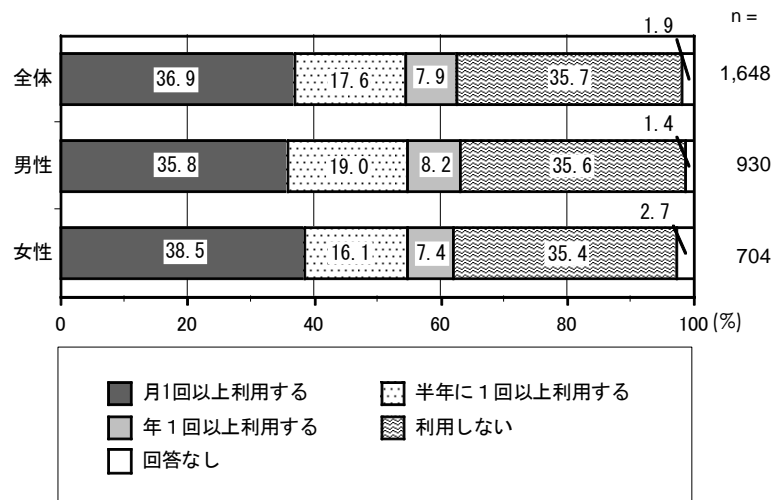


図 3-7-2 年齢別「民間の資源回収ステーションの利用頻度」

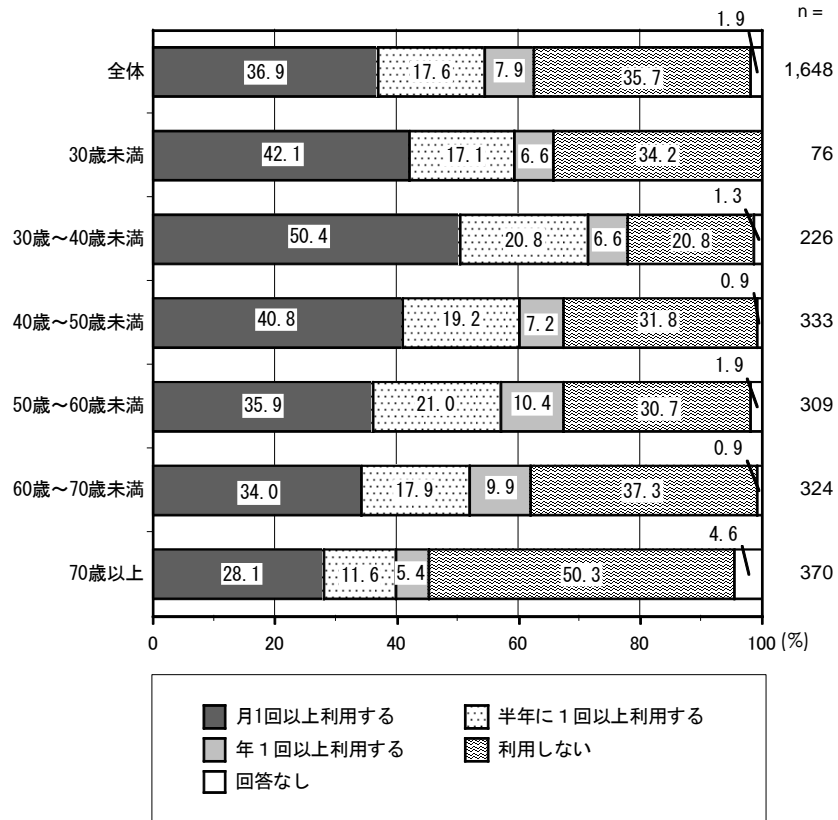


図 3-7-3 世帯人員別「民間の資源回収ステーションの利用頻度」

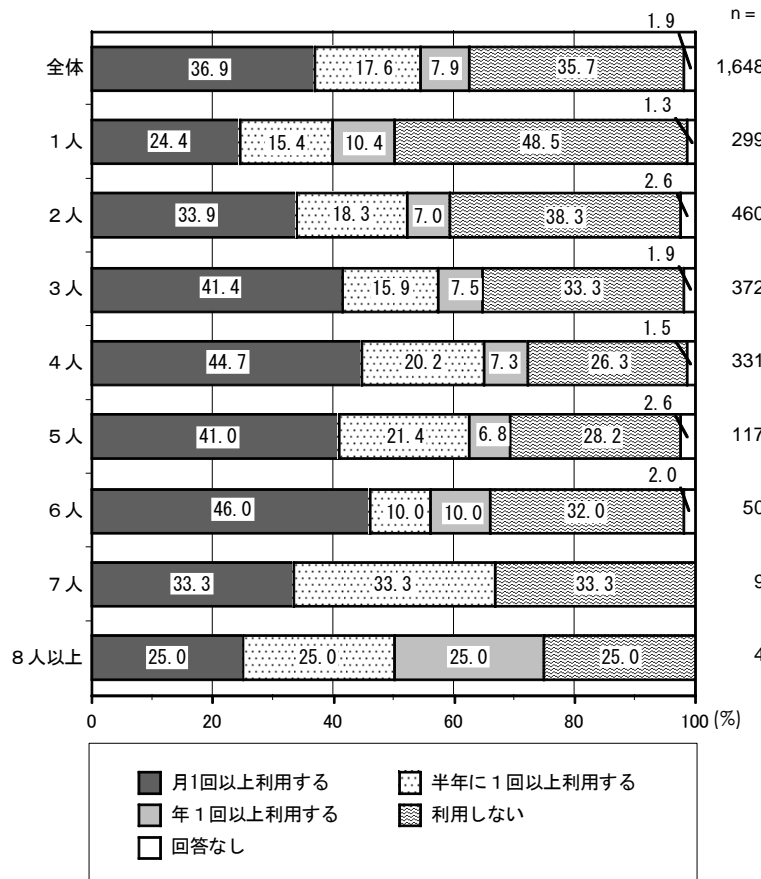


図 3-7-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「民間の資源回収ステーションの利用頻度」

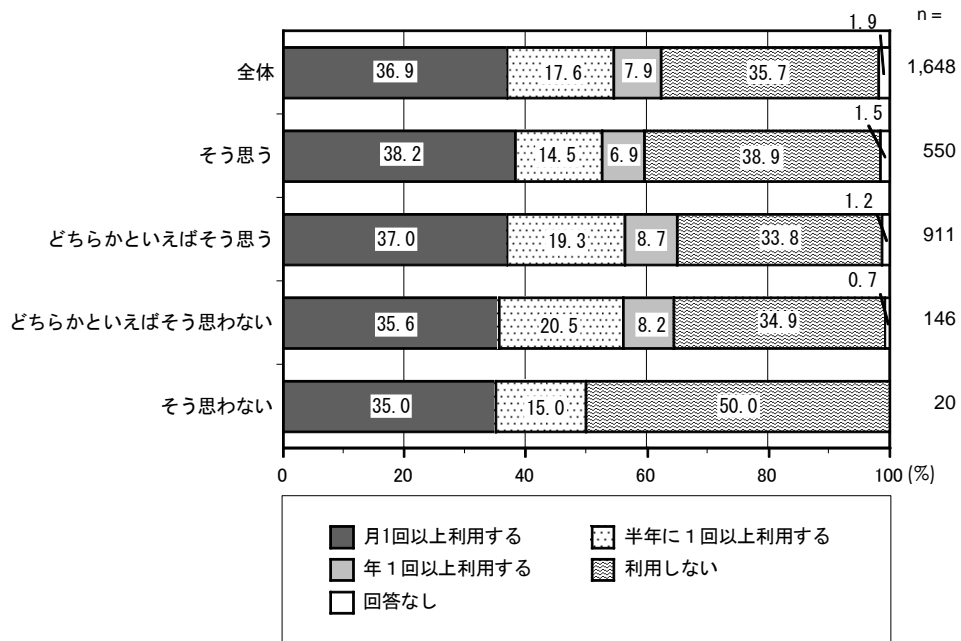
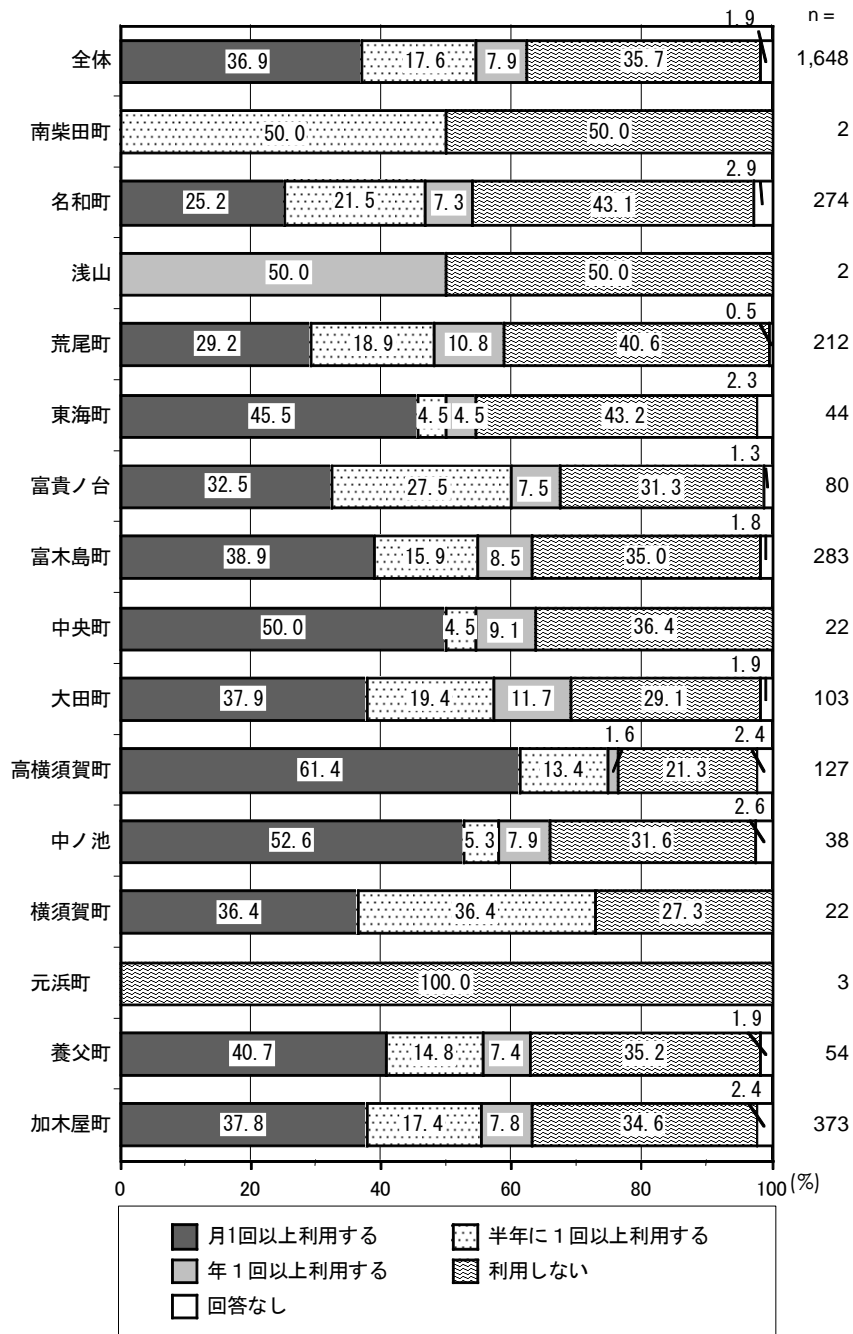


図 3-7-5 居住地別「民間の資源回収ステーションの利用頻度」



## (8) ごみに関する情報の入手方法

問 22 あなたの家庭では、ごみ出しや、ごみと資源の分別の方法、ごみに関する情報をどのような方法で主に入手していますか。(あてはまるものすべてに○を)

◆ごみに関する情報の入手方法は、「ごみ収集カレンダー」が86.6%と最も高く、次いで、「ごみと資源の出し方」(63.8%)、「市の広報紙」(16.8%)となっています。

- ごみに関する情報の入手方法は、「ごみ収集カレンダー」が86.6%で最も高い割合となっています。次いで、「ごみと資源の出し方」(63.8%)、「市の広報紙」(16.8%)となっています。
- 年齢別でみると、「ごみ収集カレンダー」、「ごみと資源の出し方」、「市の広報紙」といった紙媒体による情報は年配層で浸透している一方で、「市のホームページ」や「市のアプリ(東海なび)」といった電子媒体については、若い世代ほど利用している状況がみられます(図3-8-2)。
- 世帯人員別でみると、他の世帯に比べて単身世帯で「ごみ収集カレンダー」(77.3%)と「ごみと資源の出し方」(54.8%)の割合が低くなっていますが、全般的にみて世帯人員による有意な差はみられません(図3-8-3)。

図 3-8-1 性別「ごみに関する情報の入手方法」

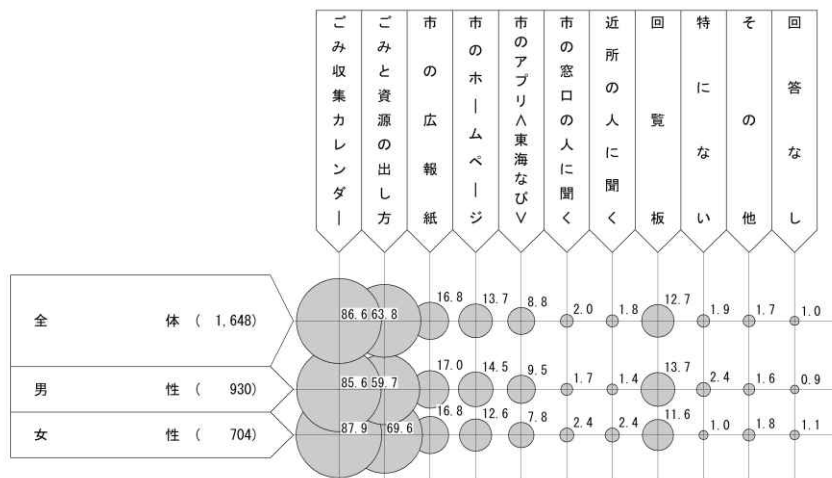


図 3-8-2 年齢別「ごみに関する情報の入手方法」

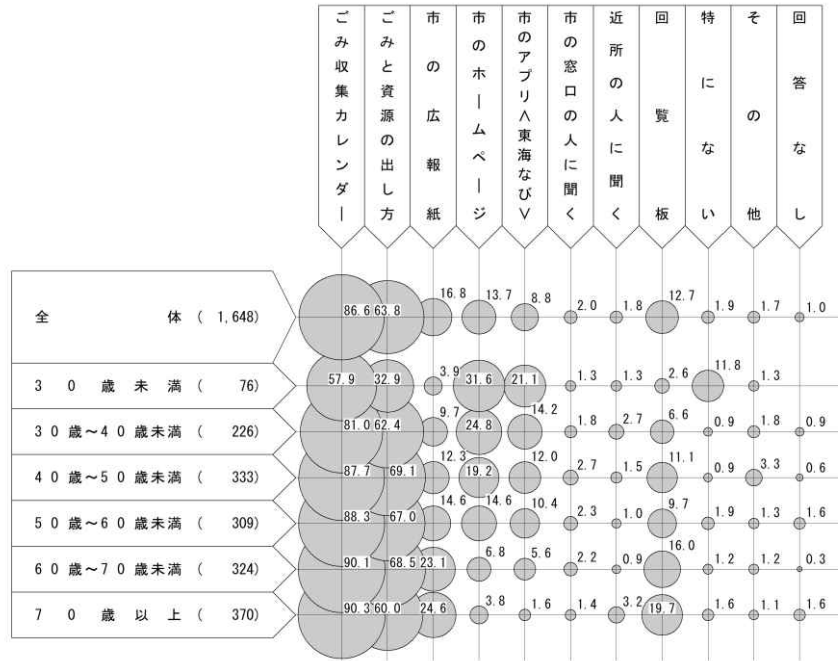


図 3-8-3 世帯人員別「ごみに関する情報の入手方法」

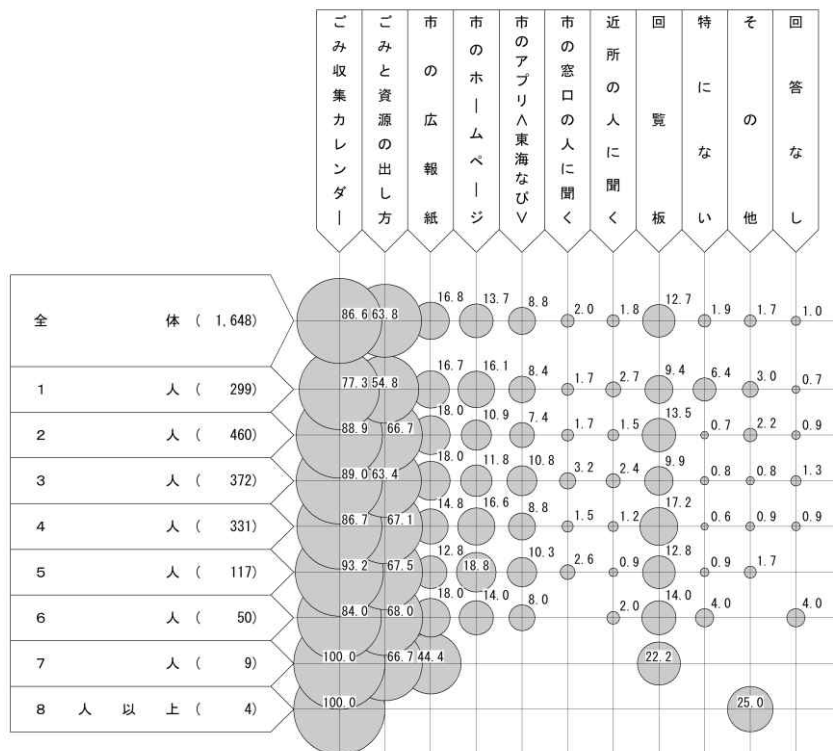
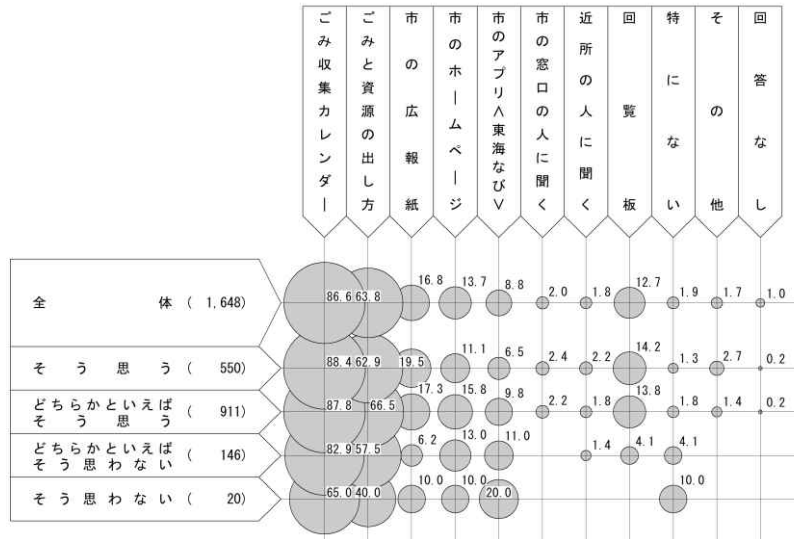


図 3-8-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「ごみに関する情報の入手方法」



### (9) 充実してほしいごみ情報の入手方法

問 23 あなた自身が今後、ごみ減量とリサイクルをより進めていくには、ごみ出しやごみと資源の分別の方法などの情報を得る手段として、どの方法を充実してほしいと思いますか。(あてはまるもの3つまで選んで○を)

#### ◆充実してほしいごみ情報入手方法は「各戸に配布するカレンダーやガイドブックの充実」が76.3%と最も高くなっています。

○充実してほしいごみ情報入手方法は、「各戸に配布するカレンダーやガイドブックの充実」が76.3%と最も高くなっています。次いで、「市の広報紙（広報とうかい）の記事の充実」（24.7%）、「市のホームページの充実」（19.5%）となっています。

○年齢別でみると、「各戸に配布するカレンダーやガイドブックの充実」や「市の広報紙（広報とうかい）の記事の充実」といった紙媒体に対するものは年配層になるほど高く、一方で、「市のホームページの充実」や「市のアプリ（東海なび）の充実」といった電子媒体のものは若い世代ほど高い傾向がみられます。

○世帯人員数による有意な差はみられません（図 3-9-3）。

図 3-9-1 性別「充実してほしいごみ情報の入手方法」

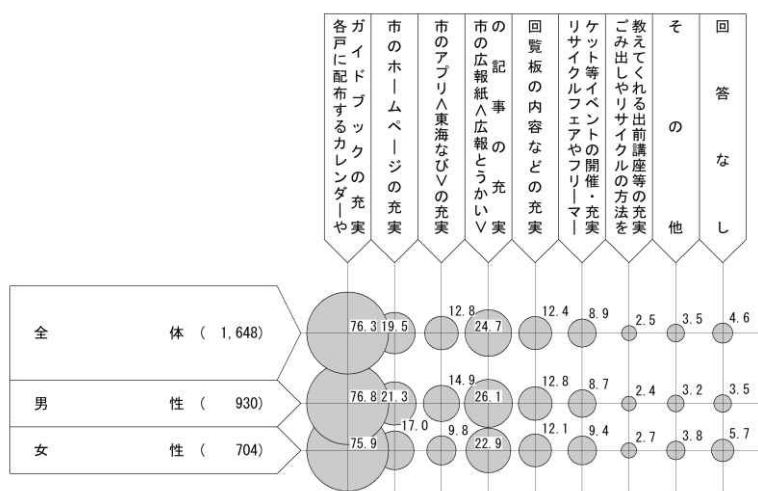




図 3-9-2 年齢別「充実してほしいごみ情報の入手方法」

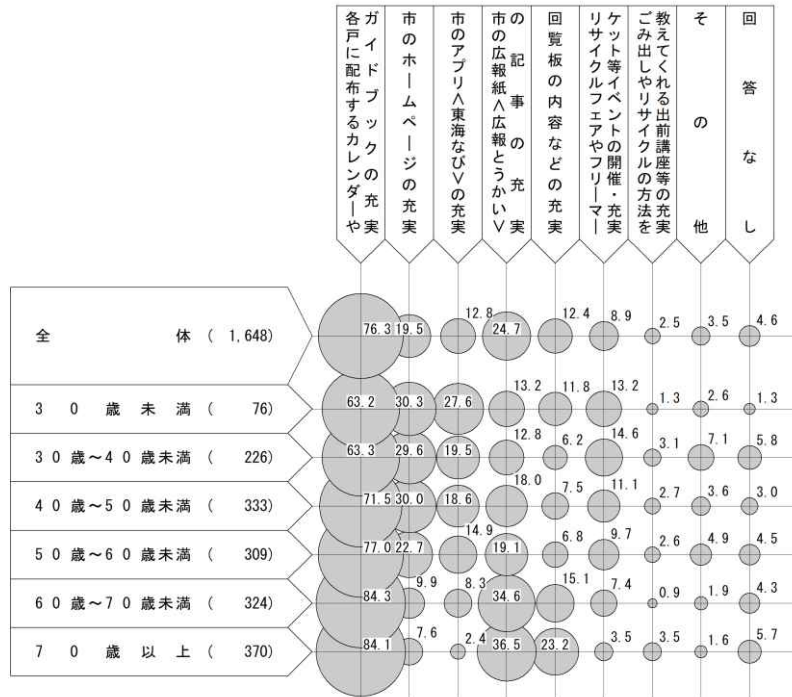


図 3-9-3 世帯人員別「充実してほしいごみ情報の入手方法」

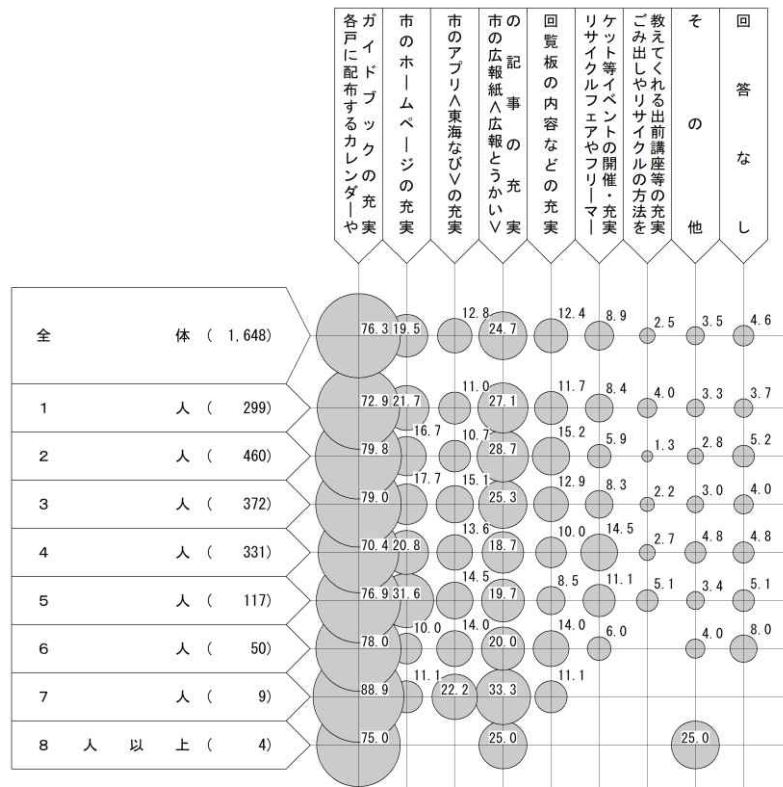
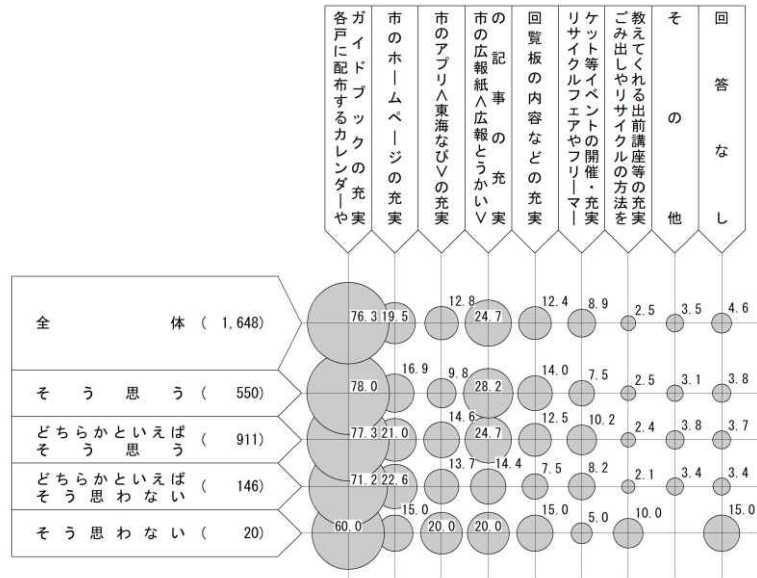


図 3-9-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「充実してほしいごみ情報の入手方法」



## IV ごみの減量化・資源化について

### (1) ごみの減量とリサイクルを心がけているか

問 24 あなたは、日常生活において、ごみの減量とリサイクルを心がけていると思いますか。

◆ごみの減量とリサイクルを心がけているかについて「そう思う」(33.4%)と「どちらかといえばそう思う」(55.3%)は、合わせて88.7%になっています。

- ごみの減量とリサイクルを心がけているかについては「そう思う」が33.4%、「どちらかといえばそう思う」が55.3%で、合わせて88.7%がごみの減量とリサイクルを心がけていると回答しています。
- 年齢別でみると、「そう思う」は30歳代で22.6%と最も少なく、それ以降年齢層が上がるにしたがって「そう思う」の割合が高くなる傾向がみられます。70歳以上では50.5%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」(44.3%)を上回る結果になっています(図4-1-2)。
- 世帯人員別にみると、5人の世帯で「そう思う」の割合が25.6%と低くなっているものの、全般的にみて有意な差はみられません(図4-1-3)。

図 4-1-1 性別「ごみの減量とリサイクルを心がけているか」

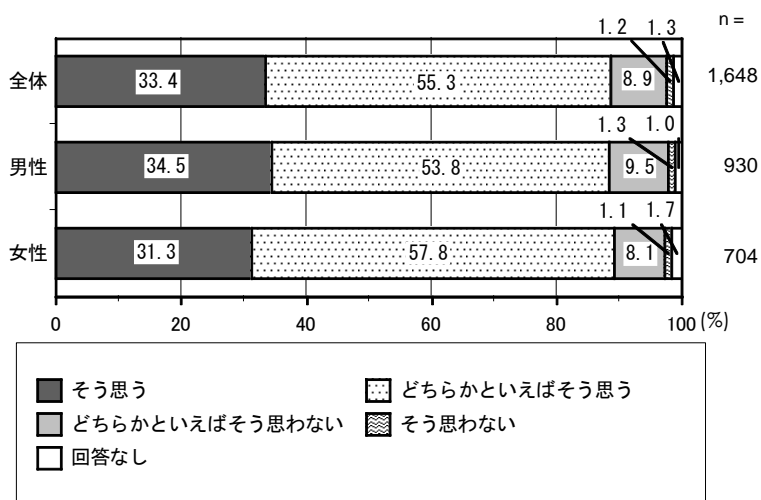


図 4-1-2 年齢別「ごみの減量とリサイクルを心がけているか」

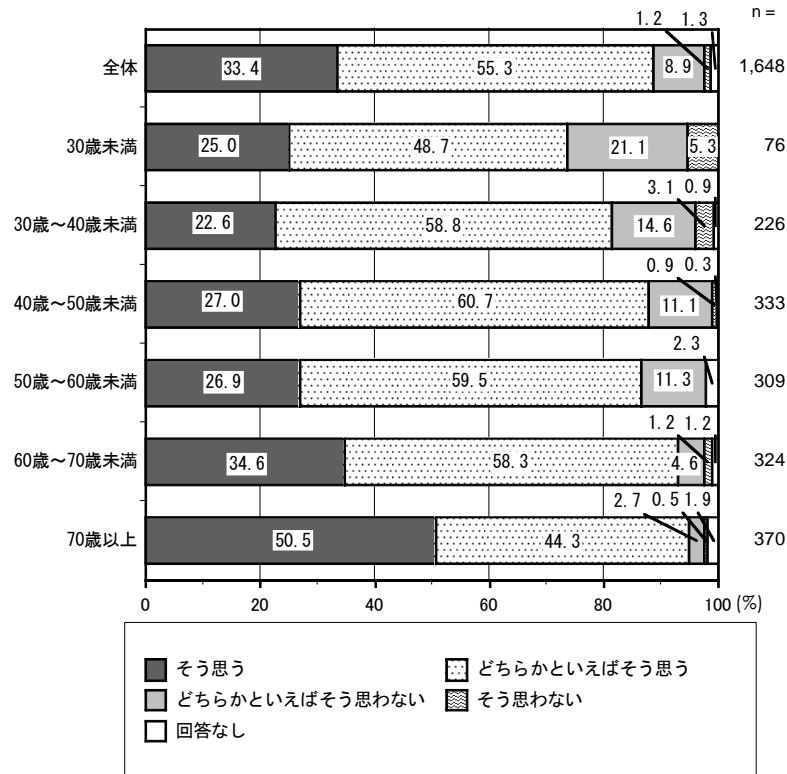
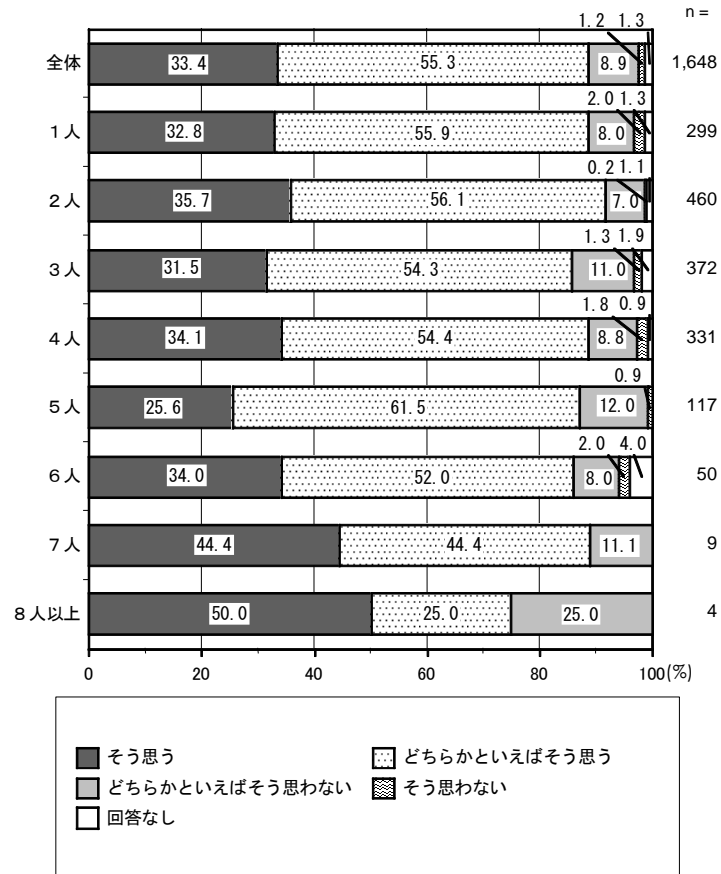


図 4-1-3 世帯人員別「ごみの減量とリサイクルを心がけているか」



## (2) ごみの量を減らす余地

問 25 あなたの家庭から出るごみの量は、今後減らす余地はありますか。

◆家庭から出るごみについて、「ごみの量を減らす余地がある」と回答した人は 54.7%で、「減らす余地はない」(43.6%) を 11.1 ポイント上回っています。

○家庭から出るごみについて、「ごみの量を減らす余地がある」と回答した人は 54.7%で、「減らす余地はない」(43.6%) を 11.1 ポイント上回っています。

○年齢別や世帯人員別による有意な差はみられません (図 4-2-2、図 4-2-3)。

図 4-2-1 性別「ごみの量を減らす余地」

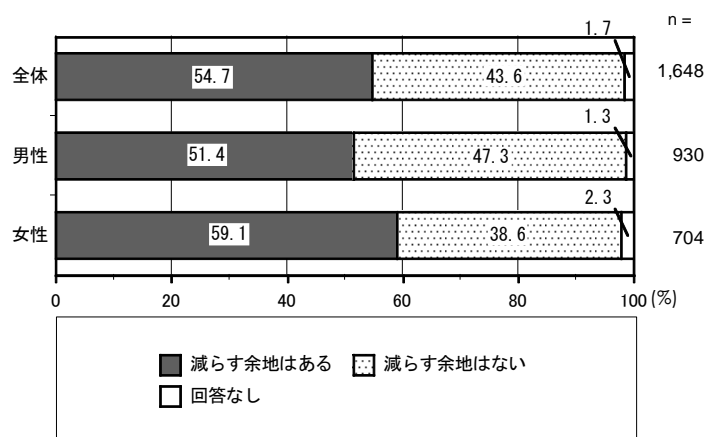


図 4-2-2 年齢別「ごみの量を減らす余地」

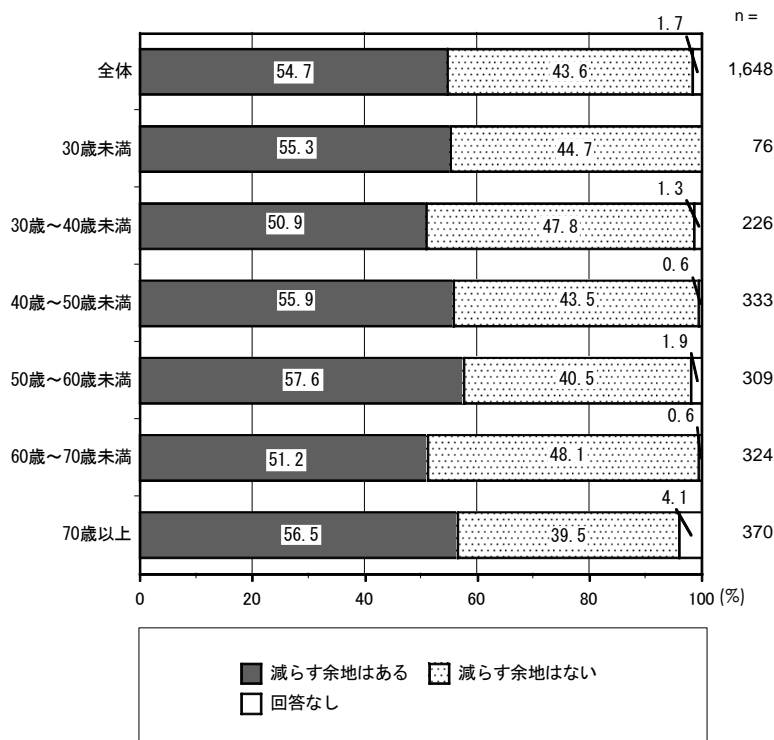


図 4-2-3 世帯人員別「ごみの量を減らす余地」

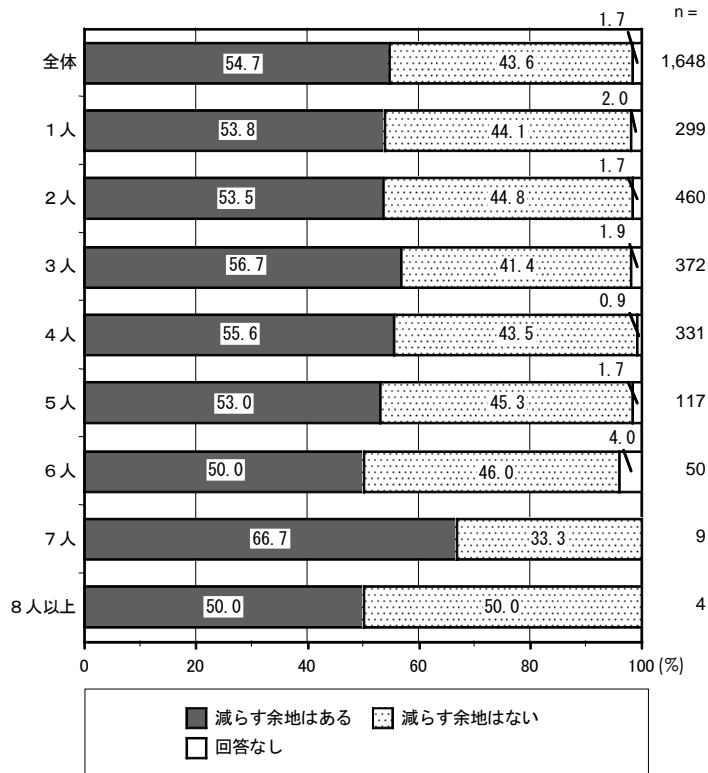
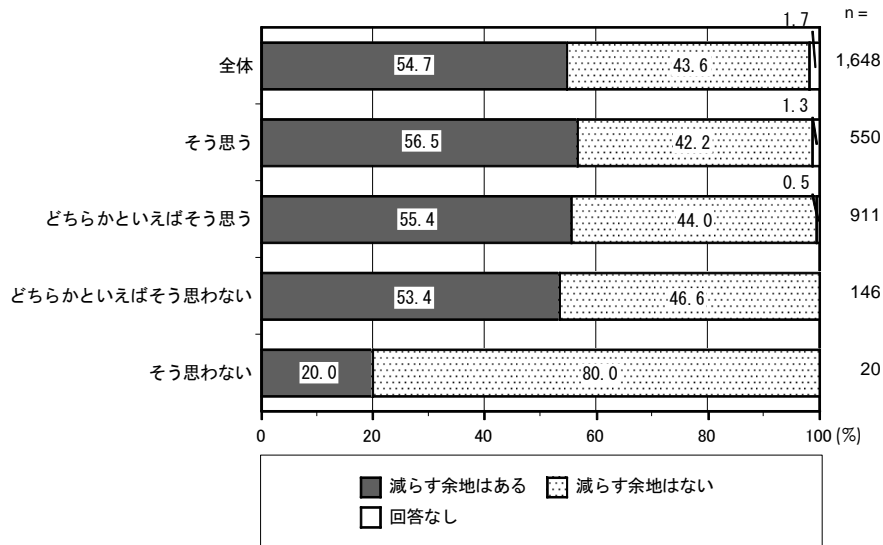


図 4-2-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「ごみの量を減らす余地」



### (3) 資源の量を増やす余地

問 26 あなたの家庭から出るごみの内、資源の量を今後増やす余地はありますか。

◆家庭から出る資源について、「今後資源の量を増やす余地がある」と回答した人は46.5%で、「増やす余地はない」(51.0%)を少し下回っているものの、半数近くを占めています。

○家庭から出る資源について、「今後資源の量を増やす余地がある」が46.5%で、「増やす余地はない」(51.0%)を少し下回っているものの、半数近くを占めています。

○年齢別でみると、30歳未満(56.6%)と40歳代(51.4%)で「増やす余地はある」の割合が高くなっており、年齢層が上がるほど「増やす余地はある」の割合が低くなる傾向がみられます(図4-3-2)。

○世代人員別にみると、世帯人員が多いほど「増やす余地はある」の割合が少し高くなる傾向がみられます(図4-3-3)。

図 4-3-1 性別「資源の量を増やす余地」

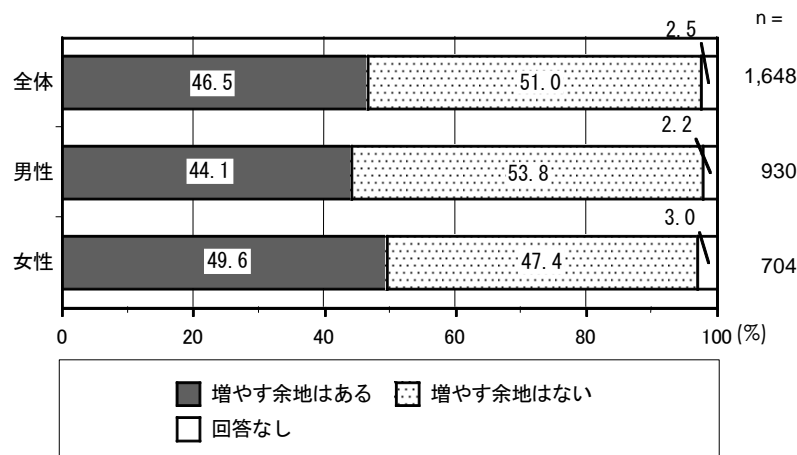


図 4-3-2 年齢別「資源の量を増やす余地」

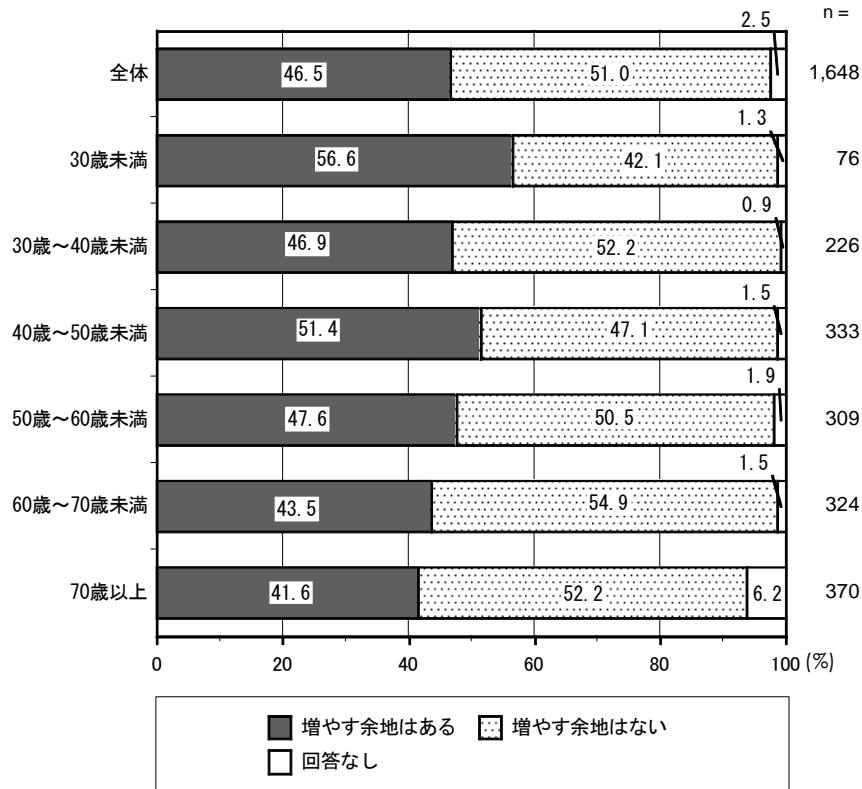


図 4-3-3 世帯人員別「資源の量を増やす余地」

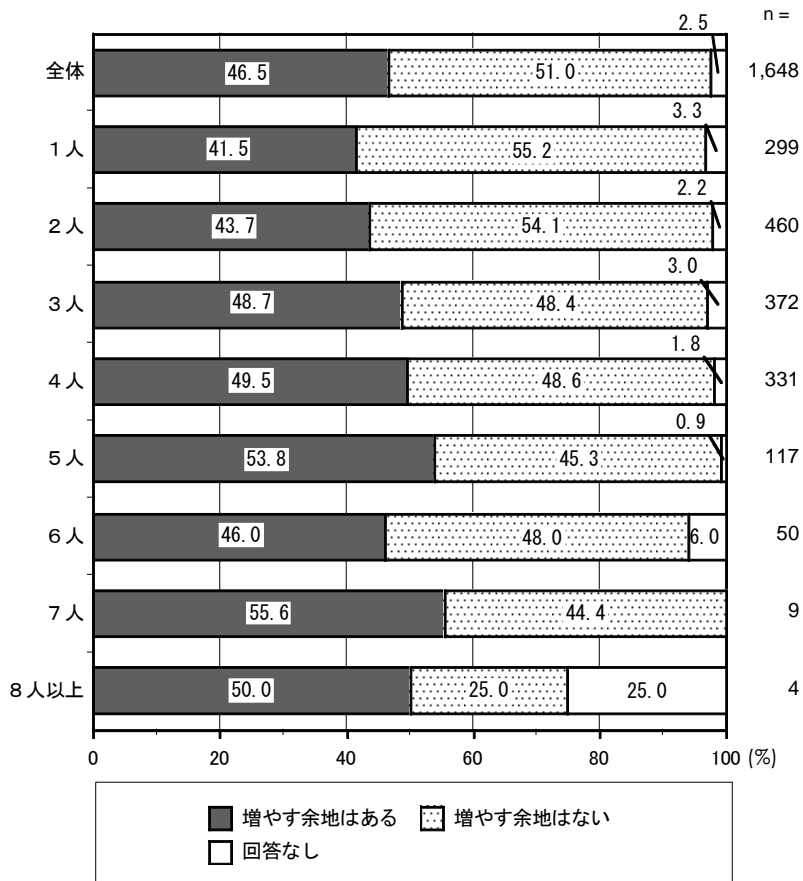
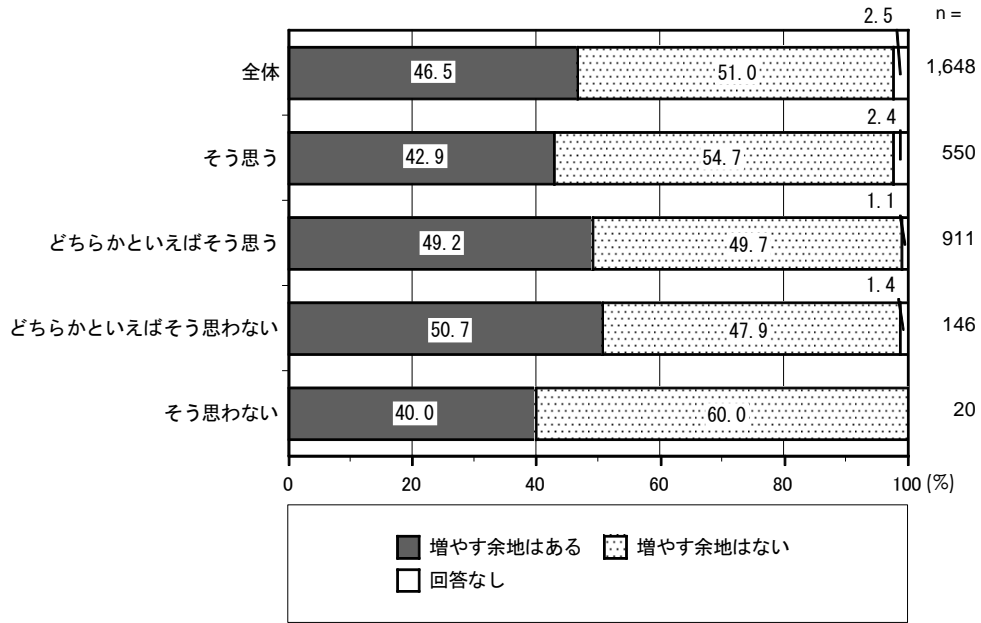




図 4-3-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「資源の量を増やす余地」



#### (4) 食品ロスの認知

問 27 あなたは「食品ロス」という言葉を知っていましたか。

◆食品ロスという言葉について、「言葉の意味を知っていた」と回答した人は 89.9%で、「言葉を聞いたことはあるが意味は知らなかった」(6.1%)を加えると、96.0%になります。

○食品ロスという言葉の認知について、「言葉の意味を知っていた」が 89.9%で、「言葉を聞いたことはあるが意味は知らなかった」(6.1%)を加えると、96.0%となっています。

○年齢別でみると、30歳未満や30歳代では、「知らなかった」がそれぞれ、5.3%、5.8%となっているものの、「言葉の意味を知っていた」はどちらも8割を超えています(図4-4-2)。

○世代人員別による有意な差はみられません(図4-4-3)。

図 4-4-1 性別「食品ロスの認知」

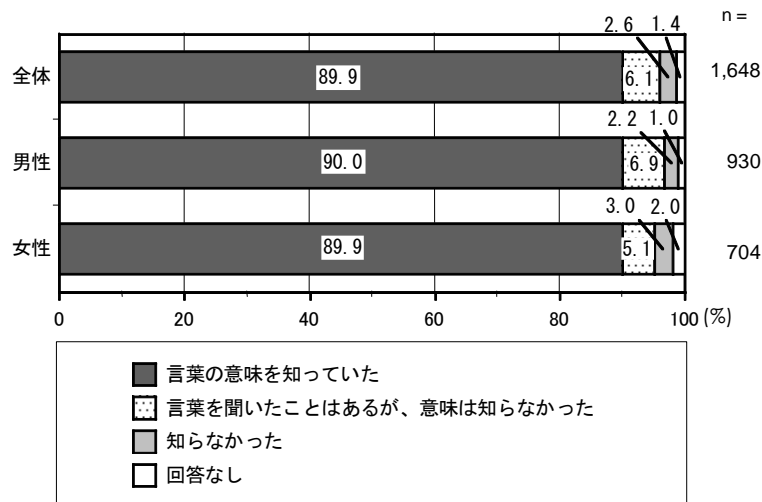


図 4-4-2 年齢別「食品ロスの認知」

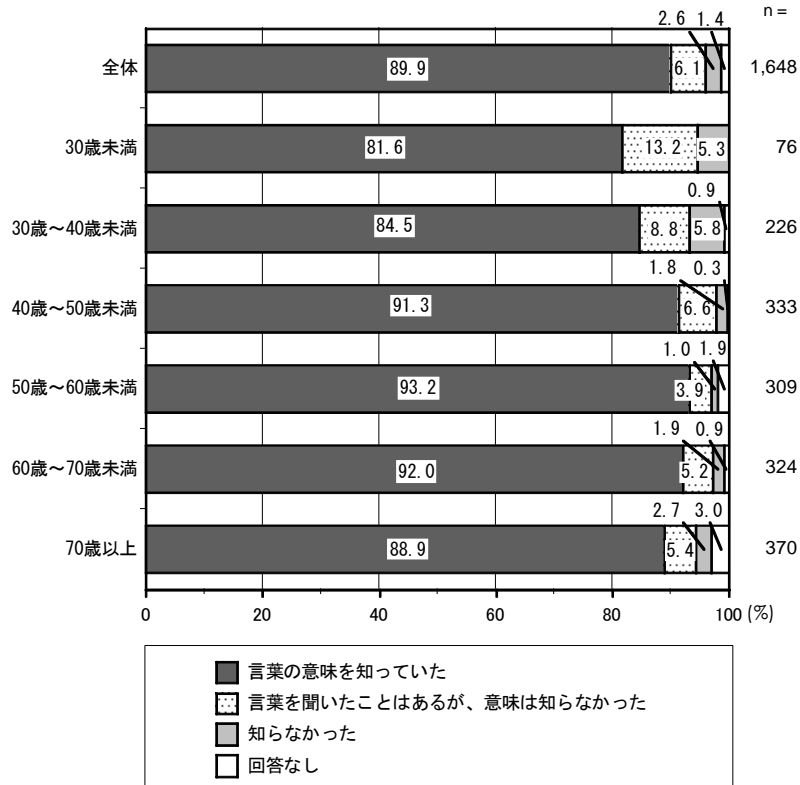


図 4-4-3 世帯人員別「食品ロスの認知」

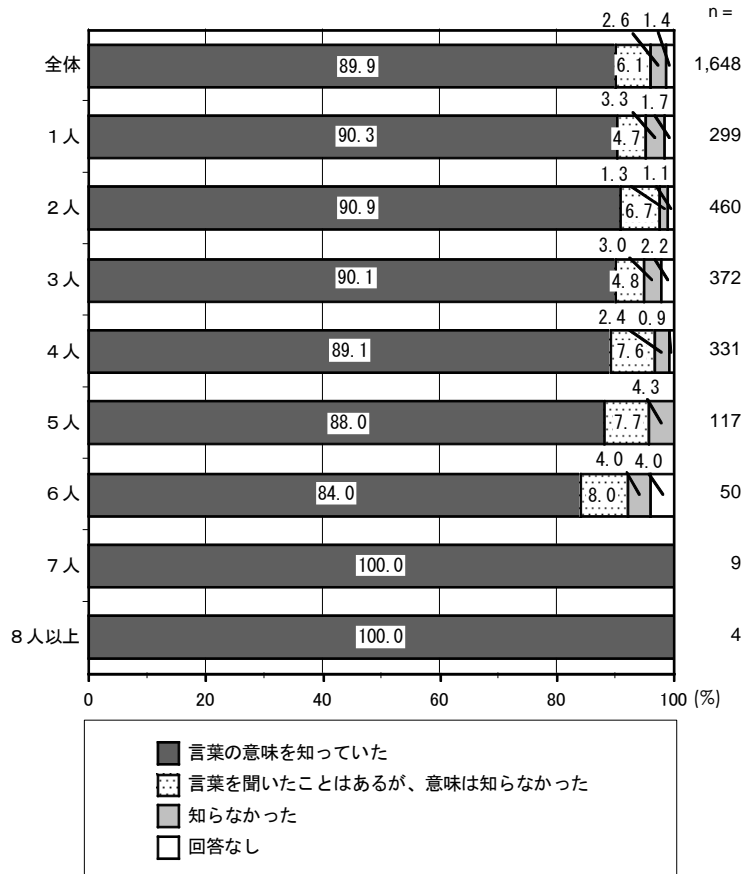
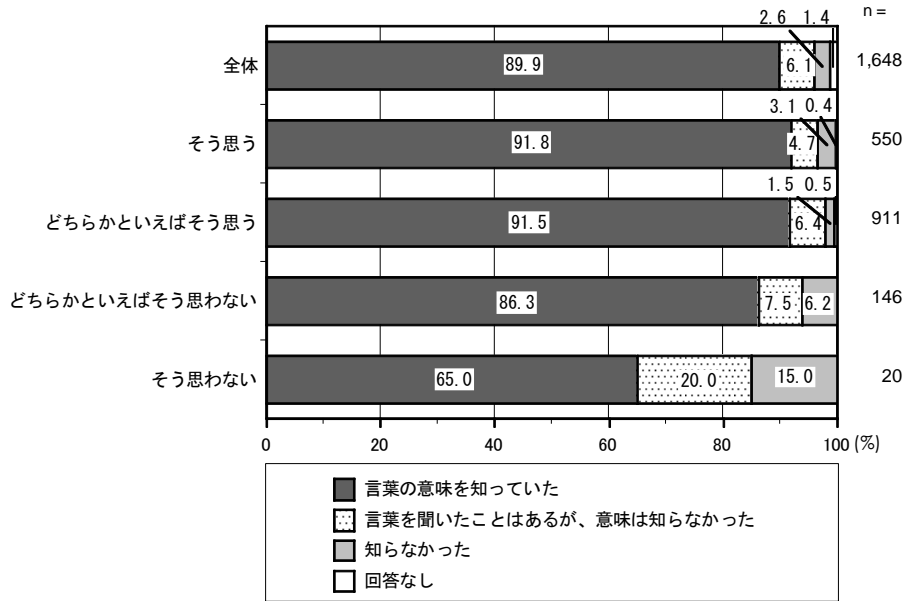


図 4-4-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「食品ロスの認知」



## (5) 食品ロスで多いもの

問 28 あなたの家庭からやむを得ず発生する食品ロスのうち、一番多いものはどれですか。

◆食品ロスで一番多いものについては、「傷んだり、期限切れになるなどして、手つかずのまま捨てたもの」が 30.7%と最も高く、これとほぼ同じ割合で「どれが一番多いかはわからないが、食品ロスは出したことはある」(30.1%)が続いています。

- 食品ロスで一番多いものについては、「傷んだり、期限切れになるなどして、手つかずのまま捨てたもの」が 30.7%と最も高く、ほぼ同じ割合で「どれが一番多いかはわからないが、食品ロスは出したことはある」が 30.1%となっています。
- 「食べ残した料理や弁当、お菓子など、食べ切れずに捨てたもの」と「食べられる部分を調理せずに捨てたもの」はそれぞれ、14.5%、14.1%となっています。なお、「食品ロスを出したことはない」は 9.4%となっています。
- 年齢別でみると、「傷んだり、期限切れになるなどして、手つかずのまま捨てたもの」の割合は、50 歳代 (37.5%) や 30 歳代 (37.2%) において高くなっており、「どれが一番多いかはわからないが、食品ロスは出したことはある」の割合は 70 歳以上 (38.4%) において高くなっています。また、「食べ残した料理や弁当、お菓子など、食べ切れずに捨てたもの」の割合は 30 歳未満 (19.7%) で、「食べられる部分を調理せずに捨てたもの」の割合は 30 歳代 (20.4%) で高くなっています (図 4-5-2)。
- 世帯人員別でみると、世帯人員数が少ないほど「食品ロスを出したことはない」の割合が高くなる傾向がみられます (図 4-5-3)。

図 4-5-1 性別「食品ロスで多いもの」

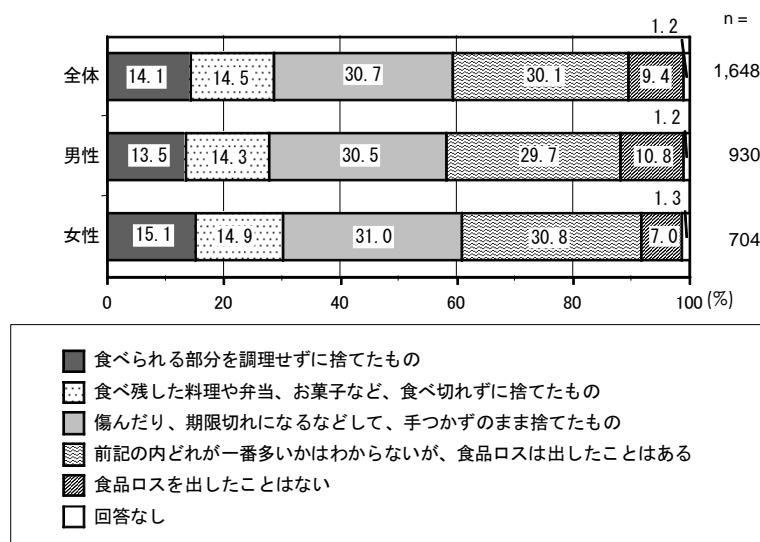


図 4-5-2 年齢別「食品ロスで多いもの」

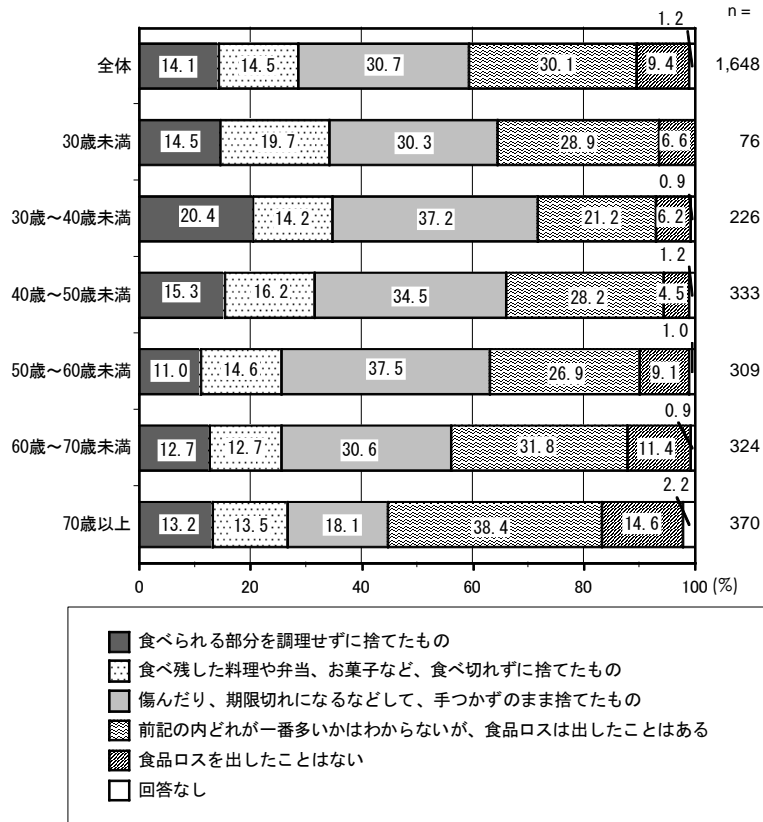


図 4-5-3 世帯人員別「食品ロスで多いもの」

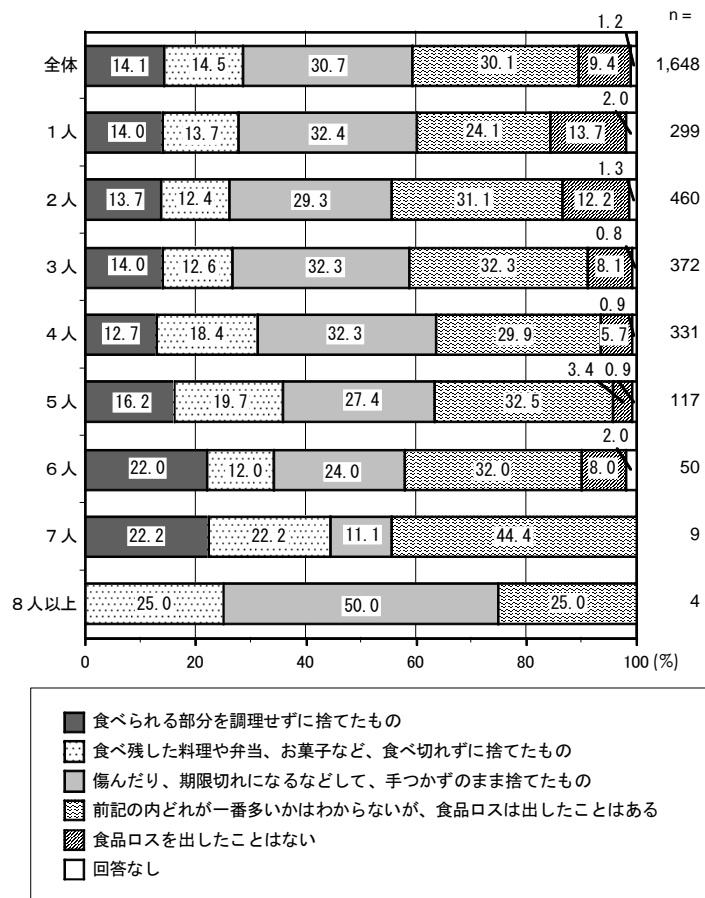
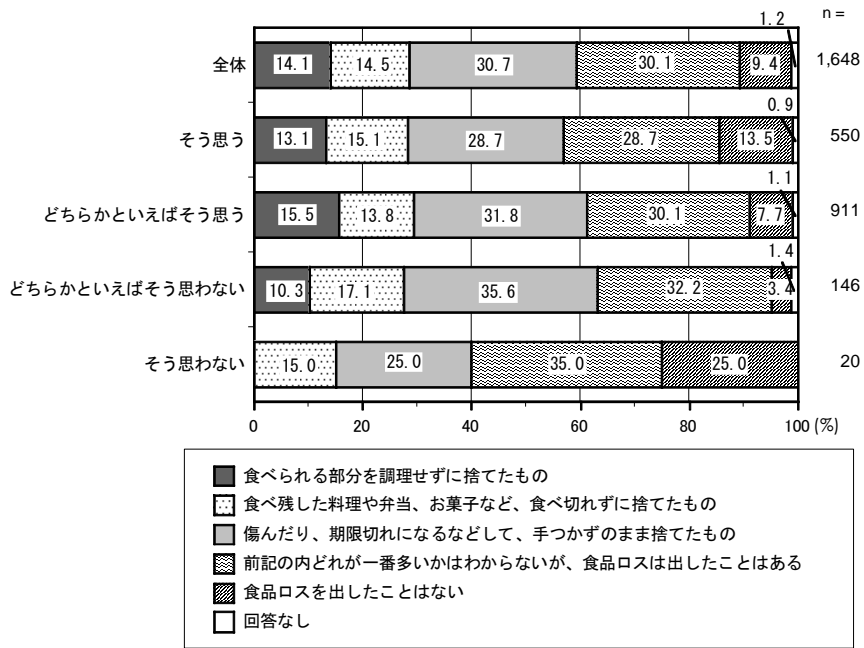


図 4-5-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「食品ロスで多いもの」



## (6) 食品を手つかずのまま廃棄した経験

問 29 あなたは食品をやむを得ず手つかずのまま捨てたことがありますか。

◆食品をやむを得ず手つかずのまま捨てたことが「ある」と回答した人は73.2%で、「ない」(25.2%)を大きく上回っています。

- 食品をやむを得ず手つかずのまま捨てたことが「ある」と回答した人は73.2%で、「ない」(25.2%)を大きく上回っています。
- 年齢別でみると、「ある」の割合は、40歳代で85.3%と最も高く、それよりも年齢層が上がるほど、また、下がるほど「ある」の割合が低くなる傾向がみられます。「ある」の割合は70歳以上で59.2%と最も低くなっています(図4-6-2)。
- 世帯人員別でみると、2人世帯から5人世帯までにかけては、世帯人員が多くなるほど「ある」の割合が高くなる傾向がみられます(図4-6-3)。

図 4-6-1 性別「食品を手つかずのまま廃棄した経験」

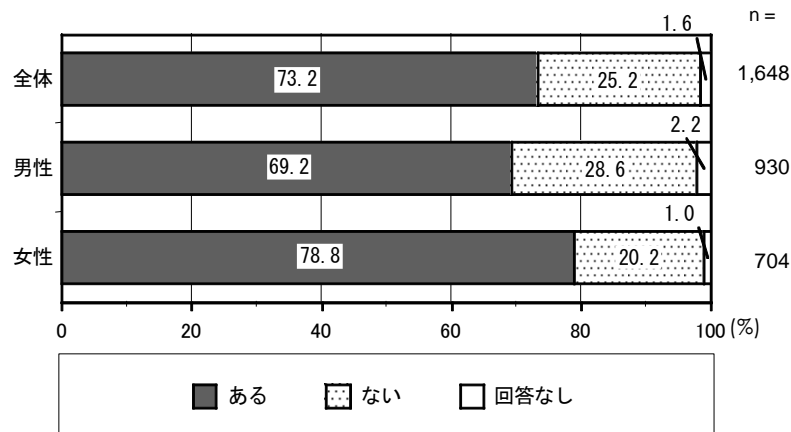




図 4-6-2 年齢別「食品を手つかずのまま廃棄した経験」

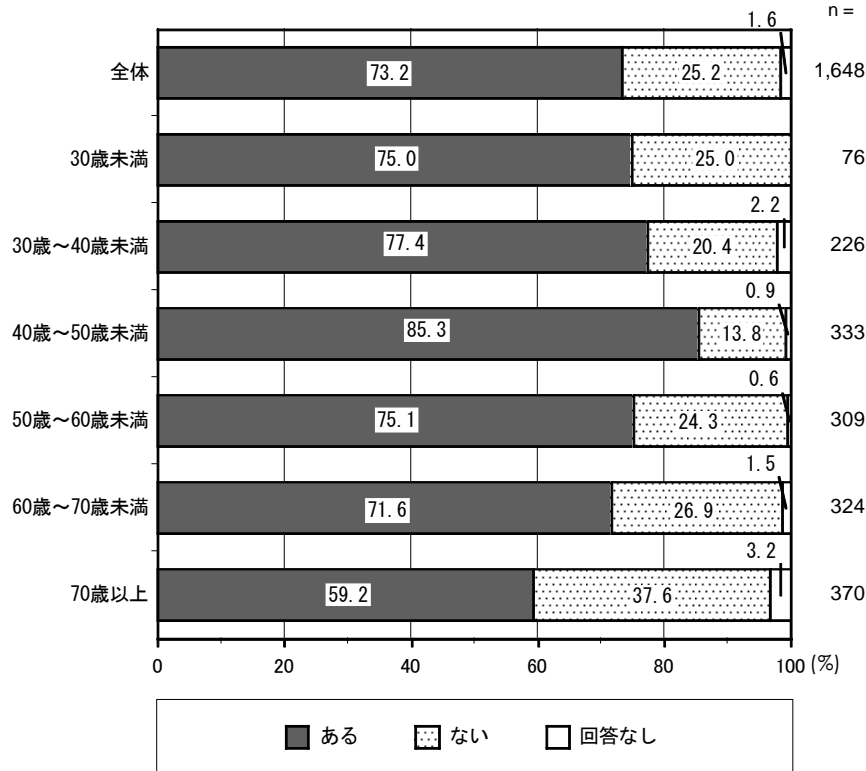


図 4-6-3 世帯人員別「食品を手つかずのまま廃棄した経験」

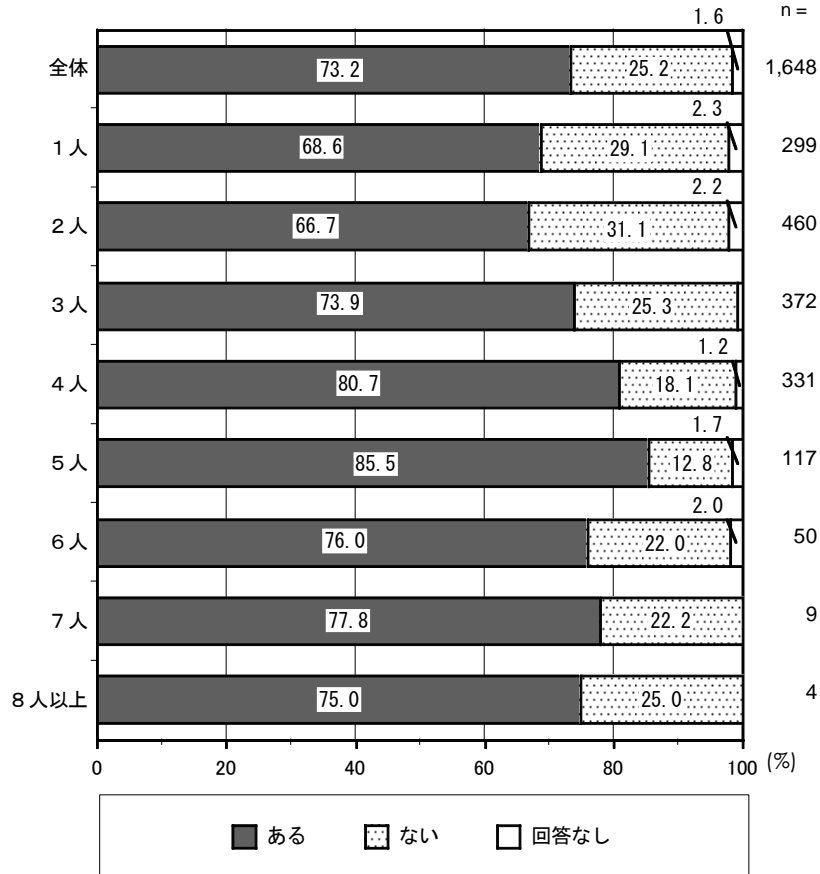
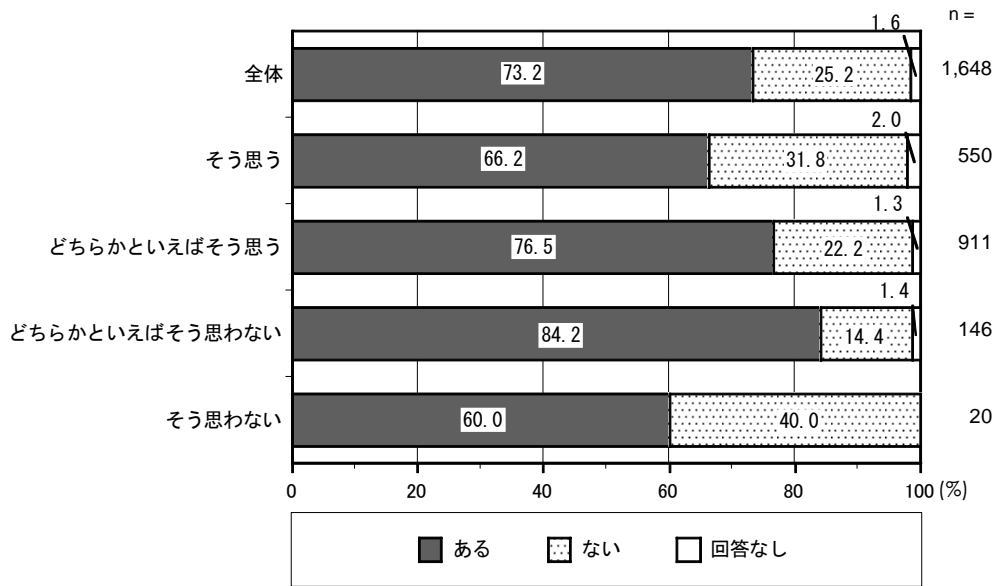


図 4-6-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「食品を手つかずのまま廃棄した経験」



## (7) 食品を廃棄した理由

問 30 【問 29. で「1. ある」と回答した方にお聞きします。】食品をやむを得ず手つかずのまま捨てた主な理由は何ですか。

◆食品をやむを得ず手つかずのまま捨てた理由としては、「家にあることを忘れて食べないまま消費期限が切れてしまった」が58.5%と最も高くなっています。

○問 29. で「ある」と回答した 1,206 人に対して食品をやむを得ず手つかずのまま捨てた理由を尋ねたところ、「家にあることを忘れて食べないまま消費期限が切れてしまった」が 58.5%と最も高くなっています。次いで、「安売りや大袋サイズなどで大量に買ってしまい使いきれなかった」(10.9%)、「消費期限の近い見切り品を買ったが食べなかった」(10.6%) となっています。

○年齢別にみると、「家にあることを忘れて食べないまま消費期限が切れてしまった」の割合は、30 歳代で 65.1%と高くなっています。また、「安売りや大袋サイズなどで大量に買ってしまい使いきれなかった」については 30 歳未満 (17.5%) において、「家にあることに気づかずに新しく買ってしまい使いきれなかった」については 70 歳以上 (19.2%) において、共に他の年齢層に比べて割合が高くなっています (図 4-7-2)。

○世帯人員別でみると、単身世帯で「家にあることを忘れて食べないまま消費期限が切れてしまった」が 51.7%と低くなっている一方で、5 人の世帯で 65.0%と高くなっています (図 4-7-3)。

図 4-7-1 性別「食品を廃棄した理由」

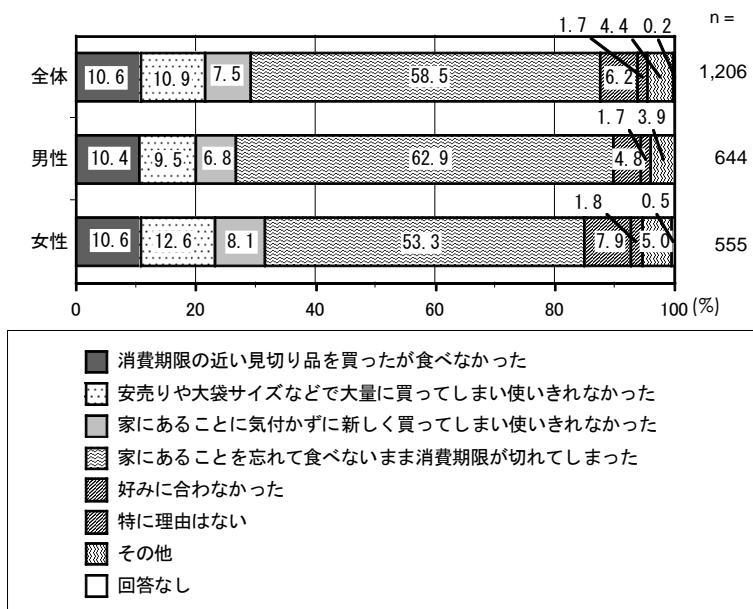


図 4-7-2 年齢別「食品を廃棄した理由」

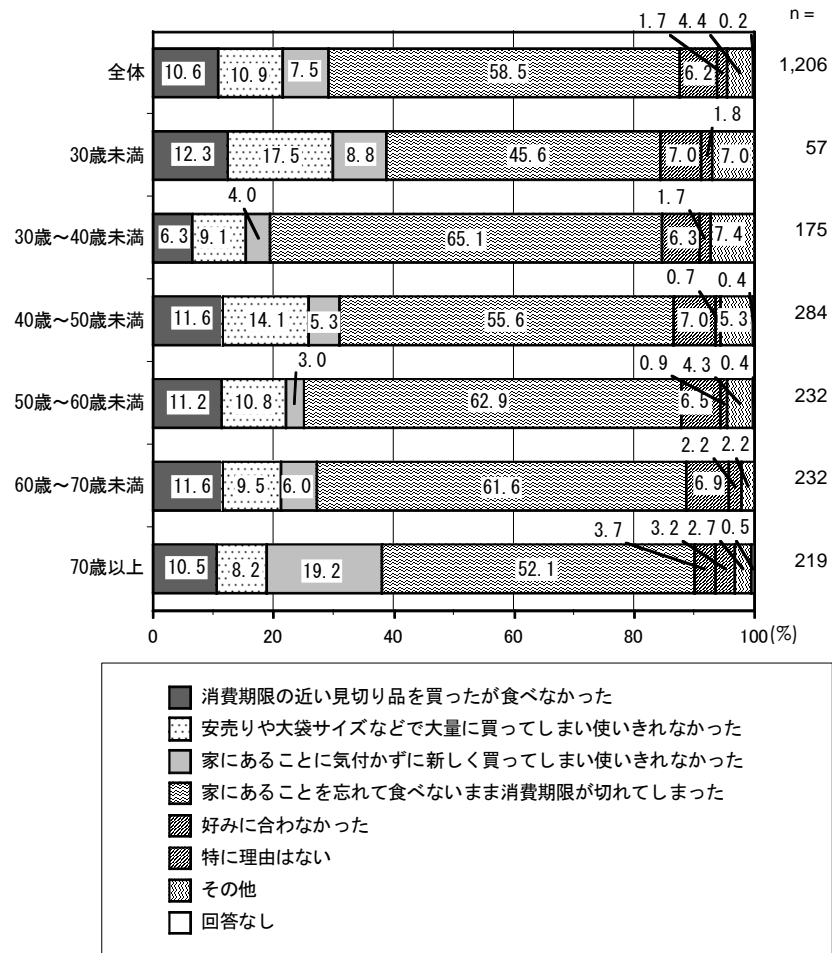


図 4-7-3 世帯人員別「食品を廃棄した理由」

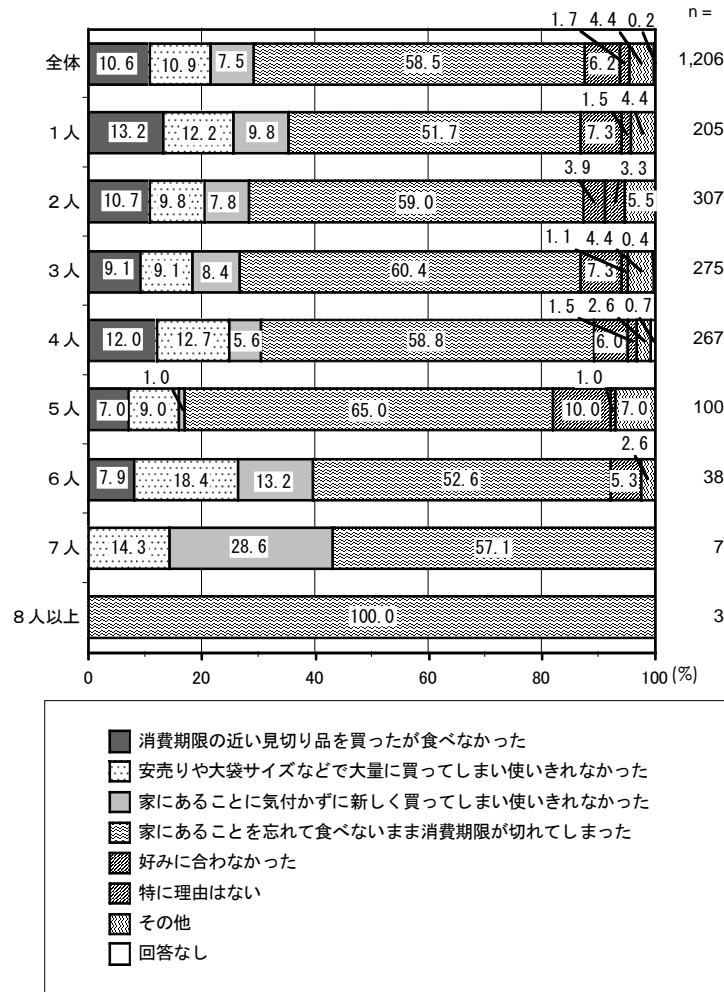
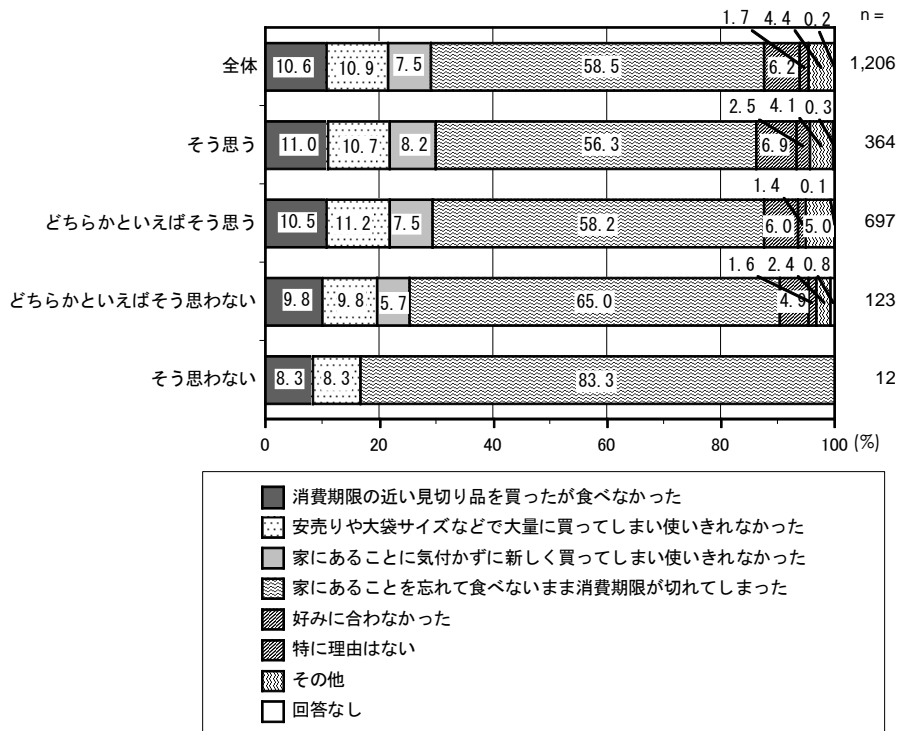


図 4-7-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「食品を廃棄した理由」



## (8) 食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向

問 31 あなたの家庭で発生する食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向についておたずねします。

- ◆「取り組んでおり、そのまま続ける」との回答の割合は、「消費期限・賞味期限を意識して買うようにしている」が80.0%と最も高くなっています。
- ◆「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」との回答の割合は、「調理方法を工夫し野菜の皮・芯などの食材や残った料理を無駄なく使っている」が48.0%と最も高くなっています。

○家庭で発生する食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向について6項目にわたって尋ねたところ、「取り組んでおり、そのまま続ける」という回答の割合は、「消費期限・賞味期限を意識して買うようにしている」が80.0%と最も高くなっています。次いで「食べきりを心がけている」が70.8%、「食材の保存方法を工夫している」が69.2%、「買い物に行く前に冷蔵庫の中身を確認している」が62.9%、「ばら売りや小袋サイズなどで必要な分だけ買っている」が59.7%となっています。

○「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」という回答の割合は、「調理方法を工夫し野菜の皮・芯などの食材や残った料理を無駄なく使っている」が48.0%と最も高くなっています(図4-8-1)。

図4-8-1 食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向

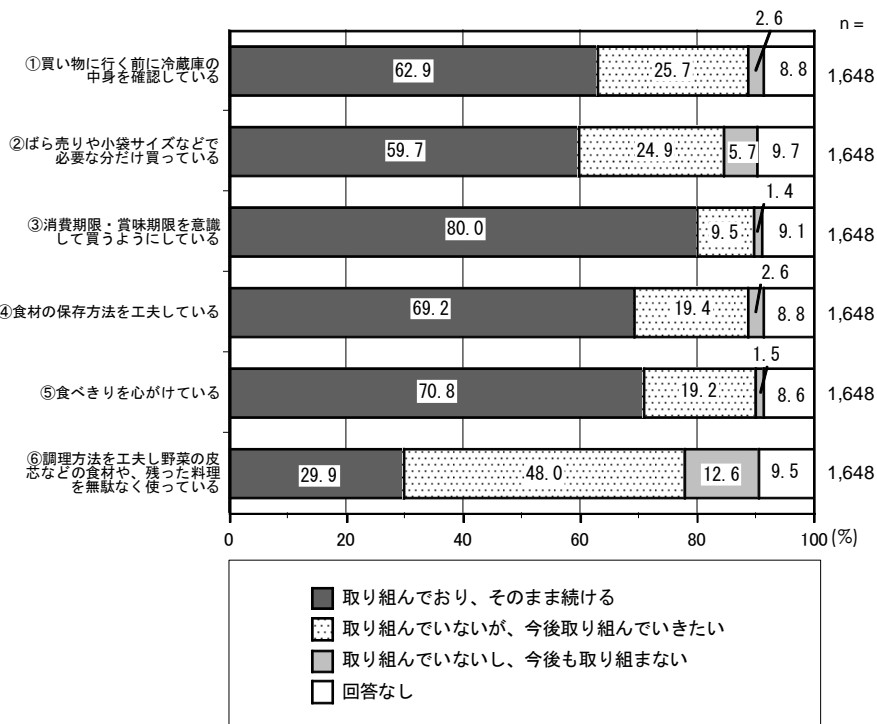


図 4-8-2 性別「食品ロスを減らすための取組状況（取り組みをしている）」

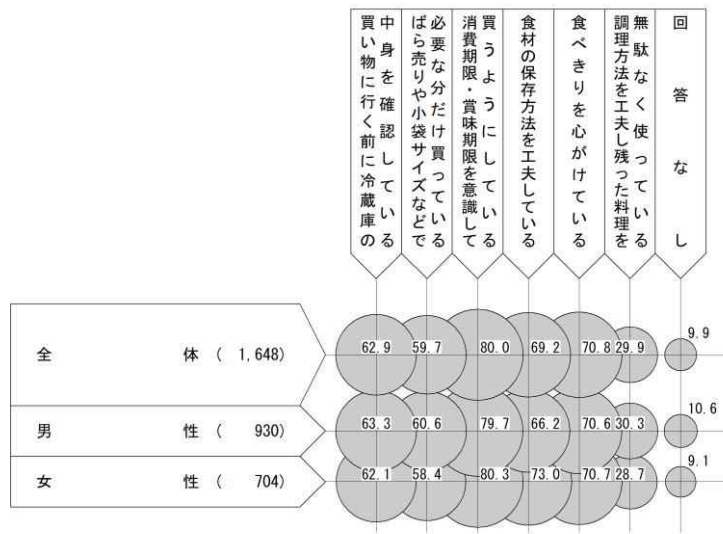
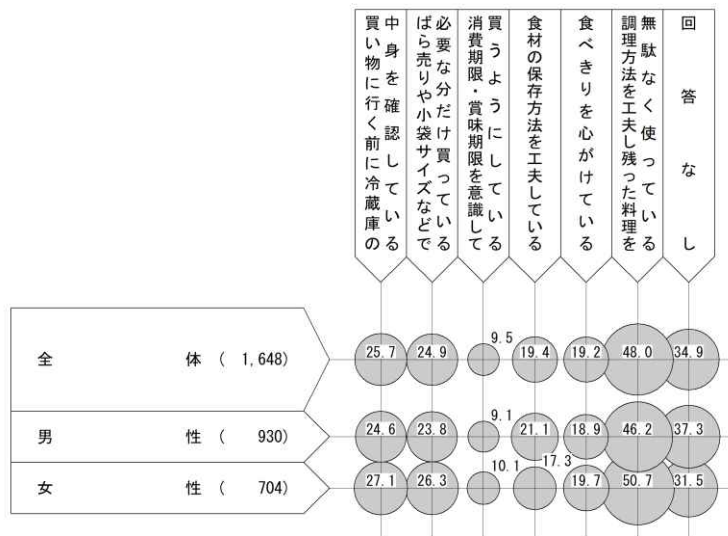


図 4-8-3 性別「食品ロスを減らすための今後の取組意向（取り組んでいきたい）」



- 食品ロスを減らすための取組に「取り組んでおり、そのまま続ける」と回答した割合を年齢別でみると、「消費期限・賞味期限を意識して買うようにしている」については、40歳代（85.3%）、30歳代（84.5%）が他の年齢層に比べて少し高くなっており、70歳以上（73.5%）で少し低くなっているなど、多少の差異はありますが、全般的にみて年齢別による大きな差はみられません（図4-8-4）。
- 食品ロスを減らすための取組に「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」と回答した割合を年齢別でみると有意な差はみられません（図4-8-5）。

図4-8-4 年齢別「食品ロスを減らすための取組状況（取り組みをしている）」

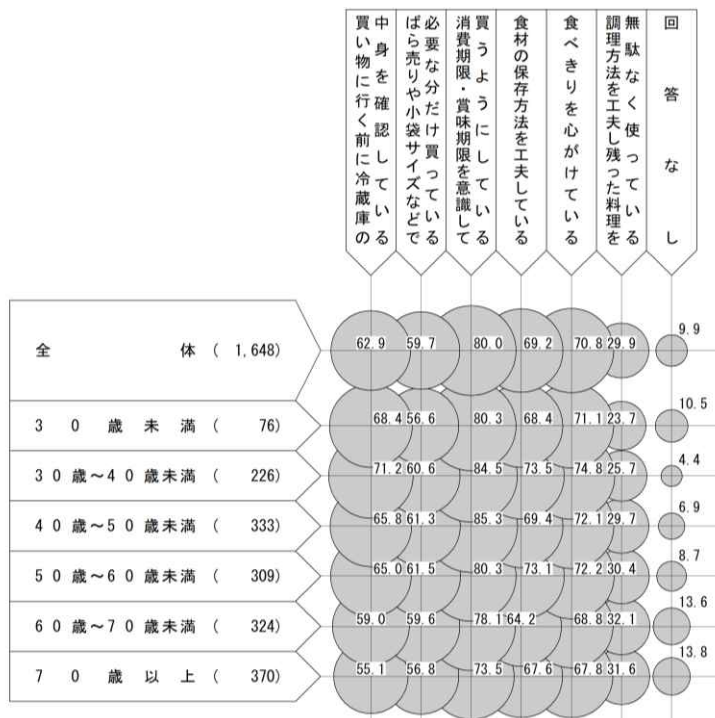
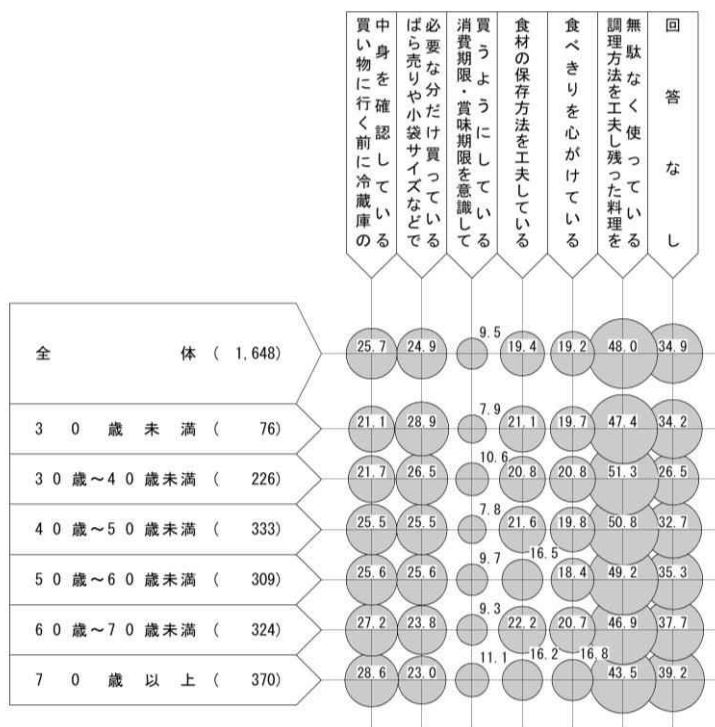


図4-8-5 年齢別「食品ロスを減らすための今後の取組意向（取り組んでいきたい）」





- 食品ロスを減らすための取組に「取り組んでおり、そのまま続ける」と回答した割合を世帯人員別で見ると、有意な差はみられません（図 4-8-6）。
- 食品ロスを減らすための取組に「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」と回答した割合を世帯人員別で見ると、「調理方法を工夫し、野菜の皮・芯などの食材や、残った料理を無駄なく使っている」や「ばら売りや小袋サイズなどで必要な分だけ買っている」の割合は、世帯人員が多くなるほど高くなる傾向がみられます（図 4-8-7）。

図 4-8-6 世帯人員別「食品ロスを減らすための取組状況（取り組みをしている）」

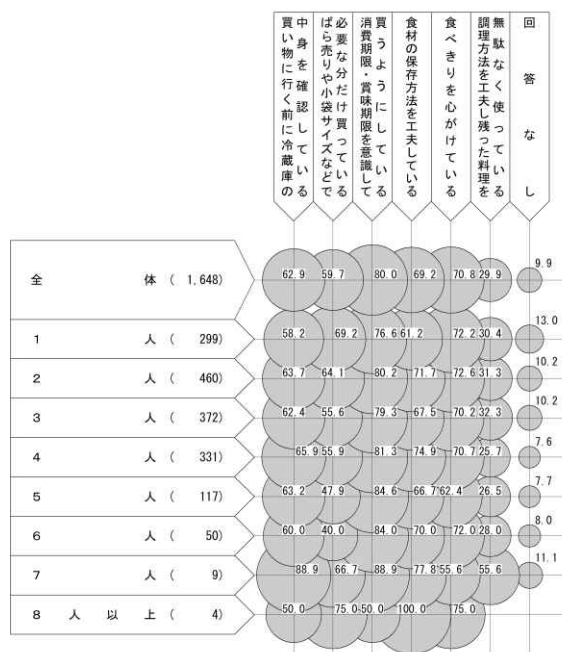
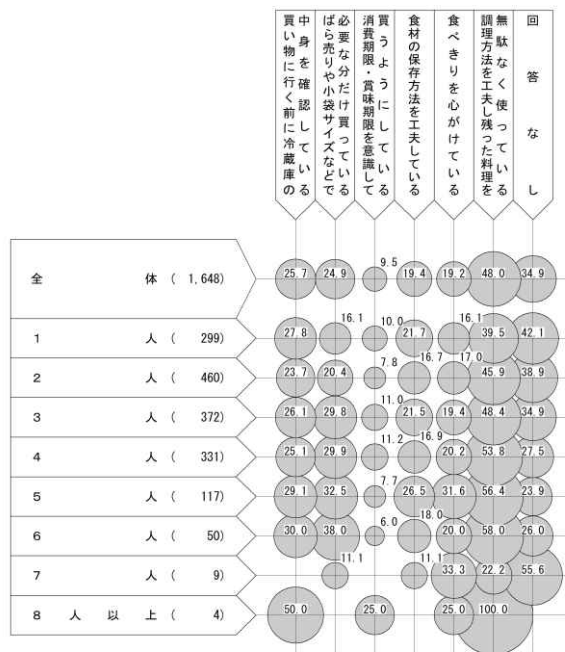


図 4-8-7 世帯人員別「食品ロスを減らすための今後の取組意向（取り組んでいきたい）」



- 食品ロスを減らすための取組に「取り組んでおり、そのまま続ける」と回答した割合をごみの量を減らす余地別でみると、有意な差はみられません（図 4-8-8）。
- 食品ロスを減らすための取組に「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」と回答した割合をごみの量を減らす余地別でみると、「消費期限・賞味期限を意識して買うようにしている」以外の取組については、「減らす余地がある」と回答した人の方が「減らす余地はない」と回答した人に比べて割合は高くなっているものの大きな差はみられません（図 4-8-9）。

図 4-8-8 ごみの量を減らす余地別「食品ロスを減らすための取組状況（取り組んでいる）」

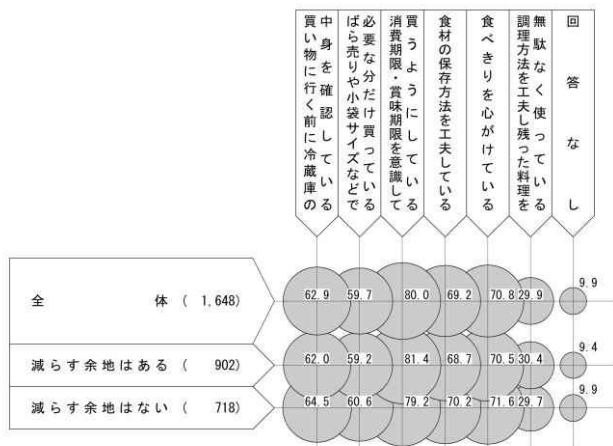
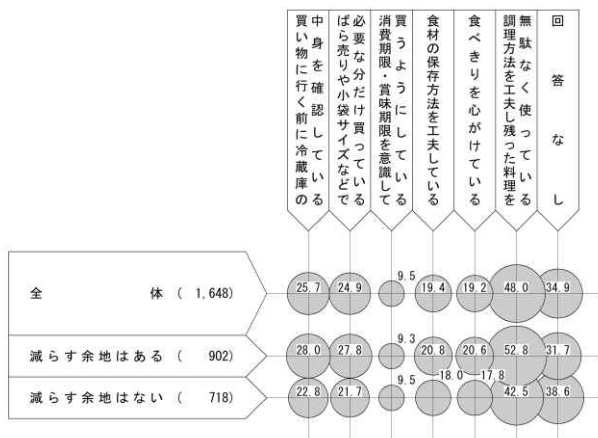


図 4-8-9 ごみの量を減らす余地別「食品ロスを減らすための今後の取組意向（取り組んでいきたい）」



**(9) レジ袋を受け取る頻度の変化とレジ袋を受け取る頻度が減った理由**

問 32 レジ袋有料化が全国で開始された今年の7月1日以降、あなたの家庭では店舗でレジ袋を受け取る頻度はどうなりましたか。

問 33 問 32 で 4.、5.、6. を回答した方にお尋ねします。店舗でレジ袋を受け取る頻度が減った理由は何ですか。(主にあてはまるもの3つまでに○を)

- ◆レジ袋を受け取る頻度が減ったという人は、合わせて86.2%を占めています。
- ◆レジ袋を受け取る頻度が減った理由は、「レジ袋にお金を払うこと自体に抵抗感があるから」の割合が53.7%と最も高く、次いで「環境問題の解決に少しでも貢献したいから」が43.9%、「1回あたりは少額であっても積み重なると大きな金額になるから」が34.6%となっています。

**【レジ袋を受け取る頻度の変化】**

○レジ袋有料化が全国で開始された以降、レジ袋を受け取る頻度が「減った」が39.6%、「全く受け取らなくなった」が38.4%、「少し減った」が8.2%で、合わせて86.2%がレジ袋を受け取る頻度が減っています。

**【レジ袋を受け取る頻度が減った理由】**

- 「レジ袋にお金を払うこと自体に抵抗感があるから」の割合が53.7%と最も高くなっています。次いで「環境問題の解決に少しでも貢献したいから」が43.9%、「1回あたりは少額であっても積み重なると大きな金額になるから」が34.6%、「レジ袋を減らすことに以前から賛成であったから」が24.4%、「レジ袋がなくても手で持っていくなどで対応できることがわかったから」が21.0%となっています。
- 年齢別でみると、若い年齢層ほど金銭的なことによる理由が強くなっており、年配層ほど環境問題意識による理由が強い傾向がみられます(図4-9-3)。
- 世帯人員別でみると、単身世帯では「家族の人数が減って、買い物の量や買い物に行く頻度が減少したから」の割合が10.3%と、他の世帯に比べて若干高くなっている程度であり、全般的にみて世帯人員別による大きな差はみられません(図4-9-4)。

図 4-9-1 性別「レジ袋を受け取る頻度の変化」

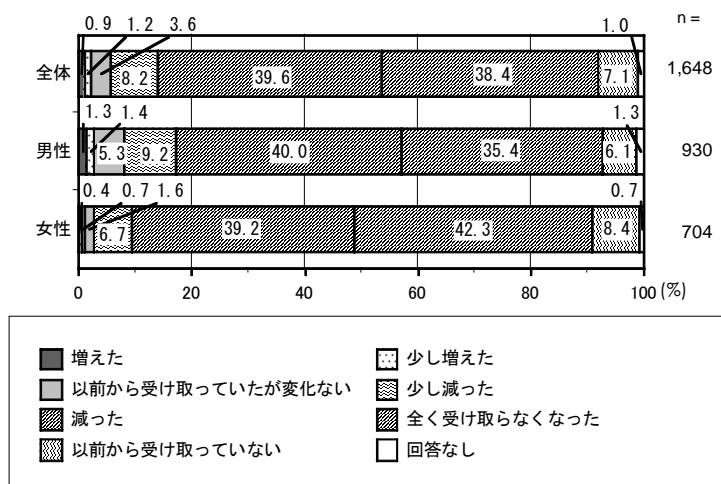


図 4-9-2 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「レジ袋を受け取る頻度の変化」

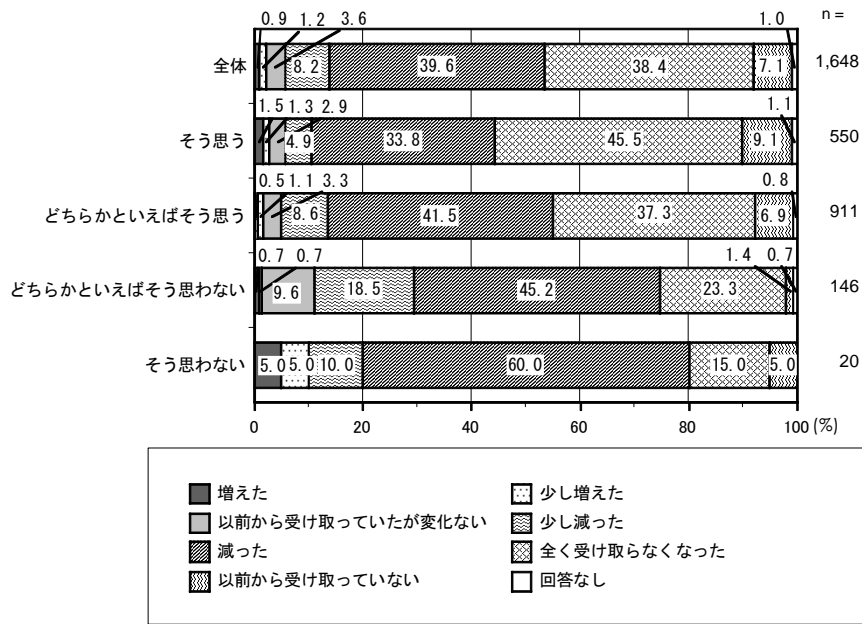


図 4-9-3 性別「レジ袋を受け取る頻度が減った理由」

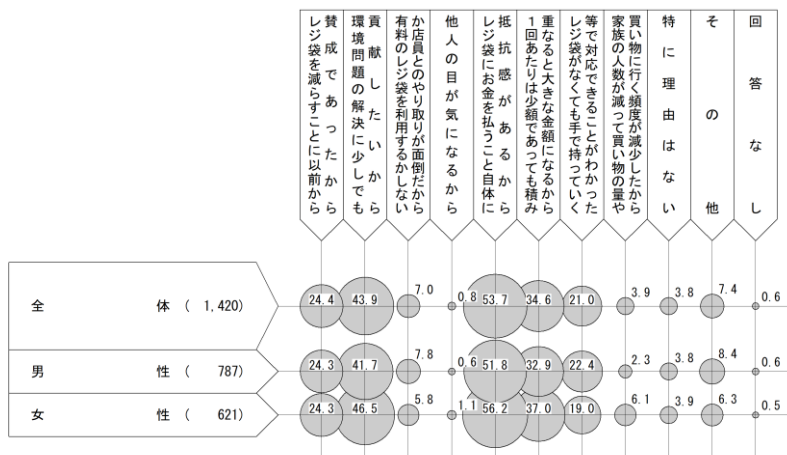


図 4-9-4 年齢別「レジ袋を受け取る頻度が減った理由」

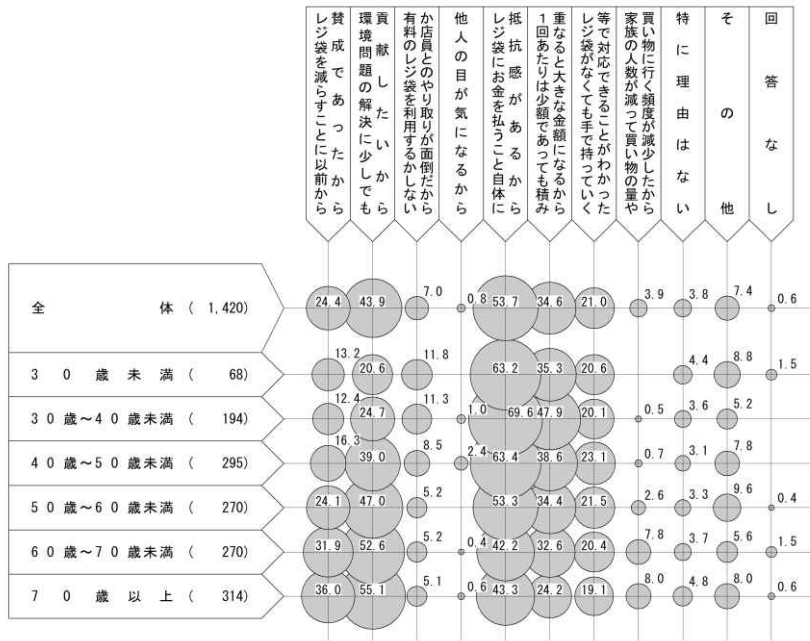


図 4-9-5 世帯人員別「レジ袋を受け取る頻度が減った理由」

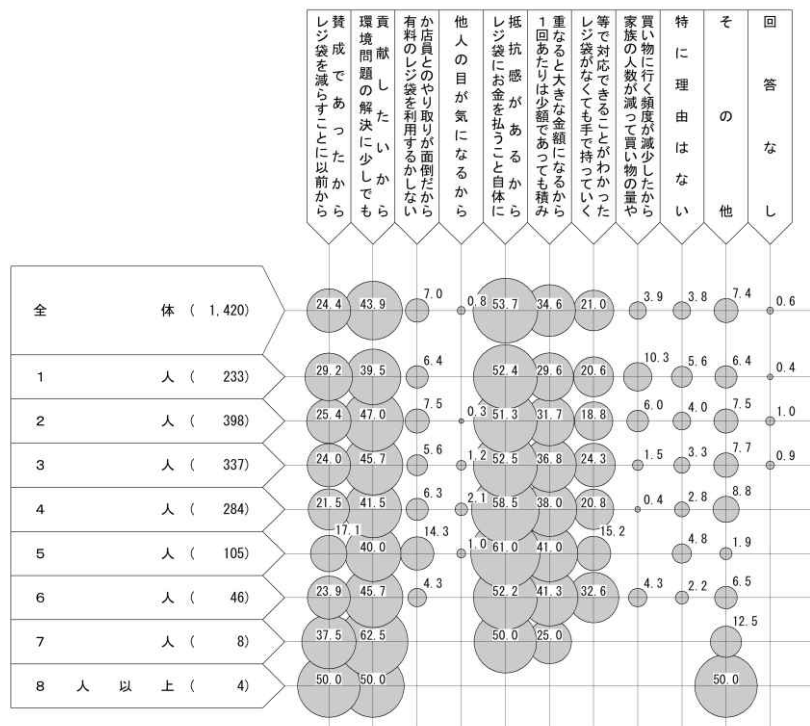
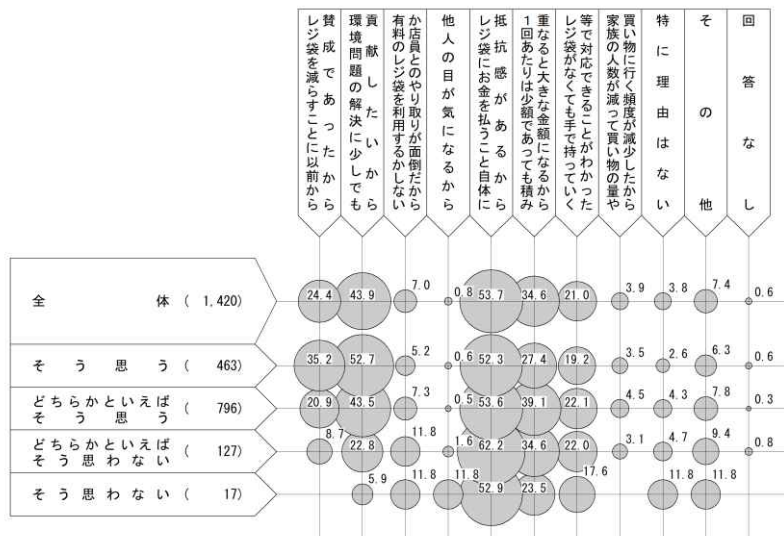


図 4-9-6 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「レジ袋を受け取る頻度が減った理由」



## (10) ごみ減量とリサイクルなどの取組状況と今後の意向

問 34 あなたのごみ減量とリサイクルなどの日頃の取組状況と今後の取組意向についておたずねします。

- ◆「取り組んでおり、そのまま続ける」という回答の割合は、「詰め替え商品を買うようにしている」が85.7%と最も高く、次いで、「生ごみは、水切りをして減量している」が81.2%、「マイ箸、マイバッグなどを利用している」が77.0%、「多く買い過ぎないようにしている」が76.0%となっています。
- ◆「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」という回答の割合は、「リサイクル資源を利用した商品を買うようにしている」において50.2%と最も高く、次いで「家庭や地域でごみ減量とリサイクルのアイデアなどを話し合い実践している」で47.1%、「故障や破損したものは修繕修理して使うようにしている」で33.4%となっています。

- 
- ごみ減量とリサイクルなどの日頃の取組状況と今後の取組意向について13項目にわたって尋ねたところ、「取り組んでおり、そのまま続ける」という回答の割合は、「詰め替え商品を買うようにしている」が85.7%と最も高くなっています。
  - 「生ごみは、水切りをして減量している」が81.2%、「マイ箸、マイバッグなどを利用している」が77.0%、「多く買い過ぎないようにしている」が76.0%、「長く使えるものを買うようにしている」が72.5%となっている一方、「EM処理剤・生ごみ処理機等を使用して、減量化又は堆肥化している」(8.6%)や「家庭や地域で、ごみ減量とリサイクルのアイデアなどを話し合い実践している」(11.4%)、「フリマアプリを利用している」(14.3%)では、「取り組んでおり、そのまま続ける」という回答の割合がいずれも低くなっています。
  - 「EM処理剤・生ごみ処理機等を使用して、減量化又は堆肥化している」と「フリマアプリを利用している」の2項目については、「取り組んでいないし、今後もしない」との回答が共に6割を超えています。
  - 「リサイクル資源を利用した商品を買うようにしている」については、「取り組んでおり、そのまま続ける」という回答の割合は27.4%ですが、「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」が50.2%と最も高くなっており、「家庭や地域でごみ減量とリサイクルのアイデアなどを話し合い実践している」が47.1%、「故障や破損したものは修繕修理して使うようにしている」が33.4%となっています(図4-10-1)。
-

図 4-10-1 ごみ減量とリサイクルなどの取組状況と今後の意向

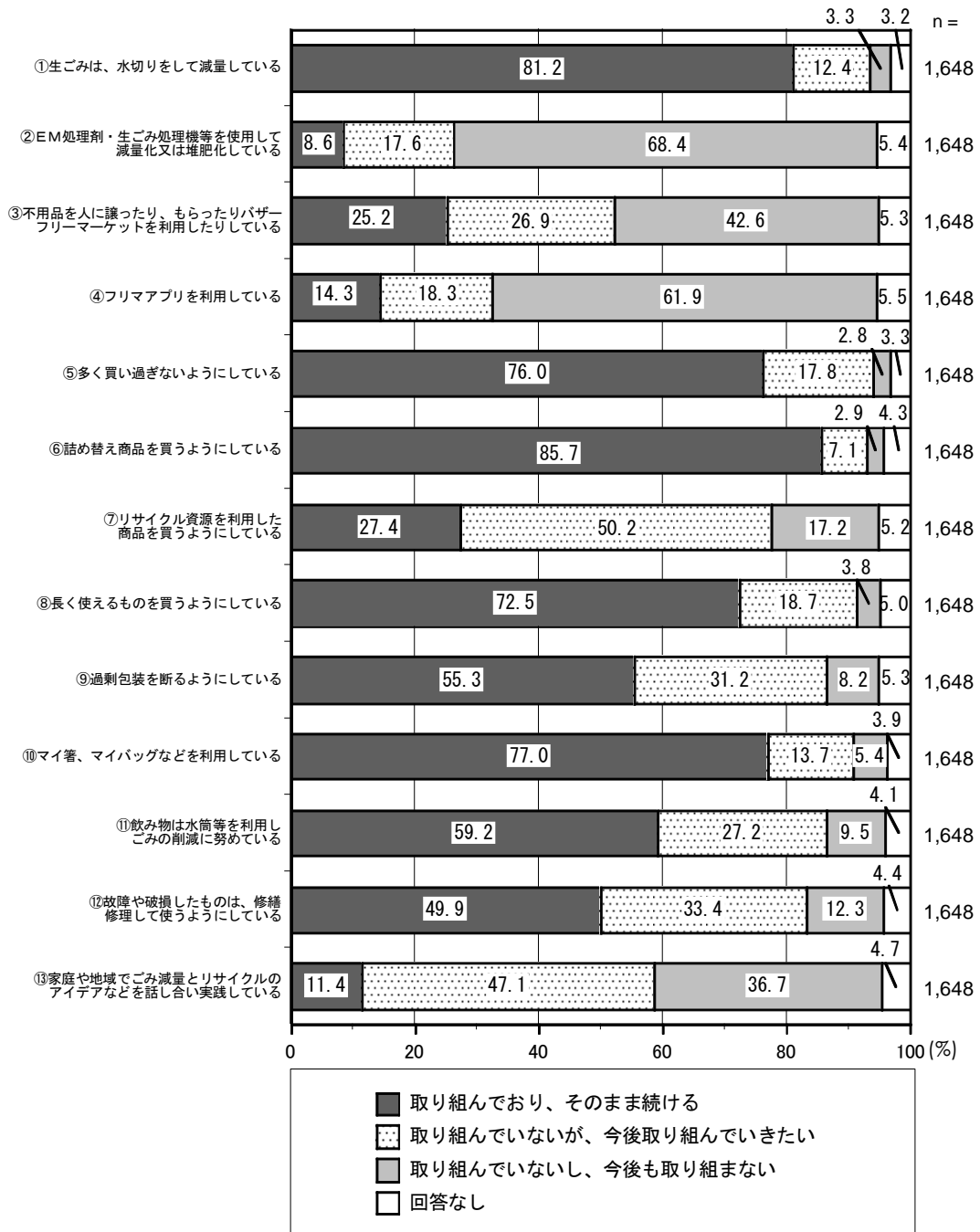




図 4-10-2 性別「ごみ減量とリサイクルなどの取組状況（取り組みをしている）」

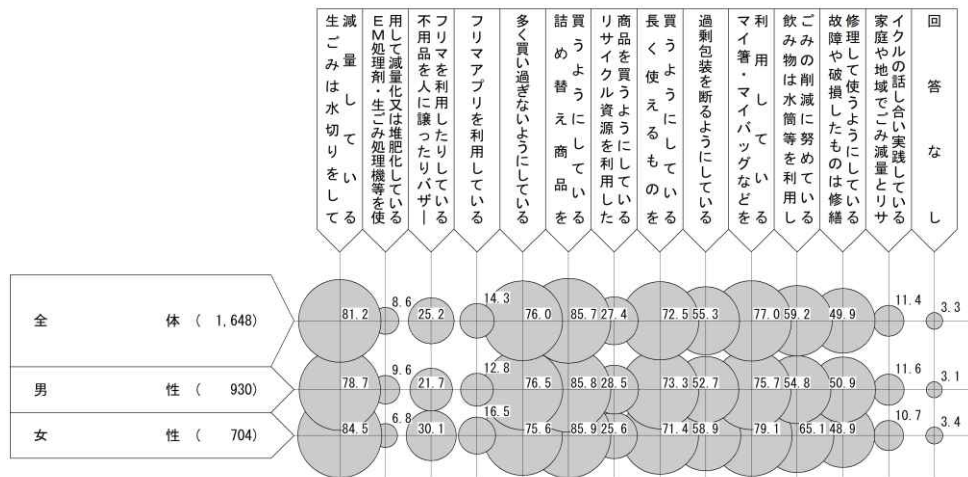
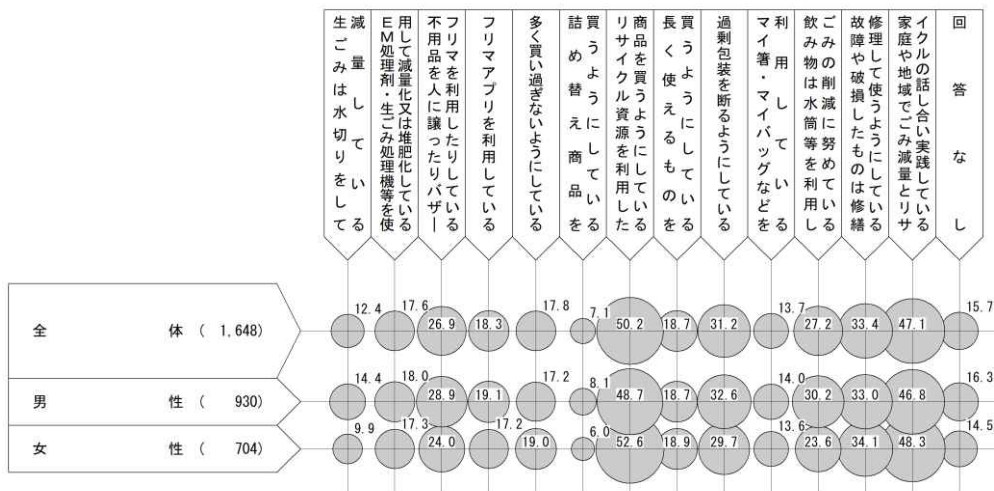


図 4-10-3 性別「ごみ減量とリサイクルなどの今後の意向（取り組んでいきたい）」



- ごみ減量とリサイクルなどの取組に「取り組んでおり、そのまま続ける」と回答した割合を年齢別で見ると、「詰め替え商品を買うようにしている」の割合は、30歳代で96.0%と高くなっていますが、年齢層が上がるにしたがって、その割合は低くなる傾向がみられます。
- 「生ごみは、水切りをして減量している」については、30歳未満では64.5%と他の年齢層に比べて低くなっています。また、30歳未満の年齢層では、「過剰包装を断るようになっている」についても42.1%と他の年齢層に比べて低くなっています。
- 「フリマアプリを利用している」や「不用品を人に譲ったり、もらったり、バザー・フリーマーケットを利用したりしている」については、30歳未満や30歳代といった比較的若い年齢層においては3割以上の割合で取り組まれています（図4-10-4）。
- ごみ減量とリサイクルなどの取組に「取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい」と回答した割合を年齢別にみると、「リサイクル資源を利用した商品を買うようにしている」の割合は、30歳代で60.2%と最も高く、年齢層が上がるほど割合が低くなる傾向がみられ、同様の傾向は「故障や破損したものは、修繕・修理して使うようにしている」や「過剰包装を断るようになっている」、「生ごみは、水切りをして減量している」でもみられます（図4-10-5）。

図4-10-4 年齢別「ごみ減量とリサイクルなどの取組状況（取り組みをしている）」

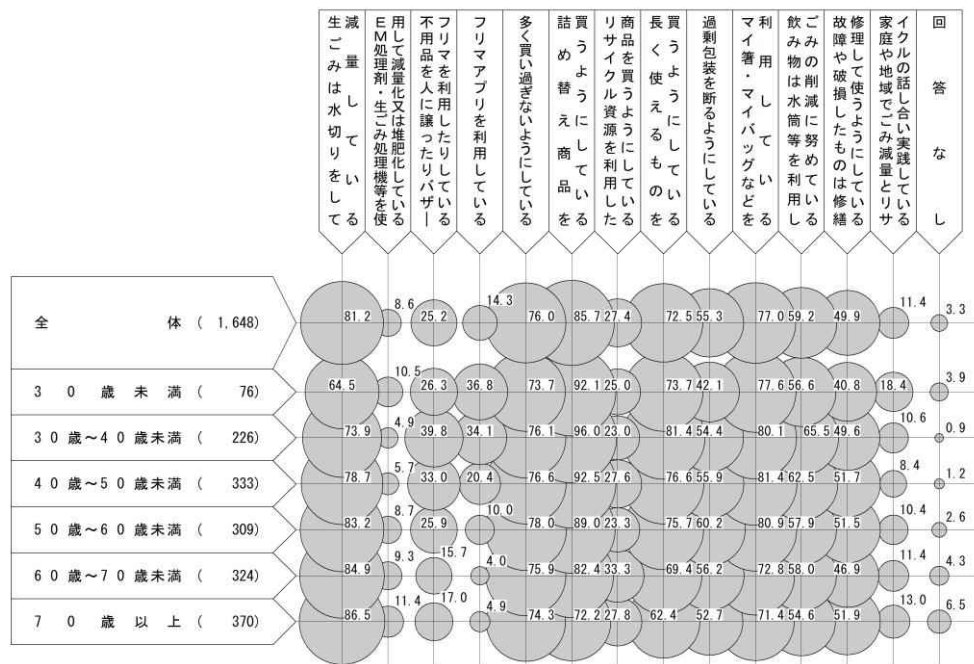


図 4-10-5 年齢別「ごみ減量とリサイクルなどの今後の意向（取り組んでいきたい）」

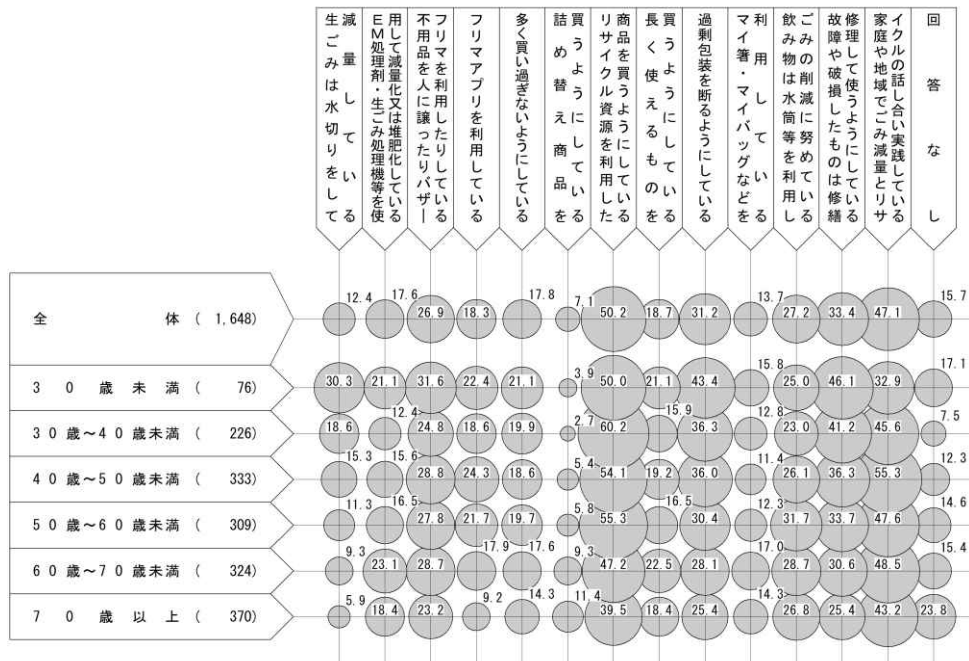


図 4-10-6 世帯人員別「ごみ減量とリサイクルなどの取組状況（取り組んでいる）」

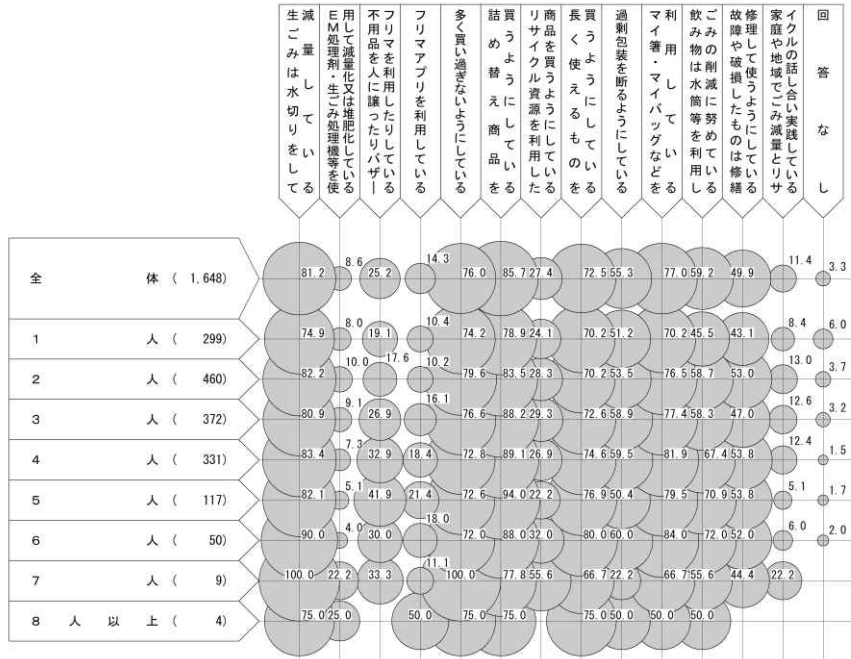


図 4-10-7 世帯人員別「ごみ減量とリサイクルなどの今後の意向（取り組んでいきたい）」

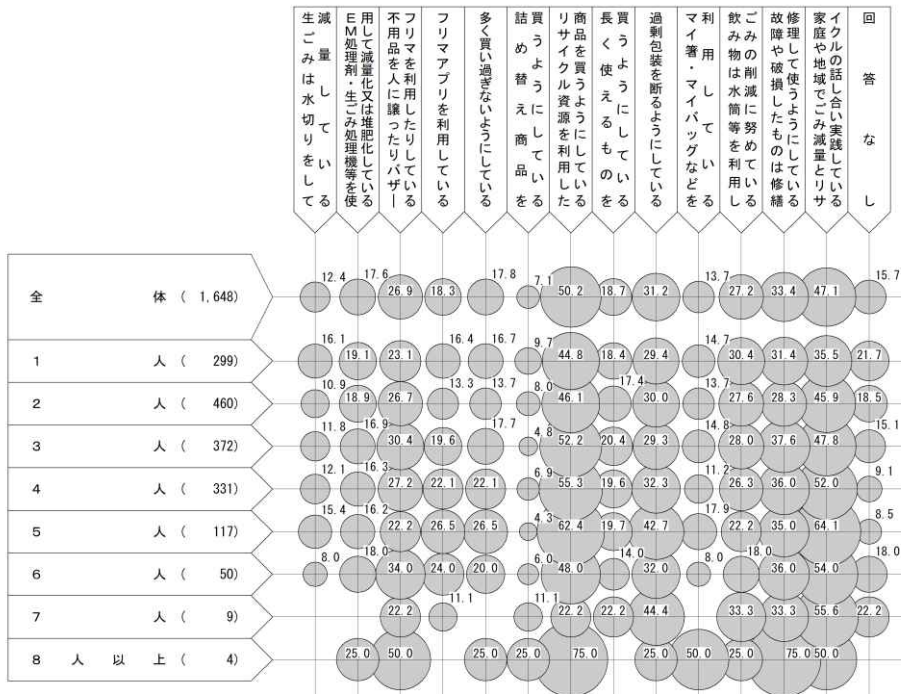


図 4-10-8 ごみ減量とリサイクルの心がけ別

「ごみ減量とリサイクルなどの取組状況（取り組みをしている）」

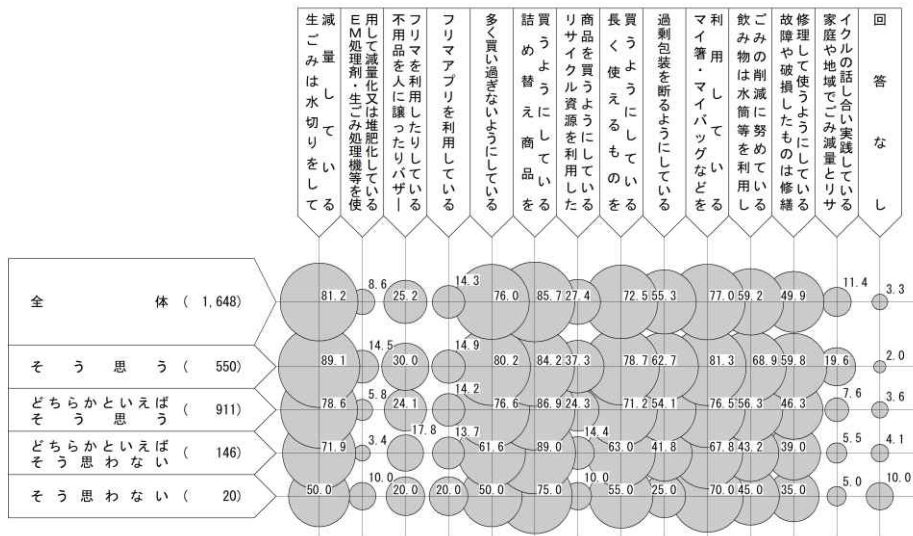
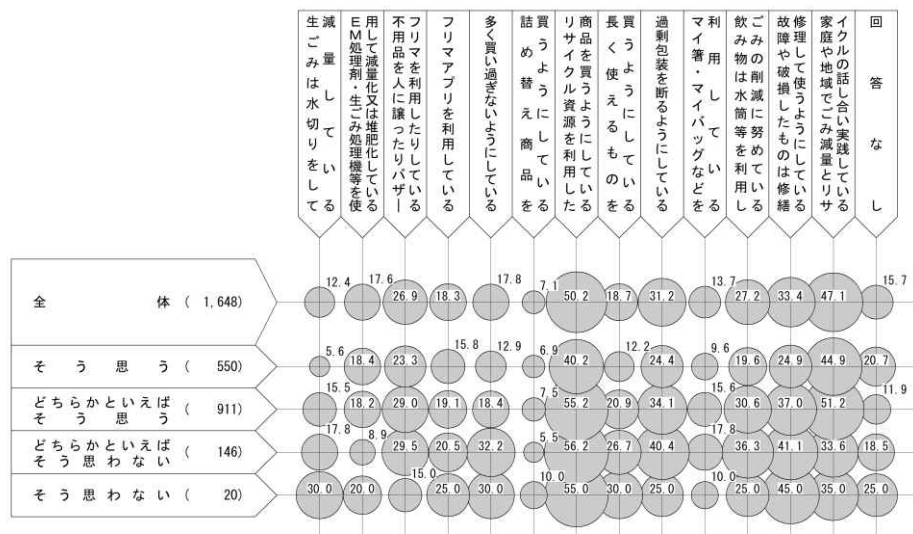


図 4-10-9 ごみ減量とリサイクルの心がけ別

「ごみ減量とリサイクルなどの今後の意向（取り組んでいきたい）」



## V ごみ指定袋について

### (1) ごみ指定袋制度のあり方

問 35 ごみ指定袋制度のあり方について、どのように考えますか。

◆ごみ指定袋制度について「現在の制度を続ける」との回答は 89.4%、「他の自治体のように 1 枚目から有料化する」との回答は 6.4%となっています。

図 5-1-1 性別「ごみ指定袋制度のあり方」

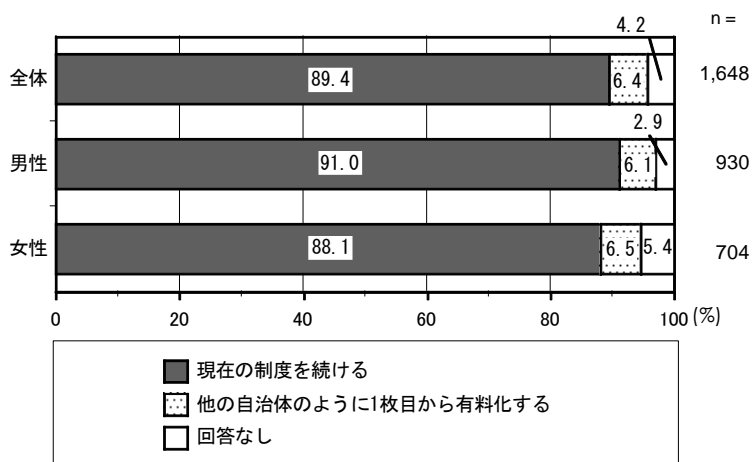


図 5-1-2 年齢別「ごみ指定袋制度のあり方」

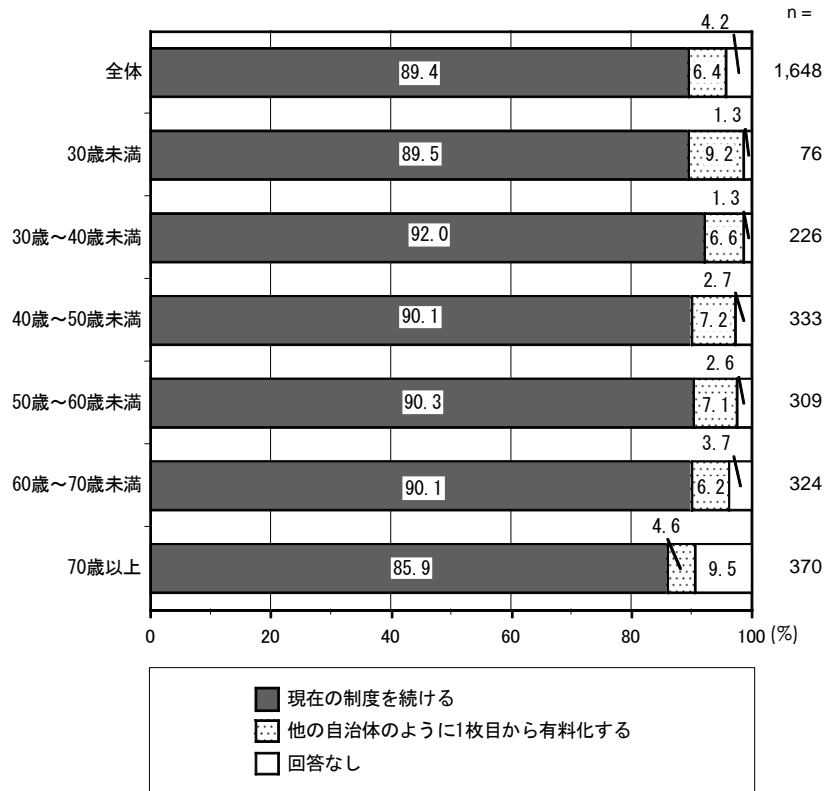


図 5-1-3 世帯人員別「ごみ指定袋制度のあり方」

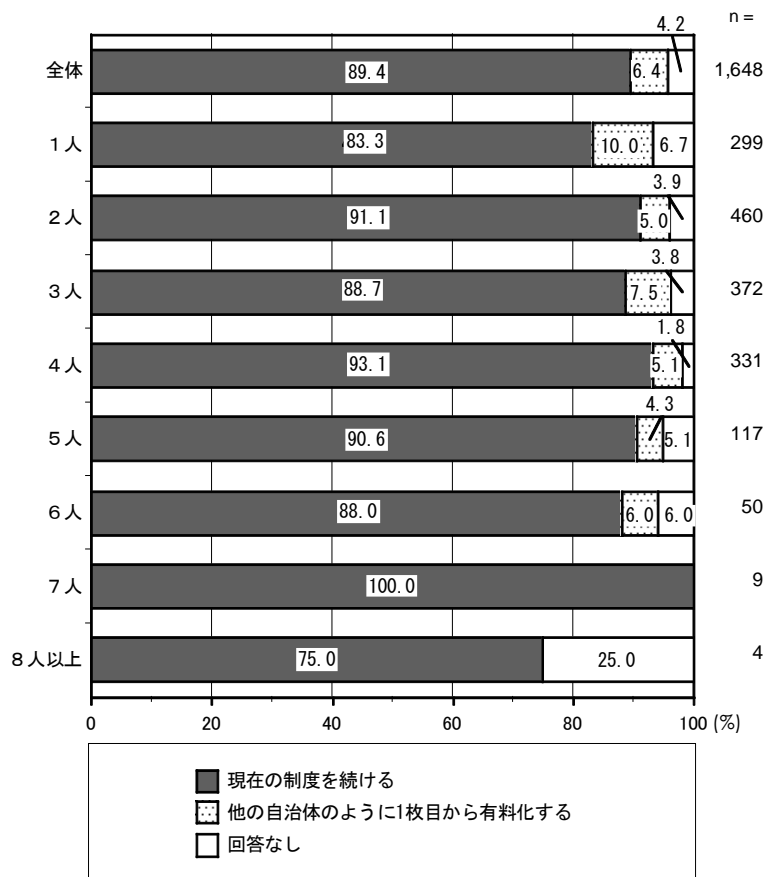
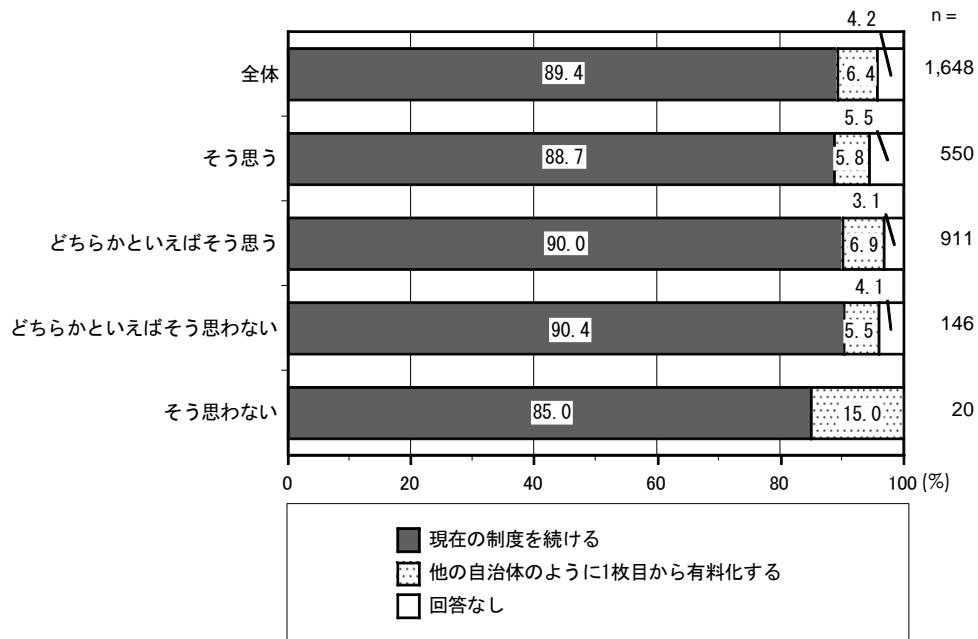


図 5-1-4 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「ごみ指定袋制度のあり方」





## (2) 制度を続けるとした理由

問 35-1 「1. 現在の制度を続ける」を選んだ理由（あてはまるものすべてに○を）

- ◆「配布枚数内でおさまるようごみの削減を行っているから」が64.0%と、現在の制度を続ける最も大きな理由になっています。次いで「配布枚数内でおさまれば費用負担が少なく済むから」(59.4%)、「1枚目から有料化すると不法投棄やルール違反のごみ出しが増えそうだから」(53.1%)が大きな理由になっています。

○問 35. で「現在の制度を続ける」と回答した89.4% (1,473人) にその理由を尋ねたところ、「配布枚数内でおさまるようごみの削減を行っているから」の割合が64.0%と最も高くなっており、次いで「配布枚数内でおさまれば費用負担が少なく済むから」が59.4%、「1枚目から有料化すると不法投棄やルール違反のごみ出しが増えそうだから」が53.1%、「指定袋を買うなどの手間がかからないから」が42.5%、「現在の制度がわかりやすいから」が34.2%となっています。

図 5-2-1 「制度を続けるとした理由」

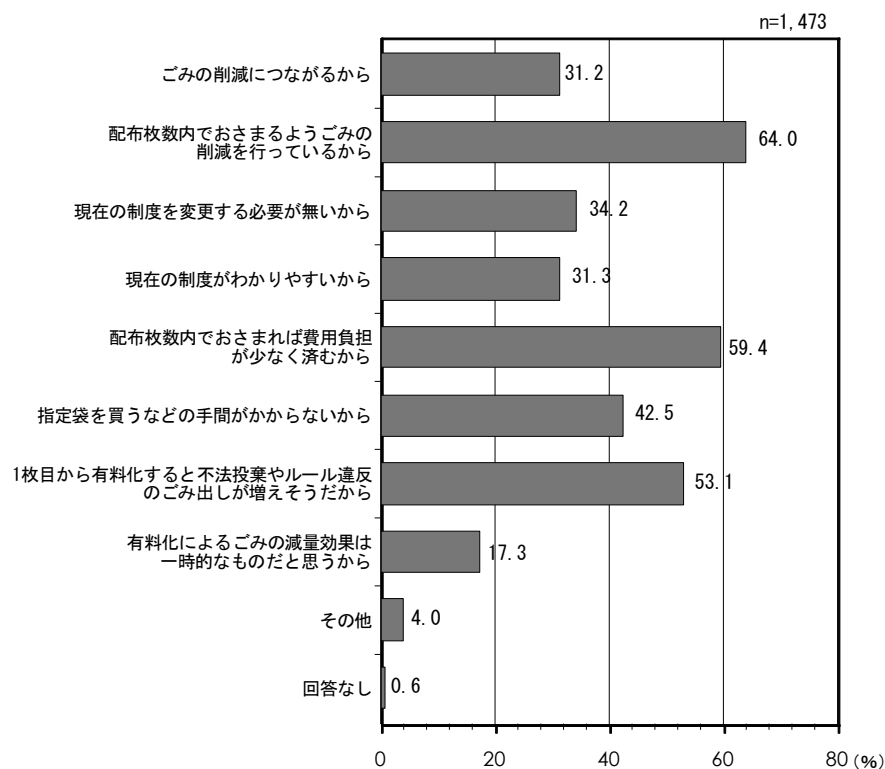
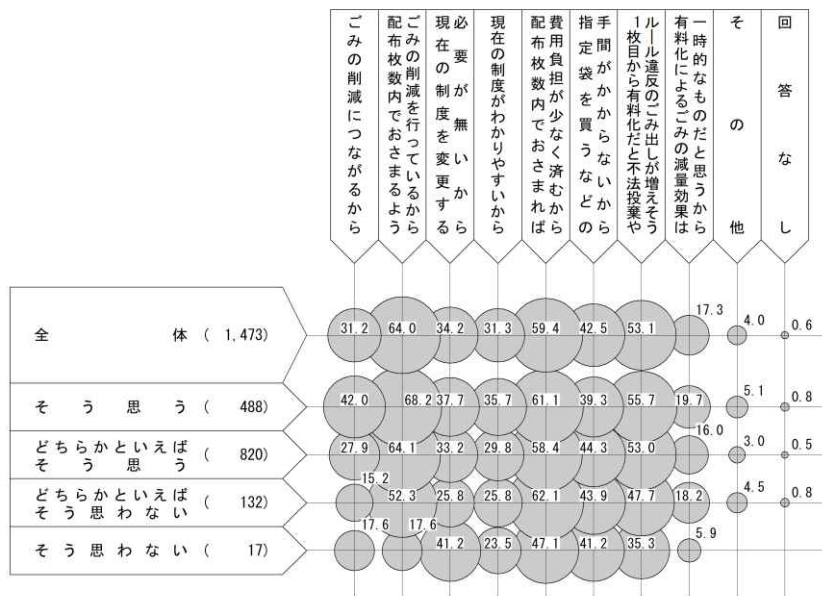


図 5-2-2 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「制度を続けるとした理由」



### (3) 1枚目から有料化にするとした理由

問 35-2 「2. 他の自治体のように1枚目から有料化する」を選んだ理由（あてはまるものすべてに○を)

- ◆「ごみの削減努力と費用負担が適切で公平だから」(55.7%)が「他の自治体のように1枚目から有料化する」と回答した最も大きな理由になっています。次いで「ごみの削減につながるから」(45.3%)、「指定袋の引換え、容量交換などの手間がかからないから」(39.6%)、「世帯人数に指定袋の無料配布枚数が比例していないから」(36.8%)が大きな理由になっています。

○問 35. で、「他の自治体のように1枚目から有料化する」と回答した6.4% (106人) に対し、その理由を尋ねたところ、「ごみの削減努力と費用負担が適切で公平だから」の割合が55.7%と最も高くなっており、次いで「ごみの削減につながるから」が45.3%、「指定袋の引換え、容量交換などの手間がかからないから」が39.6%、「世帯人数に指定袋の無料配布枚数が比例していないから」が36.8%となっています。

図 5-3-1 「1枚目から有料化にするとした理由」

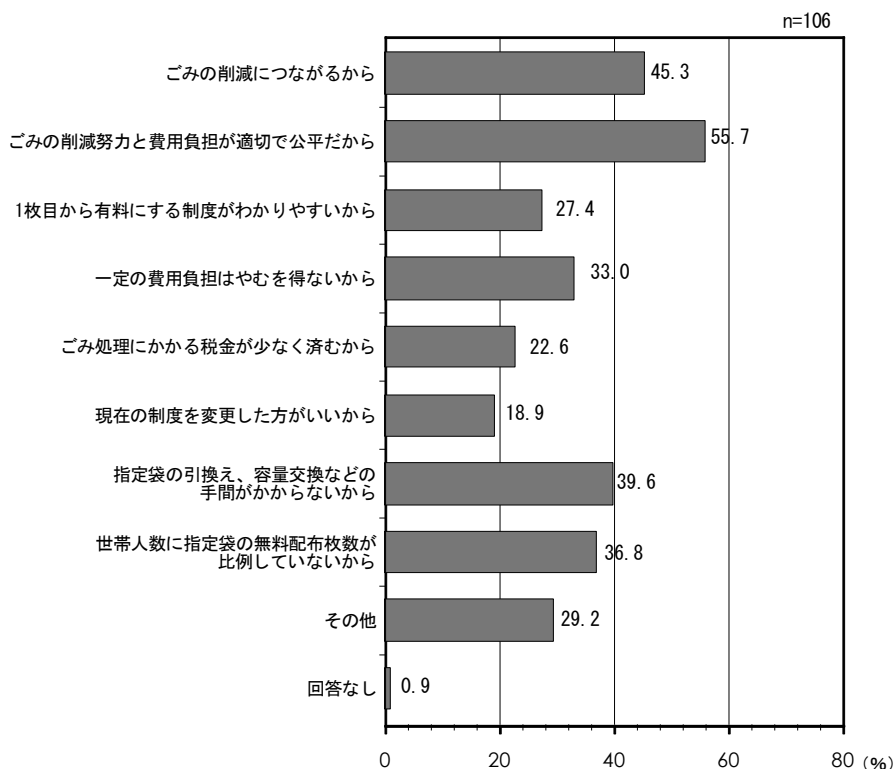
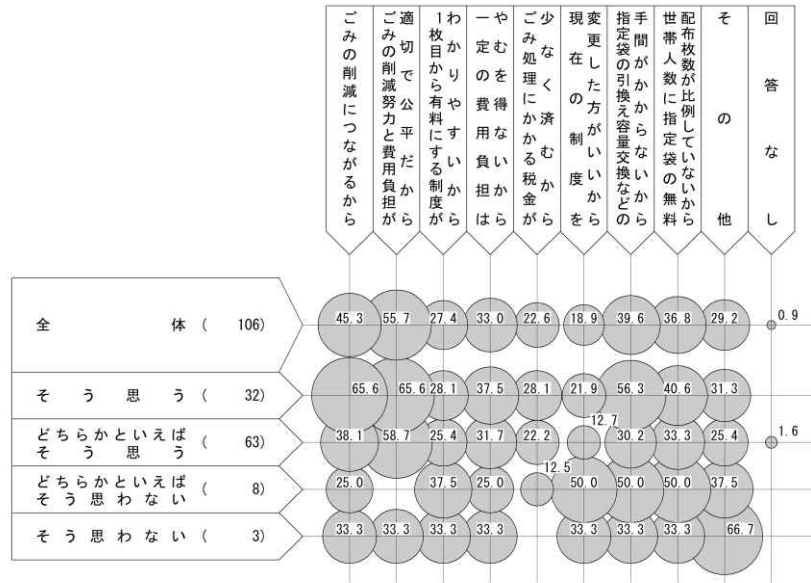


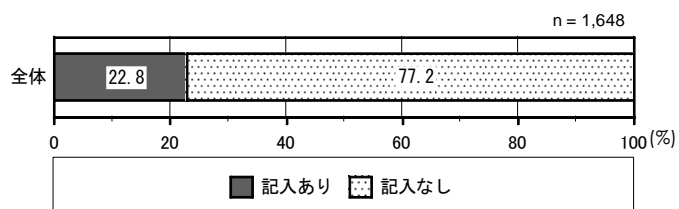
図 5-3-2 ごみ減量とリサイクルの心がけ別「1枚目から有料化にする」とした理由



## VI 自由意見

◆375 人の方から 504 件の意見をいただきました。

図 6 自由意見の記入



### 分類項目

1 . ごみの減量化・資源化に関する意見
2 . ごみの分別に関する意見
3 . ごみ集積場所・収集に関する意見
4 . ごみ出しに関する意見
5 . ごみ袋に関する意見
6 . 食品ロスに関する意見
7 . 市への要望・行政に関する意見
8 . アンケートに関する意見
9 . その他の意見

## 1. ごみの減量化・資源化に関する意見（96件）

### ① 過剰包装を無くす・ペーパーレス化・トレイやパックの廃止などごみの減量化（35件）

商品等の過剰な包装をなくす。(11)
新聞、チラシなど紙を使わないようにする。(7)
食品用トレイを減らす。(4)
消費する家庭のごみ減量は努力することで少なくすることは可能であるが、売る側の姿勢や生産する企業のあり方が変わる必要があると思う。(3)
スーパーレジでのビニール袋入りを廃止。(2)
量り売りなどを推進すべき。(2)
量り売りにして、使い捨てプラ容器の量を減らす。
ペットボトル等が多すぎる。
ペットボトルをつぶす器具をごみ袋配布とセットで配布するとよい。
ごみの堆肥化については夏の害虫や悪臭などの問題がある。
資源を収集する機会が多ければ出しやすい。
たくさん入った商品が多いため、もう少し少量のパックやお試し商品が増えてほしい。

### ② リサイクル・リユース・たい肥化などごみの資源化（20件）

リサイクルを推進すべき。(7)
生ゴミ堆肥化を推進。(3)
生ごみの回収BOXがあればいいと思う。(3)
リユースを増やす。(2)
ガレージセールの実施。
スーパーなどのリサイクルごみ収集場は、それ自体が広報になっている。
分別やリサイクルすることでかかるコスト・労力やエネルギー等の全体を明確にすべき。
ペットボトルはどのようにリサイクルされているのかよく分からない。
スーパーやデパートでペットボトルや、缶、瓶などを捨てるようにしたらいいと思う。

### ③ ごみの減量・資源化のための啓発・情報提供・意識改革（20件）

全市民がゴミ減量・リサイクルに対して真剣に取り組むような意識改革をすることが大切。(7)
ゴミ減量とリサイクルの達成度により、インセンティブを設ける。(5)
ゴミの減量による効果と実績をもっとアピールする。(2)
リサイクルの実情を教えてほしい。(2)
新聞・広報誌の電子化を普及させる。
ゴミの排出量に応じた費用の負担でよい。ゴミ削減の意識につながる。
資源化処理の簡便システムを開発・啓蒙してほしい。
スーパーのリサイクルに出していたが、これからは東海市の指定場所に出そうと思った。

### ④ その他、ごみの減量・資源化のためのイベント等の提案など（21件）

資源回収に協力した場合のポイントカードなどがあるとゴミを減らすきっかけになると思う。(7)
フリーマーケットなどの機会を増やす。(2)
エコイベントを行う (2)
ごみ減量とリサイクルに成立している自治体を見つけて見学する。
昔のように、資源ゴミを出せばトイレットペーパーと交換などのようなことをやってほしい。
洗ってリサイクルするより燃やすとコストも大きいし見直した方がよい。
紙はすべて電子化。
再生可能減量の見通しと研究開発。

ごみの処分はなかなか大変であると思うが、必要不可欠である。
自宅近くのリサイクルステーションがあると嬉しい。スーパーなどの敷地内で気軽に捨てられるようになったのはありがたい。
リサイクルするためのコミュニティを作り台帳登録し、欲しいものがいつでも探せるようにする。
容器等は石油等で作られていないものにする。
竹の皮をうまく利用できると思う。

## 2. ごみの分別に関する意見（24件）

### ①ごみ分別の問題点・課題（8件）

東海市は独身寮も多く資源の分別ができてないため、ゴミが増える。
いくらしっかりやったとしての長時間ごみを放置しておくことが近隣トラブルのもとになってしまう。
いまだに硬いプラスチックやビデオテープを資源袋で出している。
資源袋の中に缶とペットボトルが一緒に入っているため集積場に残っている。
リサイクルのための分別を細かく分けることでかえってエネルギーやリサイクルのコストが掛ってしまう。
知多市は可燃ゴミとプラスチックの分別がされていないようだ。
分別の方法が調べてみても非常にわかりにくい。めんどくさいと思うところを改善してほしい。
老人はごみ分別ができない。

### ②ごみ分別についての提案など（10件）

分別の種類を増やす。(4)
ゴミの分別をできるだけ簡単にしてほしい。(3)
ぼろりと資源袋から落ちるプラゴミは、資源でなく、ごみになるのできちんと袋をしぼることを周知。
雑誌類と紙類を同じ品目として欲しい。
食品トレイを全て白色に統一して、仕分けの手間削減。

### ③ごみ分別における意識改革、情報発信など（6件）

ゴミの分別の意識を高める。(2)
ゴミ分別の目的を理解することが重要と思う。
他市町のゴミ分別の取り組みの視察と情報発信。
専門の方に意見を聞いた上で分別の方法を検討するのはどうか。
もっとPRして欲しい。

## 3. ごみ集積場所・収集に関する意見（74件）

### ①ごみ集積場所の数・利便性・カラス等の被害などごみ集積場所について（43件）

資源回収ステーションを増やす。(13)
カラスやネコの被害を減らすようにしてほしい。(10)
ゴミ収集を自宅前にしてほしい。(7)
わかりやすく、集積場に大きな看板を設置。(2)
民間の資源回収場のような場所を増やしてほしい。

リサイクルボックスの設置を多くする。
資源回収拠点場が平日に1回のため、なかなか利用できない。常設場を増やしてほしい。
食品ロスを減らすためのステーションをもっと広げてほしい。
1人暮らしで粗大ごみを下に1人で降ろせないため、引き取りに来てもらえるサービスがあると良い。
紙や電池等もゴミ集積場所に資源として出せるといい。
車を所有していない人でも気軽にイレギュラーで発生するゴミをお願いできる場所があると助かる。
近くのリサイクルセンター（回収所）にビンの回収がなく不便です。
どこの回収するところにもカラビンもすてられるようにしてほしいです。
期間限定で不用土ステーションのようなものがあればいいのに。
地域で利用できるものを集め、自由にいらぬ人が置いて、いる人が自由に持っていける場所を作るとよい。

## ②収集日数や時間・収集方法などゴミ集積場所における回収について（17件）

資源ごみの回収を増やしてほしい。（9）
あまり締め付けが厳しいと不法投棄が増えそう。
場所が西知多センターで遠くなってしまうとゴミとして出してしまうかな。回収場所はそのまま変わらないのか？
ゴミの回収回数の削減等は衛生問題がありそう。
可燃ゴミの回収を増やしてほしい。
収集時間の変更。
ペットボトルをもっと別の方法で回収できるようにしてほしい。
資源ごみを捨てる場所や日がわかりにくいので、分かりやすくすれば、ごみをためなくて済む。
町内資源回収を月1回実施している。生ゴミは堆肥にしているため、可燃ゴミは週一回出せば良い。

## ③その他、ごみの収集にかかわる提案・要望などについて（14件）

清掃センターを開ける時間を伸ばしてほしい。（2）
家電を無料で引き取ってもらえると助かります。
子ども会の回収には一般の人は出せないが出せるようにすると良い。
ゴミ集積場で乾電池の回収をしてほしい。
リサイクルステーションはポイント制でお店で使える割引券などが配布されるのでお得、もっと積極的な告知が効果的である。
常設場の週末オープン。
新聞紙・本・雑誌・段ボール・衣類をゴミ集積場所でも出せるようになったら便利。
清掃センターでは、混んでいる時はすごく時間もかかり効率が悪いので、最後の計算で支払えたらスムーズになる。
地元の販売店に資源ごみの回収について携わってもらい、市から表彰する。
他の場所の常設場を作ってほしい。
清掃センターの資源にいつもお世話になっている。
自治会の資源ゴミ回収場所は近くにあっても他の自治会の者は利用できないので、誰もが利用できる状況になればいいと思う。
ゴミの回収ありがとうございます。



## 4. ごみ出しに関する意見（45件）

### ①ごみ出しの方法に関する意見・提案（13件）

出し方、処分の仕方がわからないとよく聞く。(3)
以前ゴミ袋に個人名を記していたが、以前の様に記名式にしてはどうか。(2)
生野菜など水分の多いものはしっかりと水分を除けば、軽くなるし燃えやすくなる。(2)
ゴミを小さくまとめる方法があれば、もっと袋に収まるはず。
生ごみはできるだけ乾燥させる。
よく出るビン類も黄色い袋か青袋のどちらかで出せるようにしてほしい。
引っ越して来た方が新聞紙十字しぼりや段ボールをそのまま可燃の日に出している。
缶など洗うのが面倒。
一人暮らしになってからは、ほとんどコンビニ返しになった。

### ②ごみ出しマナーに関する意見・提案（25件）

ゴミ出しのルールとマナーを守らない人が多すぎる。(15)
モラルや意識の向上をはかる。(3)
外国人の方への丁寧な説明を行うと良いと思う。(2)
瀬戸物・鉄にプラスチック等を巻いたものとかの捨て方がよくわからない。
不法投棄やゴミ出しのルール違反の実態はどうか。
分別せず袋に入れる人がいるので、簡単な分別方法がわかるような表をゴミ置き場に貼り付けてみたりしたらどうか。
アパートなどのゴミ集積場は分別はひどい。
不動産屋の方にもゴミの出し方など通知できるシステムがあるといいなと思う。

### ③その他、ごみ出しに関する要望・提案（7件）

羽毛布団のリサイクルの出し方がわからなくて、ゴミとして出してしまった。出し方をもっと分かりやすく記載してほしい。
コンビニ経営をしているが、今後、コンビニのゴミ箱がなくなれば、ゴミを分別してコンビニに持って来なくなると思う。
体積を減らす目的で配布ゴミ袋の枚数削減は効果があると思う。有料でゴミ袋を買うより、各人が工夫して捨てるようになると思う。
ゴミの出し方やレジ袋の断りなど少しでも多くの方に協力していただきたい。
リサイクルできるものは近くのリサイクルステーションを利用するなど、1人1人の意識を高く持つようにする。
リサイクルの結果がわかるようにして自分たちの行動がどう良い結果をもたらしているのかを明確にする。
配布が良い。計画的にゴミを出すようになった。

## 5. ごみ袋に関する意見（139件）

### ①ごみ袋の大きさ・強度・形状などに対する意見・要望（12件）

ゴミ袋の強度を高めてほしい。(2)
(大) 燃やすもの40L週1回で出しているが、夏は臭うので(小)20L袋で週2回出している。(小)20Lをもう少し増やしてもらえないか。
10L袋がほしい。
少量のゴミを大きいゴミ袋で捨たり余裕(ゴミ袋の体積に)があっても使用してしまう。
生ごみ用の袋で大小があるが小だと入れにくい。

不燃と資源の袋サイズを少し小さめにする。
可燃ゴミ袋を 20L 以下のサイズを作る。20L でも大きいので、余計なゴミを詰めてしまう。
資源ゴミ用の袋 30L サイズを作ってほしい。
一人暮らしでも大サイズが少量あると助かる。
以前のひも付きごみ袋は使いやすかった。
ゴミ捨て袋にごみ減量、リサイクルのメッセージを印刷する。

## ②ごみ袋の価格（有料化や価格アップ、無料配布廃止）に対する意見（57 件）

一定枚数無料配布を継続してほしい。(16)
ゴミ袋が高すぎる。(10)
ゴミ袋は有料にすべき。(6)
有料化になった場合、不法投棄が増え、町内での清掃が問題になる。(3)
ゴミ袋を有料にすると少しはごみの量を減らすことを考える機会になると思う。(2)
ゴミ袋無料配布の量をもう少し減らしても良いと思う。(2)
ゴミ袋が無料で、枚数内でおさめるよう努力しているが、有料化したら逆に分別も疎かになり量も増えると思う。(2)
一定の費用負担はやむを得ないと思う。
ゴミ袋の無料配布をしている限り、ゴミの減量はない。
無料配布を超えた 1 枚当たりの金額をもう少し高くした方がよい。
ゴミの量が減りその処理費用が、各家庭に還元されるなら有料化に賛成である。
無料だと無駄に使うことになる。
ごみ袋を高くしても不法投棄や混載が増えるだけ。
ゴミ袋の有料化（1 枚目から）は、段階を経て実行していただきたい。
急に有料化へ変更すると不法投棄などが増えてしまうのではないかと思う。まずは、段階を踏んでいただくと受け入れやすいと思う。
まず自分が無駄を出さないようにしてゴミを減らし、余ったゴミ袋は返却する。
ゴミ袋無償配布は定住地を検討するうえで優先度が高いと考える。
前年の 3 分の 1 とか 2 分の 1 無料配布する。
もしゴミ袋を足すと同じように有料化するのであれば、子育て世代にとってはすごく負担となる。
有料化にするとごみ量は少なからず減ると思うが、家計への負担が増える。
若い人、独身男性などにゴミ袋が今のままだと有料になることをもっとアピールする。
知多市との負担比率の改善について考えてほしい。
無料配布するゴミ袋の枚数を少しずつ減らし、最終的に数年かけて完全に有料化していく。

## ③ごみ袋の枚数についての意見（48 件）

ゴミ指定袋の枚数を減らす。(11)
子どもがいる家庭も新生児が産まれたらもらえるだけではなく優先的に枚数を増やしてほしい。(5)
可燃用ゴミ袋の配布枚数を増やしてほしい。(4)
家族の人数で袋の枚数が変わらないため、人数に応じて枚数を変えてほしい。(3)
いきなり 1 枚目から有料ではこちらも戸惑うので、毎年少しずつゴミ袋の枚数を減らし、有料として出すことをもっと推進していけば良いと思う。(2)
可燃用の袋以外は毎年余るので、受け取っていないが、可燃用が不足するので多めにほしい。
白より黄色の袋が少ない。
配布のゴミ袋で、大はお店でかえるのでサイズ中の枚数を増やしてほしい。
黄色いごみ袋が余っている。どうしたらよいか。
ゴミ捨て袋制度は現在のままで、各家庭への配布の枚数を少し減らしてもいいと思う。

ゴミ袋が毎回余るが、余った分は返却すべきだろうが、今年足りないかと思うと、そのまま本来分をもらってしまうのが現状。
ゴミ袋の配布枚数を数年毎減らして、各家庭へのゴミ削減の意識を高めるのが良いのではないか。
配布枚数を減らすことを伝えて配布。
余ったものは市が買い取るなど、何か嬉しいことがあれば人々の意識も変わってくるのではないかと思う。
黄袋と青袋は余っている家庭が多いと思う。
プラごみなどは店頭回収を利用すれば袋は不要。
少なく配布するようになれば足りない分、費用がかかるので減量するのでは。
配布量が多すぎて、その分ゴミ出しが多い家庭もあると思う。
可燃の大 60 枚は多いので、半分は 30L に変更してもらっている。
黄色と青色の袋は配布日に枚数を自己申告にしてはどうか。
ゴミ袋が今年はいらないという家庭には、商品券などを還元する。
ゴミ袋の L 換算での配布ではなく、枚数配布にしてほしい。
指定袋の配布量の見直しが必要なのでは。
前年の枚数を上限にして申告制にしてみてもいい。
家庭によって必要なゴミ袋の量は違うので、あげたりもらったりできるといいと思う。
指定袋の配布数について、データを分析し適切な枚数にすれば良い。
指定袋枚数はとてもありがたい。他の無駄なことへの税金は節約してゴミ袋はぜひ続けてほしい。
ゴミ袋配布時に前年の余ったゴミ袋の回収を行う。

#### ④その他、ごみ袋に関する提案・要望など（22 件）

ゴミ袋を返却するようにして、その人には何らかのインセンティブで還元すればよいと思う。(6)
子供 2 人がおむつ使用時、毎週 2 回大袋でゴミを出していた。子供が小さいとゴミもよく出るので、ゴミ袋配布はありがたい。(2)
資源回収に協力できたらポイント制にして、次年度のゴミ袋を一定額割引価格で購入できる。
急にゴミ袋がもらえなくなるのは不満が出ると考えられるため、数年後もらえなくなるということを知らせ、その間もゴミ袋を渡す量を減らしていく。
資源回収所で資源ゴミを出す量や回数でゴミ袋がもらえると言うシステムにする。
資源ごみを出す量に応じてポイントがもらえ、ゴミ袋がもらえると言うシステムはいかがでしょうか。
毎年少しずつ無料配布する枚数を減らしていく。
2 年に 1 回の配布にして、足りない分は各自購入にしてはどうか。
布オムツを利用している家庭には地域振興券を配るなどして、ゴミ袋を利用する枚数が少ない家庭には何か得になるような事があるとよい。
無料配布数を超えた場合の指定袋の料金をもっと値上げしてはどうか。
排泄物のゴミがある家庭には大きめの袋を多めにしてほしい。
スプレー缶専用の袋が欲しい。1 つか 2 つぐらいしか出ないのに資源袋でシールは面倒で袋の無駄。
有料化及び 1 枚あたりの単価が安い名古屋市方式にすると買った袋だからとムダに使うと思うので、一定の袋の配布だと、その枚数に収めようと努力すると思う。
支給されたゴミ袋(特に黄色)を毎回外してもらっているの、最初から入れずに必要な家庭だけ受け取るようにしてほしい。
追加で購入している量はわかるのでしょうか?それは一人当たりどのぐらいの量になっているのか知りたい。
ゴミ袋の配布とても助かっている。

## 6. 食品ロスに関する意見（11件）

飲食店やスーパー・コンビニの食品ロスはどうか。(3)
自分が子供のころは野菜や果物は捨てるどころほとんどなく使い切っていた。これからも日々の暮らしの工夫しながら「使い切り」してゴミの減量に努めていきたい。
賞味期限・消費期限がある品は場所をもうけて集めて必要な方に渡してほしい。
食品ロスについて、少しでも多くの方に協力してほしい。
ごみ減量・リサイクル（3R）・食品ロスについて教育を早期からすることにより積極的に取り組もうとする市民が育つのではないかと思う。
自然農体験など食に感謝する体験イベントを行う。
食品ロスについて、グラムで言われるより、「にんじんは皮をむかなくてもよい」など具体的に言われた方がわかりやすい。
ホームページなどで食品の皮のレシピとか紹介してはどうか。
各家庭に必要な食材の量の目安を市から提案し、余分な食材を買わないようにしていく。

## 7. 市への要望・行政に関する意見（89件）

### ①ごみ減量等に関する情報発信の内容・手段の要望・提案など（23件）

市民にもっとアピールすると良い。(7)
アプリ、ホームページを活用して、正しく捨てたり、リサイクルできるようにする。(5)
わかりやすいマニュアルの作成、配布。(2)
もっと清掃センターの活動をアピールしてみても。(2)
他の地域と比較したデータ表があると現状がよくわかる。(2)
各家庭で生ごみを堆肥にする方法をPRしてほしい。また、それに必要な装置や材料を紹介してほしい。
暮らしに関するセミナーなどのイベントや情報発信。
捨て方や分別の意識を変えていくためにゴミを捨てた以降の苦労や費用についてアピール。
東海市のネットのトップ画面に「ゴミ袋がこのままでは有料化になるかも」と目を引くような大きなバナーを作るのはどうか。
チャレンジしやすい方法を例としてあげてみる。

### ②ごみ減量等に関する市が行う講座・イベント等の啓発活動について（20件）

ごみ削減の啓発活動を行う。(8)
ごみ削減のイベントを開催する。(5)
学用品・制服のバザーをもっとわかりやすく、市主体でやってほしい。
生前整理・遺品整理などの片づけのプロとの協働事業。
実際にリサイクルされている資源をまず明確にして市民に知らせるべき。
個人の自覚によって差があると思う。
このようなゴミ量のデータを知らなかった。増加していることを初めて知った。市民にも理解してもらえ環境を作れば、市民の意識が変わるのではないか。
ごみの目標値の根拠、どうすれば達成するか提示してほしい。また、ゴミの少ない人を具体例として教えてほしい。
関心のない人に意識してもらうことは難しいと思う。

### ③ごみ減量等に関する行政指導や市の対応姿勢、制度などについて（21件）

今の制度でよいと思う。(6)
不法投棄している人に行政から指導してほしい。(2)

市民にだけ減量を厳しく言っているが、企業・メーカー・店舗などがいまだに過剰包装をしている。市内のスーパーなどに指導すべき。(4)
違反者に罰金を科してほしい。
ゴミの対応において、東海市は市民に対して優しい対応をとってくれていると感じている。
家庭の敷地内で燃やしている人が多くいる。何とかしてほしい。
ゴミの集積所にリサイクル法で出せない家電などの表示をすると分かりやすいと思う。
行政も私たちと一緒に努力する必要があると思う。
市全体に鉄粉の黒い粉の影響が家庭でも感じられるので、黒い粉対策をしてほしい。
商品の裏のシールをはがしやすいように企業側に働きかけてほしい。
資源袋の中に生活可燃ゴミが入って指定日に収集されていない。赤シールだけではいけないことを伝えることができず常習者が減らない。
他市町の動向を踏まえて、変更する機会かと思う。

#### ④ごみ減量等に関する補助金等や税・財政面について (15 件)

生ごみ処理機は本体価格が高いので、補助金を検討してほしい。(7)
このようなことにはもっとお金を使ってほしい。
ゴミを減らすことは税金の節約。
ゴミを減らす代わりに市民税を安くしてほしい。
ごみ減量につながる努力をしている企業としていない企業で税金額を変えるべき。
ふるさと納税を積極的に実施し税収を増やし、ごみ処理費用の負担を減らす。
四日市市のような炉を導入し、焼却の量を増やすことで分別に関わる人件費を削減することもアイデアの一つではないか。
ゴミの不法投棄問題に対してはどのように取り組むのかをセットで論じるべき。そのための税金ではないか。
高い税金を払っているのだから、他の市と比べず東海市は無料のままで良い。

#### ⑤その他、市への要望・提案など (10 件)

ごみの集積場に水道の蛇口をつくってくれると掃除するときに助かる。
ごみ袋配布時は、お知らせのはがき、配布のアルバイト募集、持ち帰る時の袋の重さなど無駄な労力が必要なので変更してほしい。
生ごみが一番多いので処理乾燥機をモニターにしたらどうか。
プラスチック等のリサイクル率が低いと言われているのは手間がかかるせいだと思うので、回収しやすい方法を推進してほしい。
自治会に入っている世帯が減っているため、回覧板の周知ができず、町内ごみ問題が関係住民に伝わりにくくなっている。
昔のように家でも燃やせるものは燃やせばごみは減るのではないか。
特に捨てられているところに防犯カメラをつけ、そこを中心に見張る。
不燃ゴミは使えるものは市が買い取ってくればゴミが減ると思う。
落ち葉を自宅で焼くようにできないか。
ゴミ量を人口比で比較しているが、世帯数比率としたほうがわかりやすい。知多市とのみ比較しているが、他の市はどうなのか。

### 8. アンケートに関する意見 (調査票の内容や方法など) (15 件)

アナログのアンケートはやめてほしい。(3)
アンケートの文字が多すぎて見づらく、苦勞した。(2)
アンケートのホッチキスが気にかかる。

このアンケート用紙は質問と現状の説明が一緒になっているが、アンケートだけを別にし、説明部分は手元に残すようにした方がよい。
このアンケートで初めてゴミに対する知らないことがわかった。ゴミ・資源等のことを考えるようになった。
現在のような指定袋制度、そのものに反対である。このようなアンケート設問ではこのような意見が排除されてしまう。
このアンケートがゴミ袋の有料化のためのお膳立てでないことを願う。
ゴミの指定袋を有料化するためのアンケートなのか、東海市と他の市町村を比べて何の意味があるのか。
ゴミよりもプライオリティの高いアンケート調査があるはず。
行政でこのようなアンケートに取り組まれたことは珍しいが、大変良いことであると思う。
なぜ増えているのか調査しないと対策が的外れになってしまうかもしれない。回収業者とヒアリングしてみるのも良いかも。
手間のかかるアンケートを無償でやらせるのはいかなものかと思う。プレミアム商品券などがあると良い。

## 9. その他の意見（10件）

清掃センターの方には感謝している。(4)
SDGS を広げ認知度を増す。(2)
詳しい知識はないが、バイオマス発電など他国で行われているものを取り組んではどうか。
ごみのエネルギーを利用した発電を推進して、化石燃料の使用を抑えるほうがよほどエコだと考える。
地球環境改善活動中の団体や個人との協働事業。
ペットの糞と不法投棄が気になる。

## ごみ減量・リサイクルについてのアンケート調査

### 快適な生活環境を守るための市民アンケート

#### <調査のお願い>

日頃よりごみの減量、リサイクルの推進にご協力いただきありがとうございます。

ごみの減量・リサイクルは長年の課題であります。2015年に採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」の日本における実施計画において「省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会」が目標の一つに設定されました。

また、食品ロスの問題やマイクロプラスチックの問題など、ごみの問題だけにとどまらない様々な課題も注目されており、これまで以上に市民の皆様と協力してごみの減量、リサイクルに向けた取り組みを推進していく必要があります。

つきましては、市民の皆さまにごみ減量とリサイクルの取組状況などについてアンケートをお願いし、今後の取り組みの参考とさせていただくものです。

このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年（2021年）1月 東海市長 鈴木 淳 雄

#### <ご記入にあたって>

1. このアンケートは、18歳以上の東海市在住者から無作為で抽出した3,000人の皆さまにお願いしています。
2. このアンケートは、あなたが行っているごみ出しや分別についてお答えください。わからないことについては、あなたの世帯で主にごみ出しや分別を行っている方に相談しながらお答えください。
3. 回答の内容は、すべて統計的に処理しますので、プライバシーの保護はもとより、他の目的に利用することは一切ございません。
4. 調査票をご記入のうえ、**1月31日（日）**までに、同封の返信用封筒に入れてご投函ください。〈切手は不要です〉
5. アンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

問い合わせ先：東海市 清掃センター リサイクル推進担当

電話 052(601)2053

FAX 052(689)1166

## I. あなたご自身のことについておたずねします

問1. あなたの性別・年齢をお答えください。(あてはまるもの1つに○を)

●性別

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

●年齢

- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 30歳未満 | 2. 30代   |
| 3. 40代   | 4. 50代   |
| 5. 60代   | 6. 70歳以上 |

問2. あなたのお住まいの地域をお答えください。(あてはまるもの1つに○を)

- |           |         |          |
|-----------|---------|----------|
| 1. 南柴田町   | 2. 名和町  | 3. 浅山    |
| 4. 荒尾町    | 5. 東海町  | 6. 富貴ノ台  |
| 7. 富木島町   | 8. 中央町  | 9. 大田町   |
| 10. 高横須賀町 | 11. 中ノ池 | 12. 横須賀町 |
| 13. 元浜町   | 14. 養父町 | 15. 加木屋町 |

問3. あなたの職業をお答えください。(あてはまるもの1つに○を)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 農業        | 2. 自営業       |
| 3. 会社員       | 4. 公務員・団体職員  |
| 5. パート・アルバイト | 6. 専業主婦・専業主夫 |
| 7. 学生        | 8. 無職        |
| 9. その他       |              |

問4. あなたを含めて同居されている世帯人員の数をお答えください。(あてはまるもの1つに○を)

- |       |         |       |
|-------|---------|-------|
| 1. 1人 | 2. 2人   | 3. 3人 |
| 4. 4人 | 5. 5人   | 6. 6人 |
| 7. 7人 | 8. 8人以上 |       |

問5. あなたのお住まいの住宅の種類をお答えください。(あてはまるもの1つに○を)

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1. 戸建住宅 (持ち家)     | 2. 戸建住宅 (賃貸) |
| 3. 集合住宅 (持ち家)     | 4. 集合住宅 (賃貸) |
| 5. 店舗兼住宅 (持ち家・賃貸) | 6. 社宅・寮      |
| 7. その他 ( )        |              |



## Ⅱ. あなたの家庭のごみ出しの状況についておたずねします

※ わからないことについては、あなたの世帯で主にごみ出しや分別を行っている方に相談しながらお答えください。

問6. あなたの家庭では、可燃ごみは、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。  
(最も近いもの1つに○を) ※毎週2回の収集日があります。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1. 1週間に2回(ほぼ毎回)出す | 2. 1週間に1回くらい出す |
| 3. 1ヶ月に1~3回くらい出す  | 4. ほとんど出さない    |

問7. あなたの家庭では、不燃ごみは、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。  
(最も近いもの1つに○を) ※毎月1回の収集日があります。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す | 2. 2~3ヶ月に1回くらい出す |
| 3. 年に1~3回くらい出す    | 4. ほとんど出さない      |

問8. あなたの家庭では、プラスチック製容器包装は、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。(最も近いもの1つに○を) ※毎週1回の収集日があります。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1. 毎週          | 2. 1ヶ月に2回くらい出す   |
| 3. 1ヶ月に1回くらい出す | 4. 2~3ヶ月に1回くらい出す |
| 5. ほとんど出さない    |                  |

問9. あなたの家庭では、ペットボトルは、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。(最も近いもの1つに○を) ※毎月1回の収集日があります。

- |                   |                                   |
|-------------------|-----------------------------------|
| 1. 1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す | 2. 2~3ヶ月に1回くらい出す                  |
| 3. 年に1~3回くらい出す    | 4. スーパーマーケットのリサイクルステーションなどを利用している |
| 5. ほとんど出さない       |                                   |

問10. あなたの家庭では、缶類は、どれぐらいの頻度で集積場所に出していますか。(最も近いもの1つに○を) ※毎月1回の収集日があります。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 1ヶ月に1回(ほぼ毎回)出す | 2. 2~3ヶ月に1回くらい出す |
| 3. 年に1~3回くらい出す    | 4. ほとんど出さない      |

問11. あなたの家庭の、この1年間の可燃用指定袋(白色)の使用枚数はどうでしたか。  
(あてはまるもの1つに○を)

1. 配布された枚数が多くて余った
2. 配布された枚数でちょうどよかった
3. 配布された枚数では足らずに、購入した

問12. 【問11.で「3. 配布された枚数では足らずに、購入した」と回答した方にお聞きします。】この1年間に購入した枚数は、おおよそ何枚ですか。(あてはまるもの1つに○を)

- |          |        |
|----------|--------|
| 1. 10枚   | 2. 20枚 |
| 3. 30枚   | 4. 40枚 |
| 6. 50枚以上 |        |

問13. あなたの家庭の、この1年間の不燃用指定袋(青色)の使用枚数はどうでしたか。(あてはまるもの1つに○を)

1. 配布された枚数が多くて余った
2. 配布された枚数でちょうどよかった
3. 配布された枚数では足らずに、購入した

問14. あなたの家庭の、この1年間の資源用袋(黄色)の使用枚数はどうでしたか。(あてはまるもの1つに○を)

※資源用袋の追加分は、清掃センターやごみ指定袋一斉配布会場にて無料でお渡ししています。

1. 配布された枚数が多くて余った
2. 配布された枚数でちょうどよかった
3. 配布された枚数では足らずに、追加でもらった

### Ⅲ. あなたの家庭のごみと資源の分別についておたずねします

東海市では、資源分別を推進するため、清掃センター内の常設場や市内13箇所の拠点場で資源回収を行っているほか、スーパーマーケットの店頭でもペットボトルなどの回収を行っています。(回収場所等は下記のとおりです。)

#### [資源回収の場所と回収品目]

区分	回収日	回収場所	回収時間	回収品目
常設場	年末年始を除く毎日回収	清掃センター内の常設場	9:00～11:30 13:00～15:30	紙、布、缶、びん、プラスチック製容器包装、ペットボトル・ペットボトルキャップ、天ぷら廃油、食品用トレイ等発砲スチロール、使用済インクカートリッジ、硬質プラスチック製品、小型家電、水銀使用廃製品、乾電池、二次電池、羽毛ふとん
拠点場	第1木曜日	替地公園、メルヘンの森 社宮司公園、三ツ池小プール	4月～10月 6:30～12:00	紙、布、缶、びん、プラスチック製容器包装、ペットボトル、ペットボトルキャップ、天ぷら廃油、食品用トレイ等発砲スチロール
	第2木曜日	平地公園、農業センター 加木屋南公園		
	第3木曜日	しあわせ村北駐車場、富木島公民館、文化センター	11月～3月 7:00～12:00	
	第4木曜日	脇ノ田公園、大田町公民館 加木屋市民館		
ごみ集積場所	地区によって異なる	地域のごみ集積場所	5:00～7:30に出す	缶、プラスチック製容器包装(食品用トレイ等発砲スチロール、ペットボトルキャップ含む)、ペットボトル
店頭回収	各店舗の営業日	バロー名和店、MEGAドン・キホーテ東海名和店、スギ薬局荒尾店、フィールホームタウン、アピタ東海荒尾店、DCMカーマ東海店、バロー上野台店、MEGAドン・キホーテUNY太田川店、生鮮館ウシヒロよこすか店、バロー加木屋店、アオキスーパー加木屋店	各店舗の営業時間	ペットボトル、ペットボトルキャップ
集団回収	町内会・自治会・子ども会等実施団体により異なる	地域の回収場所	実施団体により異なる	紙、布、缶、びん

問15. あなたの家庭では、ごみと資源をどのように出していますか。品目ごとにあてはまるものに○をつけてください。(複数の出し方であれば、あてはまるものすべてに○を)

※1 資源用袋でごみ集積場所に出す場合は「2」に○をお付けください。

※2 乾電池については、お近くの「乾電池回収箱」をご利用の場合は「2」に○をお付けください。

※3 蓄電池や充電式電池ともいい、一回限りではなく充電を行うことにより繰り返し使用することが出来る電池(リチウムイオン電池、ニッケル電池等)のことです。

選択肢		1	2 ※1	3	4	5
品目		ごみとして出している	資源として出している	出さない(出ない)	わからない	その他(具体的に記載してください)
例	生ごみ	○1		3	4	○5(一部を堆肥化している)
①	生ごみ	1		3	4	5( )
②	新聞紙・折込チラシ	1	2	3	4	5( )
③	本・雑誌・パンフレット	1	2	3	4	5( )
④	段ボール	1	2	3	4	5( )
⑤	紙箱・包装紙	1	2	3	4	5( )
⑥	牛乳(紙)パック	1	2	3	4	5( )
⑦	古着・古布	1	2	3	4	5( )
⑧	羽毛布団	1	2	3	4	5( )
⑨	アルミ缶	1	2	3	4	5( )
⑩	スチール缶	1	2	3	4	5( )
⑪	びん類	1	2	3	4	5( )
⑫	ペットボトル	1	2	3	4	5( )
⑬	プラスチック製容器包装	1	2	3	4	5( )
⑭	食品用トレイ	1	2	3	4	5( )
⑮	天ぷら廃油	1	2	3	4	5( )
⑯	硬質プラスチック	1	2	3	4	5( )
⑰	小型家電	1	2	3	4	5( )
⑱	インクカートリッジ*	1	2	3	4	5( )
⑲	乾電池 ※2	1	2	3	4	5( )
⑳	二次電池 ※3	1	2	3	4	5( )
㉑	水銀使用廃製品(蛍光灯、体温計等)	1	2	3	4	5( )



問16. あなたの家庭では、ごみと資源をどのように分別していますか。(最も近いもの1つに○を) ※市で資源回収を行っている品目は、問15の②～⑩です。

1. すべて品目ごとに分別している
2. だいたい品目ごとに分別している
3. あまり分別していない
4. ほとんど分別していない

問17. あなたが、日頃、ごみと資源の分別で感じていることは何ですか。(あてはまるもの3つまで選んで○を)

1. 分別の方法がよくわからない
2. 洗うなど手間がかかり、面倒と感じている
3. 分別しても収集日まで家の中に置いておく場所がない
4. 常設場・拠点場の場所が遠い
5. 常設場・拠点場の場所を知らない
6. 資源集団回収の日時や場所を知らない
7. 他の人も分別していないから、自分も分別しない
8. 1人くらい分別しなくても影響がない
9. その他 ( )

問18. あなたの家庭では、資源分別収集の常設場(清掃センター内)をどの程度利用されますか。(最も近いもの1つに○を)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 週1回以上利用する | 2. 月1回以上利用する |
| 3. 年1回以上利用する | 4. 利用しない     |

問19. あなたの家庭では、資源分別収集の拠点場をどの程度利用されますか。(最も近いもの1つに○を)

※拠点場は、毎月1回(木曜日)の午前中に替地公園、平地公園、しあわせ村北駐車場、脇ノ田公園、メルヘンの森、農業センター、大田町公民館、富木島公民館、文化センター、社宮司公園、加木屋市民館、三ツ池小プール、加木屋南公園で開設しています。(詳しくは、P4へ)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 月1回程度利用する | 2. 半年に1回以上利用する |
| 3. 年1回以上利用する | 4. 利用しない       |

問20. あなたの家庭では、地域で行われている資源集団回収をどの程度利用されますか。(最も近いもの1つに○を)

※資源集団回収は、市内の町内会・自治会、子ども会、各種団体によって行われる自主的な資源回収運動で、紙類、布類、びん類、缶類を回収しています。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. ほぼ毎回利用する  | 2. 半年に1回以上利用する |
| 3. 年1回以上利用する | 4. 利用しない       |

問21. あなたの家庭では、民間の資源回収ステーションをどの程度利用されますか。(最も近いもの1つに○を)

※市内にある民間の資源回収ステーションは、コシココ！(一番畑、上野台、三洋堂書店、加木屋)、リサイクルステーション(洞ヶ山、大府東海IC、横須賀、フィールホームタウン)、ヤマナカ(東海店、横須賀店)などです。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 月1回以上利用する | 2. 半年に1回以上利用する |
| 3. 年1回以上利用する | 4. 利用しない       |

問22. あなたの家庭では、ごみ出しや、ごみと資源の分別の方法、ごみに関する情報をどのような方法で主に入手していますか。(あてはまるものすべてに○を)

- |   |
|---|
| 1. ごみ収集カレンダー(全戸配布されているもの)                     |
| 2. ごみと資源の出し方(ごみ指定袋一斉配布と同時に配布されている冊子)          |
| 3. 市の広報紙(広報とうかい)                              |
| 4. 市のホームページ                                   |
| 5. 市のアプリ「東海なび」(ごみ出しの日やごみと資源の出し方などの情報を提供するアプリ) |
| 6. 市の窓口の人に聞く                                  |
| 7. 近所の人に聞く                                    |
| 8. 回覧板  |
| 9. 特にない                                       |
| 10. その他 ( )                                   |

問23. あなた自身が今後、ごみ減量とリサイクルをより進めていくには、ごみ出しやごみと資源の分別の方法などの情報を得る手段として、どの方法を充実してほしいと思いますか。(あてはまるもの3つまで選んで○を)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 各戸に配布するカレンダーやガイドブックの充実         |
| 2. 市のホームページの充実                    |
| 3. 市のアプリ「東海なび」の充実                 |
| 4. 市の広報紙(広報とうかい)の記事の充実            |
| 5. 回覧板の内容などの充実                    |
| 6. リサイクルフェアやフリーマーケットなどのイベントの開催・充実 |
| 7. ごみ出しやリサイクルの方法を教えてくれる出前講座などの充実  |
| 8. その他 ( )                        |

↓「東海なび」のダウンロードはこちら↓



(iOS版)



(Android版)

## IV. ごみの減量化・資源化についておたずねします

国際社会共通の目標であるSDGs(持続可能な開発目標)では、2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成することが定められています。資源を有効に活用し、環境への負荷をできる限り低減するため、ごみの全体量(資源も含む)を減らしていくとともに、資源化を促進する必要があります。

問24. あなたは、日常生活において、ごみの減量とリサイクルを心がけていると思いますか。(あてはまるもの1つ選んで○を)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

問25. あなたの家庭から出るごみの量は、今後減らす余地はありますか。(あてはまるもの1つ選んで○を)

1. 減らす余地はある
2. 減らす余地はない

問26. あなたの家庭から出るごみの内、資源の量を今後増やす余地はありますか。(あてはまるものを1つ選んで○を)

1. 増やす余地はある
2. 増やす余地はない

問27. あなたは「食品ロス」(※)という言葉を知っていましたか。(あてはまるもの1つに○を)

※「食品ロス」とは、本来食べられたはずなのに廃棄されてしまった食品のことをいいます。食品ロスの主な原因は、手付かずの食品や食べ残し、過剰除去(例えば大根の皮をむくとき、必要以上に厚くむくことなどです。)食品ロスは、日本国内で600万トン以上発生しており、国民1人1日あたりに換算すると約140g(ごはん茶碗1杯分)の食べ物が食品ロスとして捨てられている計算になります。

1. 言葉の意味を知っていた
2. 言葉を聞いたことはあるが、意味は知らなかった
3. 知らなかった



問28. あなたの家庭からやむを得ず発生する食品ロスのうち、一番多いものはどれですか。  
(あてはまるもの1つに○を)

(野菜の芯や魚の骨、貝がらなどの食べられない部分、茶がら・コーヒーがらは除く)

1. 食べられる部分を調理せずに捨てたもの【過剰除去】  
(野菜や果物の皮を厚くむき過ぎたものや、肉の脂身など)
2. 食べ残した料理や弁当、お菓子など、食べ切れずに捨てたもの【食べ残し】
3. 傷んだり、期限切れになるなどして、手つかずのまま捨てたもの【直接廃棄】
4. 上記の1.～3.のどれが一番多いかはわからないが、食品ロスを出したことはある
5. 食品ロスを出したことはない

問29. あなたは食品をやむを得ず手つかずのまま捨てたことがありますか。(あてはまるもの1つに○を)

1. ある ……⇒問30へ
2. ない ……⇒問31へ

問30. 【問29.で「1.ある」と回答した方にお聞きします。】食品をやむを得ず手つかずのまま捨てた主な理由は何ですか。(あてはまるもの1つに○を)

1. 消費期限の近い見切り品を買ったが食べなかった
2. 安売りや大袋サイズなどで大量に買ってしまい使いきれなかった
3. 家にあることに気付かずに新しく買ってしまい使いきれなかった
4. 家にあることを忘れて食べないまま消費期限が切れてしまった。
5. 好みに合わなかった。
6. 特に理由はない。
7. その他 ( )



問31. あなたの家庭で発生する食品ロスを減らすための取組状況と今後の取組意向についておたずねします。(①～⑥のそれぞれの取組内容ごとにあてはまる1～3の番号1つに○を)

取組項目	取組状況・今後の取組		
	1 続ける	2	3
①買い物に行く前に冷蔵庫の中身を確認している	1	2	3
②ばら売りや小袋サイズなどで必要な分だけ買っている	1	2	3
③消費期限・賞味期限を意識して買うようにしている	1	2	3
④食材の保存方法を工夫している(冷凍保存する、乾燥させて保存するなど)	1	2	3
⑤食べきを心がけている。	1	2	3
⑥調理方法を工夫し、野菜の皮・芯などの食材や、残った料理を無駄なく使っている	1	2	3

問32. レジ袋有料化が全国で開始された今年の7月1日以降、あなたの家庭では店舗でレジ袋を受け取る頻度はどうなりましたか。(あてはまるもの1つに○を)

- |                 |          |                     |
|-----------------|----------|---------------------|
| 1. 増えた          | 2. 少し増えた | 3. 以前から受け取っていたが変化ない |
| 4. 少し減った        | 5. 減った   | 6. 全く受け取らなくなった      |
| 7. 以前から受け取っていない |          |                     |

問33. 問32で4.、5.、6.を回答した方にお尋ねします。店舗でレジ袋を受け取る頻度が減った理由は何ですか。(主にあてはまるもの3つまでに○を)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. レジ袋を減らすことに以前から賛成であったから           |
| 2. 環境問題の解決に少しでも貢献したいから              |
| 3. 有料のレジ袋を利用するかしないか、店員とのやり取りが面倒だから  |
| 4. 他人の目が気になるから                      |
| 5. レジ袋にお金を払うこと自体に抵抗感があるから           |
| 6. 1回あたりは少額であっても積み重なると大きな金額になるから    |
| 7. レジ袋がなくても手で持っていくなどで対応できることがわかったから |
| 8. 家族の人数が減って、買い物の量や買い物に行く頻度が減少したから  |
| 9. 特に理由はない                          |
| 10. その他 ( )                         |

問34. あなたのごみ減量とリサイクルなどの日頃の取組状況と今後の取組意向についておたずねします。(①～⑬のそれぞれの取組内容ごとに あてはまる 1～3 の番号 1つに○を)

取組状況と今後 取組内容	1	2	3
	1 取り組んでおり、そのまま続ける	2 取り組んでいないが、今後取り組んでいきたい	3 取り組んでいないし、今後もし取り組まない
① 生ごみは、水切りをして減量している	1	2	3
② EM処理剤・生ごみ処理機等を使用して、減量化又は堆肥化している	1	2	3
③ 不用品を人に譲ったり、もらったり、バザー・フリーマーケットを利用したりしている	1	2	3
④ フリマアプリを利用している	1	2	3
⑤ 多く買い過ぎないようにしている	1	2	3
⑥ 詰め替え商品を買うようにしている	1	2	3
⑦ リサイクル資源を利用した商品を買うようにしている	1	2	3
⑧ 長く使えるものを買うようにしている	1	2	3
⑨ 過剰包装を断るようになっている	1	2	3
⑩ マイ箸、マイバッグなどを利用している	1	2	3
⑪ 飲み物は水筒等を利用し、ごみの削減に努めている	1	2	3
⑫ 故障や破損したものは、修繕・修理して使うようになっている	1	2	3
⑬ 家庭や地域で、ごみ減量とリサイクルのアイデアなどを話し合い実践している	1	2	3

## V. ごみ指定袋についておたずねします。

※次ページ以降の「東海市のごみ処理を取り巻く環境」についてご一読のうえ、ご記入ください。

問35. ごみ指定袋制度のあり方について、どのように考えますか。(あてはまるものに○を)  
また、その項目を選んだ理由もあわせてお答えください。

1. 現在の制度を続ける
2. 他の自治体のように1枚目から有料化する

「1. 現在の制度を続ける」を選んだ理由 (あてはまるものすべてに○を)

- ア ごみの削減につながるから
- イ 配布枚数内でおさまるようごみの削減を行っているから
- ウ 現在の制度を変更する必要が無いから
- エ 現在の制度がわかりやすいから
- オ 配布枚数内でおさまれば費用負担が少なく済むから
- カ 指定袋を買うなどの手間がかからないから
- キ 1枚目から有料化すると不法投棄やルール違反のごみ出しが増えそうだから
- ク 有料化によるごみの減量効果は一時的なものだと思うから
- ケ その他 ( )

「2. 他の自治体のように1枚目から有料化する」を選んだ理由  
(あてはまるものすべてに○を)

- ア ごみの削減につながるから
- イ ごみの削減努力と費用負担が適切で公平だから
- ウ 1枚目から有料にする制度がわかりやすいから
- エ 一定の費用負担はやむを得ないから
- オ ごみ処理にかかる税金が少なく済むから
- カ 現在の制度を変更した方がいいから
- キ 指定袋の引換え、容量交換などの手間がかからないから
- ク 世帯人数に指定袋の無料配布枚数が比例していないから
- ケ その他 ( )

### 〈東海市のごみ指定袋制度について〉

東海市では、ごみの減量、ごみ処理施設と最終処分場の延命、リサイクルの推進と循環型社会の形成を目指し、平成7年度（1995年度）からごみ指定袋制度を導入しています。

東海市のごみ指定袋制度は、各家庭に可燃用袋、不燃用袋、粗大ごみシールを一定枚数無料で配布し、無料配布枚数を超えるごみを排出される際には可燃用袋、不燃用袋、粗大ごみシールを購入していただく方法で有料化するもので、各家庭で可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみのそれぞれについてできるだけ無料配布枚数の範囲内に納めていただくことで、ごみの削減にご協力を頂いているものです。

また、平成15年（2003年）から資源用袋を導入するとともに、社会情勢にあわせペットボトルや容器包装プラスチック、小型家電など様々な品目のリサイクルを導入し、市民の皆様の積極的な資源化へのご参加により、ごみの減量は順調に進んでまいりました。

しかしながら、平成30年度（2018年度）より一人1日当たりの家庭系ごみの排出量が増加に転じ、改めてごみの減量と資源化を推進するため、ごみ指定袋制度のあり方について皆様のご意見を伺うものです。

## 1 東海市のごみ処理を取り巻く環境

### (1) 指定袋制度について

東海市は世帯人数に応じ一定枚数を無料配布する方式を採用しています。一方、1枚目からごみ処理手数料の一部を上乗せして有料で購入する方式は多くの自治体で採用されています。それぞれの特徴は次のとおりです。

方式	費用負担	削減効果
一定枚数 無料配布	• ごみの排出量を無料配布枚数以内にすれば、費用負担は生じない	• ごみの排出量を無料配布枚数以下に削減する効果は高いが、一層のごみ削減を促す効果は低い
1枚目から 有料	• 全ての世帯で指定袋を購入する費用が発生する • ごみの排出量に応じた費用負担となる	• ごみの減量努力が費用負担の削減につながるため、全ての世帯に対し削減効果が期待できる



【参考】ごみ指定袋制度・近隣自治体の状況

自治体名	東海市	知多市	大府市	東浦町	半田市	常滑市	名古屋市
指定袋制度の状況 ※1	一定枚数 無料配布 ※2	1枚目 から 50円	1枚目 から 6.6円※3	1枚目 から 45円	1枚目 から 50円※4	1枚目 から 50円	1枚目 から 7.4円※5
ごみ量※6	517g	531g	521g	560g	577g	475g	488g

※1 金額は可燃用袋1枚あたりの税込単価

※2 無料配布枚数を超えたら1枚あたり120円

※3 指定袋販売額にごみ処理手数料を含んでいない。なお、来年度よりバイオマスプラスチック製ごみ袋を導入するため、値上げ見込み（金額は未定）

※4 令和3年4月より「家庭系ごみ有料化」に伴い上記金額に値上げ

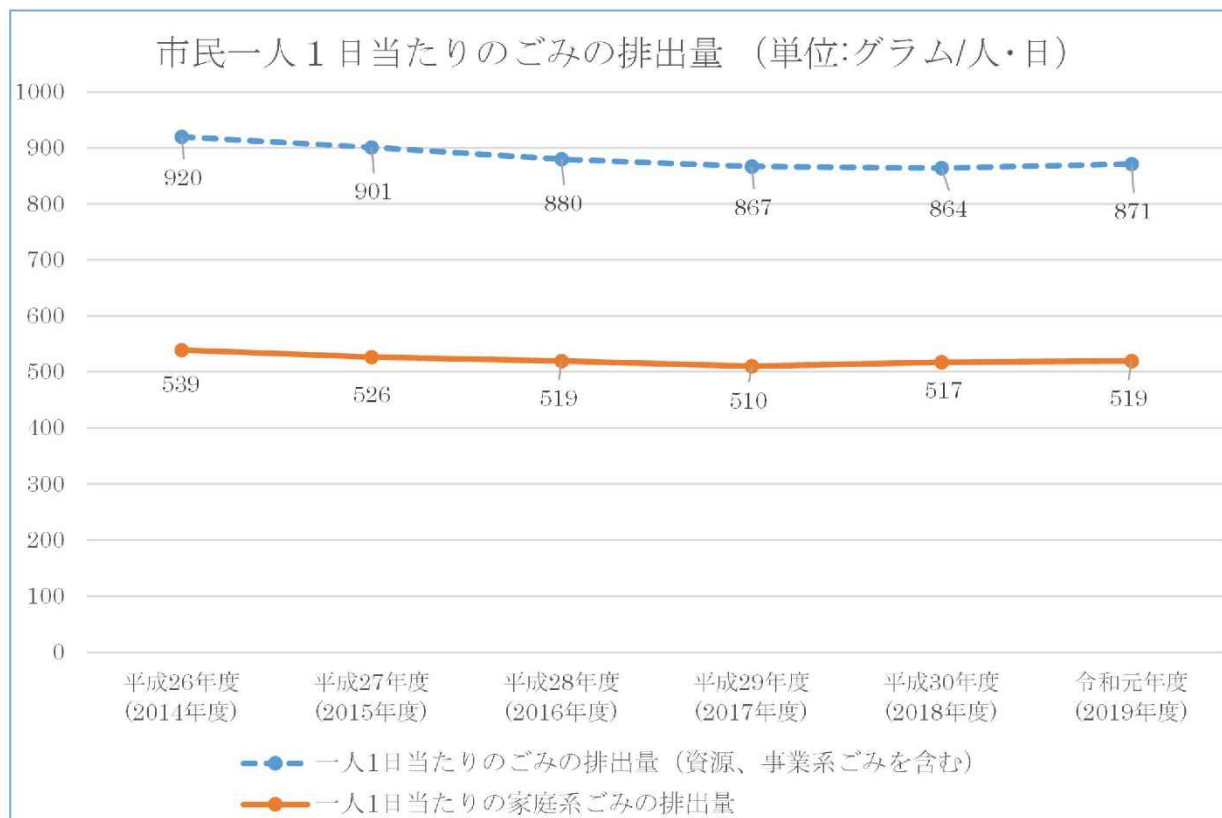
※5 指定袋販売額にごみ処理手数料を含んでいない。一律で販売価格を定めていないため、販売店ごとに金額が異なる（表記額は東海市近くに立地する総合スーパーの販売実績単価）

※6 一人一日あたりの家庭系ごみの量の平成30年度実績（g/人・日）

(2) ごみ処理の広域化とごみの削減目標について

東海市では、令和6年度（2024年度）の稼働に向けて知多市と共同で建設する新しいごみ処理施設“西知多クリーンセンター”の準備を進めています。

東海市、知多市それぞれに令和6年度末までに市民一人1日あたりのごみの総排出量を削減する目標が設定されており、東海市は目標値850gに対して令和元年度（2019年度）の実績は871gとなりました。近年は横ばいから増加に転じていることから、目標達成に向けて更なるごみの削減が必要です。



また、西知多クリーンセンターの建設費は約168億円となり、また、ごみの処理に毎年必要な6億円程度の費用は両市のごみ搬入量に応じて按分されるため、ごみの削減が進まなければ多額の負担金を貴重な税金から支払うこととなります。

なお、知多市では、平成29年(2017年)4月からごみ処理手数料の一部を上乗せしたごみ指定袋の1枚目からの有料化を実施しています。

この結果、知多市の家庭系ごみの排出量をごみ指定袋有料化前の平成28年度(2016年度)と令和元年度(2019年度)で比較すると、下表のとおり減少しています。

一方、東海市の家庭系ごみは、ほぼ横ばいで推移したことから、令和元年度(2019年度)の両市の家庭系ごみの比率は、東海市56.8%、知多市43.2%となり、令和2年(2020年)4月1日現在の両市の人口比率とほぼ同程度になっています。

	家庭系ごみ量と比率				人口と比率	
	平成28年度		令和元年度		R2(2020).4.1 現在	
	ごみ量	比率	ごみ量	比率	人口	比率
東海市	21,628t	52.2%	21,829t	56.8%	114,894人	57.4%
知多市	19,802t	47.8%	16,609t	43.2%	85,377人	42.6%

問 36. ごみ減量とリサイクルを推進するための、アイデア・ご意見を自由に記入してください。(調査の性格上、個別の回答はいたしかねますのでご了承ください。)

ご協力ありがとうございました。